

山 梨 県 北 杜 市

KASHIRANASHI・A-SITE

頭 無 A 遺 跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業(八ヶ岳南地区 長坂4工区)
に伴う埋蔵文化財発掘調査

2008

北杜市教育委員会
山梨県中北農務事務所

山梨県北杜市

KASHIRANASHI・A-SITE

頭無 A 遺跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業(八ヶ岳南地区 長坂4工区)
に伴う埋蔵文化財発掘調査

2008

北杜市教育委員会
山梨県中北農務事務所



頭無A遺跡 C区全景（南から）



C区 周溝墓群（真上から）



5号周溝墓（北から）



5号周溝墓 埋葬主体部（南から）



鉄剣出土状況



鉄剣出土状況



鉄剣



ガラス玉片



鉄剣

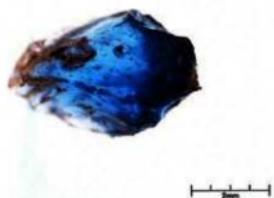


写真1(a) 遺物No.10075

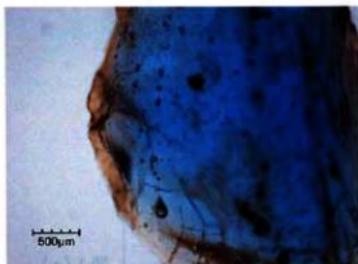


写真1(b)

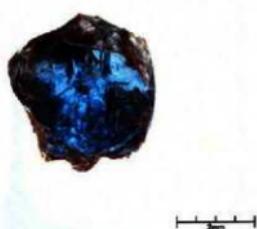


写真2(a) 遺物No.10076

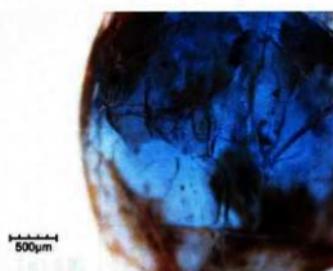


写真2(b)

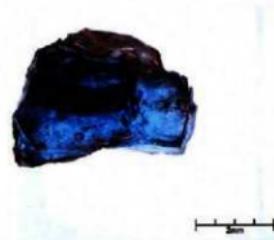


写真3(a) 遺物No.10077



写真3(b)



写真4(a) 遺物No.10074



写真4(b)

ガラス玉片拡大写真

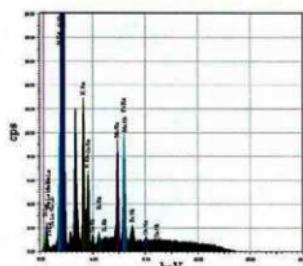


図1(a)
遺物No.10075

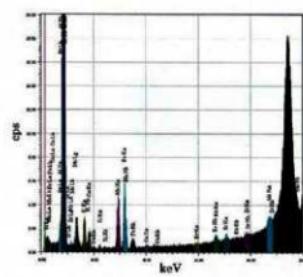


図1(b)

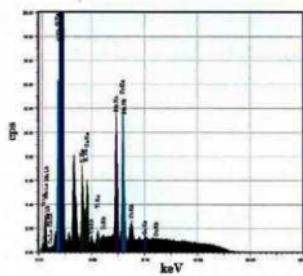


図2(a)
遺物No.10076

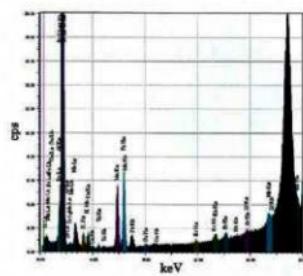


図2(b)

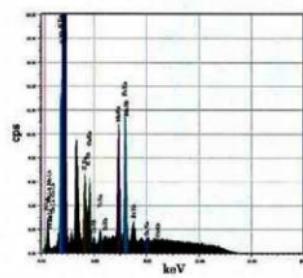


図3(a)
遺物No.10077

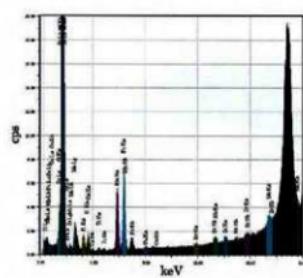


図3(b)

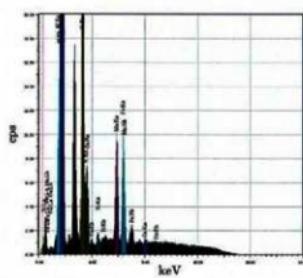


図4(a)
遺物No.10074

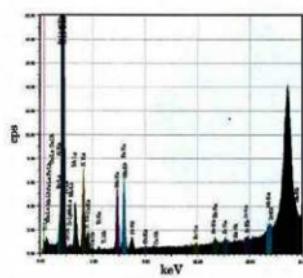


図4(b)

蛍光X線分析から得られたスペクトル

例　　言

凡　　例

- 本書は、2006(平成18)年度に実施した山梨県北杜市長坂町坂川地内に所在する頭無A(かしらなしー)遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 発掘調査は、中山間活性化ふれあい支援農道整備事業(八ヶ岳南地区・長坂4工区)に伴う事前調査であり、事業主体である山梨県中北農務事務所より委託を受けて北杜市教育委員会が実施した。
- 発掘調査は2006(平成18)年10月16日から2007(平成19)年2月22日まで実施した。整理作業・報告書作成については2007(平成19)年4月1日から2008(平成20)年3月31日まで実施した。
- 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関に委託した。
 - 航空写真撮影 瀬スカイ・サーヴェイ
 - 鉄劍・鉄劍の保存処理 神帝京大学山梨文化財研究所
 - 一部の石器分析・尖端磨削成 個人アルカ
 - ガラス玉片科学分析 山梨県立博物館
- 本書の執筆・編集は、村松佳幸(北杜市教育委員会生涯学習課長坂郷土資料館担当兼文化財担当)が行った。旧石器時代石器についての個人アルカ角張淳一氏に、ガラス玉片科学分析については山梨県立博物館齊名貴志氏に原稿を執筆していただき掲載した。
- 遺構・遺物の写真撮影は村松が行った。旧石器時代石器写真は個人アルカ角張淳一氏が、ガラス玉片拡大写真は山梨県立博物館齊名貴志氏が、鉄劍のレントゲン写真は神帝京大学山梨文化財研究所鈴木稔氏が撮影した。
- 本報告書に関する出土品及び記録図面・写真等は、北杜市教育委員会に保管している。
- 発掘調査および報告書作成にあたって以下の諸氏・諸機関のご協力・ご指導を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である(五十音順・敬称略)。
 - 山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県中北農務事務所、山梨県立考古博物館、山梨県立博物館
 - 石伸孝子、角張淳一、齊名貴志、小林健二、小林広和、下島誠美、杉山和穂、諒木稔、人工原豊、土屋了介、中山誠二、保坂和博、保坂康夫、三田村美彦
 - 八巻與志夫

1. 第7~9回の座標値は日本測地系(IH日本測地系, Tokyo Datum)の数値である。第7回のグリッドの左下と右上の座標値を世界測地系数値に変換すると以下のとおりである。

	日本測地系	世界測地系
左下 X座標:	20590.0 m	→ 20237.9550 m
Y座標:	-9520.0 m	→ -9801.7956 m
右上 X座標:	-20300.0 m	→ -19947.9655 m
Y座標:	9410.0 m	→ 9691.7962 m

遺構図版中の北を示す方位はすべて座標北である。

2. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構	測量区全体図: 1/1,200, 1/400, 1/200
住居跡・堅穴状遺構・溝	: 1/60
周溝墓	: 1/120, 1/60
土坑・ピット・炉跡・組石遺構ほか	: 1/30
遺物	上層: 1/3・1/4, 上製品: 1/2, ガラス玉片: 1/1 石器: 2/3・1/3・1/6, 鉄製品: 1/2・1/3

3. 遺構図版中の遺物分布のマークは、●が土器を、△が黒曜石を示す。遺構図版中の網掛けは焼土を示す。遺構図版中の断面図脇にある数値は標高を示す。

4. 遺物図版中の網掛けは磨面・木質部・様痕痕・赤彩・黒彩を示す。土器断面図中の黒塗りは須恵器を示す。拓影図で両面を載せているものは、外側・内側・断面の並びで配図している。

5. 遺構図版中の平面・断面図中の遺物番号・遺物実測図番号・遺物現京表番号は一致している。表中の括弧付き数値は残存値である。

6. 土層説明における土色表示は、小山正忠・竹原秀雄 2003『新版 種草土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財团法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

7. 第2回は、国土地理院発行 1/200,000 地勢図「甲府」(昭和55年編集 平成10年修正)を基に作成した。第3・5回は、国土地理院発行 1/25,000 地形図「若狭子」(平成元年発行)を基に作成した。第4・6回は、国際航業株式会社 1994年調査 1999年修正、1/10,000 長坂町全図を基に作成した。

頭無 A 遺跡 目次

例言・凡例	
本文目次	
図版目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査の経緯と概要	1
第1節 発掘調査に至る経緯	
第2節 発掘調査の概要	
第3節 発掘調査地歴	
第2章 地質・周辺の環境	2
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第3章 発見された遺構と遺物	3
第1節 基本層序	
第2節 旧石器時代	
第3節 縄文時代	
第4節 弥生時代	
第5節 平安時代	
第6節 時期不明	
第4章 調査の成果と課題	96
第1節 調査区内における遺構の変遷	
第2節 旧石器時代石器について	
第3節 縄文時代中期後半の集落について	
第4節 弥生時代中期の遺構・遺物について	
第5節 弥生時代後期の周防墓について	
第6節 5号周防墓埋葬土体部の出土遺物について	
1) 鉄劍	
2) 鉄劍	
3) ガラス玉片	
4) 墓葬状態の復元	
5) 鉄劍と鉄劍の川上の意義	
参考文献	99
附編	
頭無 A 遺跡出土のガラス破片の科学調査について	101

図 版 目 次

第1図 頭無 A 遺跡位置図	5
第2図 八ヶ岳南麓主要遺跡分布図 (1/200,000)	5
第3図 頭無 A 遺跡周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	6
第4図 頭無 A 遺跡周辺地形図 (1/5,000)	7
第5図 2006(平成18)年度試掘調査範囲および試掘坑紀要図	8
第6図 頭無 A 遺跡調査区位置図 (1/2,500)	9
第7図 調査区全体図 (1/1,200)	10
第8図 C区全体図 (1/400)、B区・C区基本層序	11
第9図 A区・B区全体図 (1/400)	13
第10図 遺構分布図① (1/200)	14
第11図 遺構分布図② (1/200)	15
第12図 遺構分布図③ (1/200)	16
第13図 遺構分布図④ (1/200)	17
第14図 遺構分布図⑤ (1/200)	18
第15図 遺構分布図⑥ (1/200)	19
第16図 遺構分布図⑦ (1/200)	20
第17図 旧石器時代石器①	21
第18図 旧石器時代石器②	22
第19図 旧石器時代石器分布図	23
第20図 6号住居跡	24
第21図 6号住居跡が、1号埋甕、2号埋甕出土遺物①	25
第22図 6号住居跡遺物出土状況	26
第23図 6号住居跡出土遺物②	27
第24図 6号住居跡出土遺物③	28
第25図 7号住居跡、炉、埋甕	29
第26図 7号住居跡遺物出土状況、出土遺物	30
第27図 8号住居跡	31
第28図 8号住居跡 1号炉、2号炉、1号埋甕、2号埋甕、1号ピット	32
第29図 8号住居跡遺物出土状況	33
第30図 8号住居跡出土遺物①	34
第31図 8号住居跡出土遺物②	35
第32図 8号住居跡出土遺物③	36
第33図 8号住居跡出土遺物④、住居跡変遷図	
6号住居跡住居変遷図	37
第34図 9号住居跡、炉、埋甕	38
第35図 9号住居跡遺物出土状況、出土遺物①	39
第36図 9号住居跡出土遺物②	40
第37図 11号住居跡、が、山上遺物①	41
第38図 11号住居跡遺物出土状況、出土遺物②	
1号炉跡	42

第39図	1～5号土坑、出土遺物	43
第40図	6・12・13号土坑、出土遺物	44
第41図	7・8・14号土坑、出土遺物	45
第42図	9・17・18号土坑、出土遺物	46
第43図	10・11・19・54号土坑、2号ピット 川上遺物	47
第44図	56・58・59・61号土坑、出土遺物	48
第45図	遺構外出土編文土器①	49
第46図	遺構外出土繩文土器②	50
第47図	遺構外出土縄文土器③	51
第48図	遺構外出土縄文土器④	52
第49図	遺構外出土縄文土器⑤	53
第50図	川上石器①	54
第51図	出土石器②	55
第52図	出土石器③	56
第53図	出土石器④	57
第54図	出土石器⑤	58
第55図	出土石器⑥	59
第56図	出土石器⑦	60
第57図	出土石器⑧	61
第58図	55号土坑、遺物出土状況	62
第59図	55号土坑出土遺物	63
第60図	1号鉢石遺構、遺物川上状況	64
第61図	遺構外出土弥生土器①	65
第62図	遺構外出土弥生土器②、1号鉢石遺構出土 石器	66
第63図	1号周溝墓	67
第64図	2・3号周溝墓	68
第65図	2・3号周溝墓遺物川上状況、山上遺物	69
第66図	4号周溝墓遺物山上状況、出土遺物	70
第67図	4号周溝墓、6号構	71
第68図	5号周溝墓	73
第69図	5号周溝墓遺物出土状況	75
第70図	5号周溝墓埋葬土部、出土遺物①	76
第71図	5号周溝墓出土遺物②	77
第72図	6号周溝墓	78
第73図	7・8号周溝墓	79
第74図	6～8号周溝墓遺物出土状況、出土遺物	80
第75図	1号住居跡、カマド	81
第76図	1号住居跡遺物出土状況、出土遺物	82
第77図	2号住居跡、カマド、川上遺物	83
第78図	3号住居跡、カマド、1～3号ピット	84
第79図	3号住居跡遺物山上状況、出土遺物	85
第80図	4号住居跡、カマド	86

第81図	4号住居跡遺物出土状況、出土遺物①	87
第82図	4号住居跡出土遺物②	88
第83図	5号住居跡、カマド、1号ピット	89
第84図	5号住居跡遺物出土状況、出土遺物①	90
第85図	5号住居跡出土遺物②、10号住居跡、遺物川上 状況、出土遺物、50号ピット山上遺物	91
第86図	1号堅穴状遺構、1・2号構	92
第87図	3・8号構	93
第88図	B区土坑・ピット群、C区土坑・ピット群	94
第89図	5号周溝墓埋葬形態推定図	100
第90図	遺構変遷図	102
第91図	周溝墓群の形成過程図	103
第92図	黒曜石産地推定判別図1	116
第93図	黒曜石産地推定判別図2	116
第94図	H本の黒曜石産地	117

表 目 次

第1表	頭無A遺跡周辺の遺跡地名表	6
第2表	スペクトルから得られたガラス破片の 構成元素	101
第3表	住居跡・周溝墓等遺構觀察表	104
第4表	土坑・ピット一覧表	107
第5表	土器觀察表	108
第6表	石器觀察表	114
第7表	5号周溝墓堆積土体部出土遺物觀察表	115
第8表	旧石器時代石器属性表	115
第9表	頭無A遺跡出土黒曜石製石器産地 推定結果	116
第10表	判別図に用いた産地原石判別群	117
第11表	頭無A遺跡出土黒曜石原塊組成	117
第12表	縄文土器遺構別内訳表	118
第13表	弥生土器遺構別内訳表	120
第14表	平安土器遺構別内訳表	121
第15表	出土石器遺構別内訳表	122

写 真 図 版

図版1 頸無A遺跡C区全景（南から）

C区周溝墓群（東上から）

3号周溝墓（北から）

図版2 5号周溝墓堆草土体部（南から）

鉄劍出土状況、鐵劍出土状況

鐵劍、鐵劍、ガラス玉片

図版3 ガラス玉片拡大写真

図版4 蛍光X線分析から得られたスペクトル

図版1 A区近景（北から）、B区北側近景（北から）

C区北側近景（南から）、C区南側近景（北から）

6号住居跡、6号住居跡炉、6号住居跡1号烟燒

6号住居跡2号埋甕

図版2 7号住居跡、7号住居跡炉、7号住居跡埋甕

8号住居跡、8号住居跡1号炉

8号住居跡2号炉、8号住居跡1号埋甕

8号住居跡2号埋甕

図版3 9号住居跡、9号住居跡炉、9号住居跡埋甕

11号住居跡、11号住居跡炉

55号上坑溝物山上状況

55号十坑埋設七器出土状況①

55号土坑埋設土器出土状況②

図版4 1号縦石遺構周辺遺物出土状況①

1号縦石遺構周辺遺物出土状況②

1号縫石遺構①、1号縦石遺構②

1号周溝墓（北から）

2号（奥）、3号（手前）周溝墓（東から）

4号周溝墓①（南から）、4号周溝墓②（北から）

図版5 5号周溝墓①（西から）、5号周溝墓②（南から）

5号周溝墓堆草土体部①（北から）

5号周溝墓堆草土体部②（東から）

5号周溝墓堆草土体部③（南東から）

鉄劍（手前）と鉄劍（奥）①

鉄劍（左）と鉄劍（右）②

図版6 5号周溝墓鉄劍出土状況

5号周溝墓鉄劍出土状況

5号周溝墓甕川上状況、6号周溝墓

7号周溝墓、7号周溝墓甕山上状況

8号周溝墓、1号住居跡

図版7 1号住居跡カマド、2号住居跡、3号住居跡

3号住居跡カマド、4号住居跡

4号住居跡カマド、5号住居跡

5号住居跡カマド

図版8 5号上坑、9号土坑、54号土坑遺物出土状況①

54号上坑甕物川上状況②、61号土坑、6号甕

B区土坑・ピット群、C区上坑・ピット群

図版9 旧石器時代石器

図版10 6号住居跡1号埋甕、6号住居跡山上土器①

6号住居跡2号埋甕、7号住居跡埋甕

8号住居跡1号埋甕、8号住居跡2号埋甕

8号住居跡出土土器①、8号住居跡出土土器②

8号住居跡山上土器③、8号住居跡出土土器④

図版11 55号上坑山上土器①、55号上坑出土土器②

5号周溝墓出土土器、7号周溝墓川上土器

6号周溝墓出土土器、8号周溝墓川上土器

2・4号周溝墓出土土器

遺構外出土灰生土器①

遺構外川土弥生土器②

図版12 鉄劍、鉄劍、鉄劍レントゲン写真

ガラス玉片、鉄劍の木質部

鉄劍の付着布

第1章 調査の経緯と概要

第1節 発掘調査に至る経緯

山梨県は、八ヶ岳南麓において南北に走る国道や地方主要道路を東西に結び、地域間の連絡・運搬を効率化するために中山間渋滞緩和を目的とした支援農道（以下、ふれあい支援農道）の整備を計画した。それは農産物及び畜産肥料などの流通・輸送を合理化し、地域の農業や農業の振興を促進するためでもあり、事業の推進が急がれた。

2000（平成12）年、長坂町立委員会（当時）を通じて長坂町教育委員会（当時）に、工事施工区間内の埋蔵文化財包蔵地有無の照会があり、その該当箇所を回答した。それ以来、長坂町内では段階遺跡、墳塚遺跡、上条宮久保遺跡が同事業に先立ち発掘調査されている。

同事業と並行して農道建設予定地西側に大規模太陽光発電実証研究施設建設の計画があり、2006（平成18）年度それに先立ち、農道整備部分を含めて試掘調査を実施した（第5図）。試掘調査の結果、縄文時代・平安時代・中世の遺構・遺物が確認され、特に縄文時代の遺構は中期後半の馬蹄形集落と推定され、農道整備部分にも縄文時代中期後半の集落の一部が存在することが分かった。事業主体である山梨県農政部中北農務事務所、北杜市役所農業課が農政課と協議した上で工事範囲2,600 m²を対象に、2006（平成18）年度に発掘調査を、2007（平成19）年度に整理事業・報告書刊行を実施することとした。

2006（平成18）年度の発掘調査経費は、5,455,855円で、調査経費負担協定に基づき山梨県中北農務事務所が5,450,000円を負担し、北杜市が5,855円を負担した。2007（平成19）年度の発掘調査経費（修理作業）は、3,061,339円で、調査経費負担協定に基づき山梨県中北農務事務所が3,040,000円を負担し、北杜市が24,339円を負担した。頭無入跡の発掘調査経費の総額は8,520,194円である。

この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

文化財保護法第94条による通知：平成18年9月28日付け中北農第1781号

同通知に係わる指示通知：平成18年10月13日付け教學文第1801号

調査経費負担協定書（発掘）：平成18年10月21日付け中北農第1789号-1

文化財保護法第99条による発掘着手報告：平成18年10月23日付け北杜牛学第789-4号

同条による発掘終了報告：平成19年2月22日付け北杜牛学第789-5号

発掘調査実施結果報告書（発掘）：平成19年4月13日付け北杜牛学第1058-2号

埋蔵物発見届：平成19年2月22日付け北杜牛学第789-6号

埋蔵文化財保管書：平成19年2月22日付け北杜牛学第789-8号

埋蔵文化財保管証：平成19年2月22日付け北杜牛学第789-7号

測量費負担依頼書（整理）：平成19年4月2日付け中北農第1590号

発掘調査実施請求報告書（整理）：平成20年4月9日付け北杜牛学第34号

本発掘調査の日程は以下のとおりである。

2006年9月14日～15日：調査対象範囲の除草

10月16日～20日：重機による表土剥離作業

10月23日～：発掘調査着手

2007年2月8日：航空写真撮影

2月22日：発掘調査終了

4月4日：修理作業着手

2008年3月31日：修理作業終了

第2節 発掘調査の概要

本道筋内における今回の調査は、農道整備ということもあり、南北約300m、東西約10mと南北に細長い形をしている（第4・6図）。既存道路との関係で調査区は3つに分かれ、北から順にA～C区として調査を行った（第7図）。A区は670 m²、B区は483 m²、C区は1,447 m²で、合計面積は2,600 m²である。

調査区は基準点測量を行い、この点に基づき調査区の南西側に原点を設け、そこから10m四方のグリッドを設定した。西から東に1～12、南から北へA～ADとグリッド名をつけた。

調査は、重機により表土層を剥ぎ、その後人力で遺構確認面まで掘削した。遺構確認面に至ると丁寧に精査を行い、順次遺構の確認を行った。遺物はある程度大きいものは出土した原位置で光波測量機による記録・取り上げ作業をし、小さいものについては一括遺物として取り上げた。遺構は土層断面・遺構平面図を光波測量機により図化した。調査の状況に応じて遺物川上状況や土壟断面・遺構完掘状況などの写真撮影を行い、C区の一部で航空写真を撮影した。

発見された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡5軒、平安時代の竪穴住居跡6軒、縄文時代の土坑11基・ピット1基、弥生時代中期の土坑1基、弥生時代後期の圓溝墓8基、溝7基、土坑55基、ピット129基、か跡1基、組石遺構1基、堅穴状遺構1基である。山上遺物は、縄文・弥生・平安時代の土器・石器が30箱分出土した。

第3節 発掘調査組織

発掘調査組織は以下のとおりである。

調査主体 北杜市教育委員会

事務局 教育長 小清水淳二（～平成19年11月）

櫻井義長（平成19年11月～）

生涯学習課長 原哲也（～平成19年3月）

原一元（平成19年4月～）

調査担当 村松伸幸

（長坂郷土資料館担当兼文化財担当）

発掘作業員 秋山かつみ 滝川八重子 浅野 好生

栗沢 美香 小尾トヨ子 加藤 歩美

菊地美千代 酒井 正道 清井ゆき枝

関 祐二 田中 彰 沢布久功二

豊浦 和子 名取 初子 野口 和政

口向豊茂子 矢ヶ崎健三 矢ヶ崎直清

矢ヶ崎 初

整理作業員 有野 明子 井川 由美 白倉めぐみ

清井ゆき枝 原 万紀子

現在、東隣の舌状台地上に中央自動車道が南北に走っている。遺跡南端には両台地の間の沢を利用した灌漑が作られ、同辺出渠への灌漑用水として利用されている。

第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺には台地上を中心とする複数の遺跡が存在する。本調査区の北端で夏秋地区と塚川地区との境界がある。向地区で調査された遺跡をいくつか紹介する。

塚川地区では、本遺跡から南東約200mのところに頭蓋骨遺跡があり（第3図4120）、1973（昭和48）年に中央自動車道建設に先立ち発掘調査された（山梨県教委1975）。縄文時代中期後半と古墳時代前期の集落が発見された。中期後半は労働1式～V式期の住居跡16軒あり、環状集落の半分が調査された。

塚川十二塚群は、1969（昭和44）年に中央自動車道建設により東前田遺跡として範囲調査されている（山梨県教委1970）。十三塚と呼ばれる小石群の調査ではあったが、出土遺物はなく時期や性格を論じるだけの考古学的新拠は見つからなかった。

宮久保遺跡は、1997（平成9）年に団体営園場整備事業に先立ち発掘調査されている（長坂町教委1999）。縄文時代中期末～後期初頭の住居跡2軒、後期前半の石室住居跡2軒、後期前半の弧状の列石遺構1基、平安時代の堅穴住居跡4軒・壇立柱建物跡1棟、中世の堅穴状遺構2基、集石遺構2基、溝状遺構2条などが発見された。

下村遺跡（第3図4127）は、2006（平成18）年に農道改良工事に伴い発掘調査され、中世の堅穴状遺構1基・溝9条・地下式坑1基などが発見された。

塚川の上岸は、本遺跡から南に約1kmのところにある（第3図4126）。発掘調査はされてない。台地を横断するように東西方向に造られ、約100mが現存している。堅穴の七星と考えられるが、その伝承ではなく、性格は不明である。

夏秋地区では、本遺跡から北東約500mのところに夏秋大字古墳がある（第3図4189）。中央自動車道の脇に存在し、一部露頭され石室が露出している。昭和初期に発掘された記録が残り、人骨や大刀・馬具・土器などの副葬品が石室内の見取図とともに記されている（北巨摩郡教育会1932）。

本遺跡から北約100mのところに大々神十三塚がある（第3図4113）。現在、探らしきマウンドが4基存在するがその性格は不明である。平成13年に宅地造成に伴い発掘調査が行われ、塚からやや離れたところから平安時代住居跡2軒が発見されている。

第3章 発見された遺構と遺物

第1節 基本層序

A～C区の基本層序は次の通りである。A区の基本層序は示しなかったが、暗褐色の表土層の下に褐色土があり、その下は直ぐに黄褐色土層になる。黄褐色土で遺構確認面となり、その深さは現地表面から約20cmである。B・C区とも遺構確認面までの深さは同様である。

B区は第8図のとおり、上から暗褐色土層、褐色土層、にぶい黄褐色土層である。3層は2層から変化する漸層層と考えられる。遺構確認面は3層上面である。旧石器時代石器は、一部は2層や遺構内から出土しているが、主に3層から出土した。

C区は第8図のとおり、上から暗褐色土層、褐色土層、にぶい黄褐色土層、黄褐色土層である。2層は遺物包含層であり、3層上面が遺構確認面である。

第2節 旧石器時代

旧石器時代遺物と考えられる石器を選び出し、翻訳に付記等の整理を委託した。以下はその所見である。

1) 頭無△演跡の石器《翻アルカ》

1. 石器の選択

石器はあらかじめ教育委員会から選択されたものを、さらに選択を重ねて20点の右器を提示することにした。ナイフ形石器が2点出しているので、その石質・剥離面の風化に近い石器を選択した。結果は、黒曜石が18点、頁岩1点、水晶1点となった。

なお、この選択は肉眼での選択であるので、縄文時代の石器が部分的に混在している可能性もある。

2. 右器の説明（第17・18図）

ナイフ形石器（1と2）は、側縁基部加工のナイフ形石器である。とくに1のナイフ形石器は調整打面をもつ打面を残しており、先端が開いたのが特徴である。こうした調整打面の右刃は間接打撃の可能性が高い。2のナイフ形石器は1とほぼ同じであるが、打面と先端が欠損している。

3は頁岩の右刃で、巾の狭い平坦打面をもつ。コーン形状からはソフトハンマーである。剥離面が捺れていることから直接打撃の所産であろう。

4は使用痕のある右刃である。打面・末端辺とともに折れている。裏面右辺に連続したマイクロフレイティングがみられるが、これは対象物に押しつけて搔き取るようにした際にできるものである。またマイクロフレイティングの形状が均一で剥離痕がやや深いため、対象物は黒曜石

よりも硬い物体であろうと推定される。5は水晶の細長剥片である。水晶は非常に硬く、割れにくい。おそらくハードハンマー（素材は水晶と同等の硬さの石など）の直接打撃であろう。打面が線状のため、作業面の線をこするように剥離作業が行われたと思われる。

6は楔形石器とした。裏面の右向こうの剥離面のみがボジ面で、その他の面はすべてネガ面である。背面の上方から剥離面はコーンが潰れた状態で残り、背面末端辺の下方から剥離面はコーンが吹き飛んでいる。こうした状態の剥離面ができるには、台石の上にこの石器を置き、上方から垂直打撃を行うのが妥当である。したがって楔形石器とした。しかし、何度も打撃を繰り返しているわけではなく、数回の打撃でとどまっている。

7は剥片材の石核転用の使用底右器である。背面に向こうから抜器の加工状の剥離面があるが、これは右核の歪んだ後縁を矯正するための右核調整加工である。裏面の手前に下方向からの剥離面が2枚あるが、これは主要剥離面を切っており、この石器が縦長剥片の分厚い末端辺を打面に、主要剥離面を作業面とした石核であることがわかる。その剥離作業は2枚の剥離面で終わっているが、打面となる元の剥片の末端辺はステップ状に折れており、やや不可解な打面となっている。そして、その後に裏面右側に向こうにマイクロフレイキングが付いている。8はソフトハンマーの直接打撃の使用底剥片である。簡便面の平坦打面で、コーンが歪んでいるのがよくわかる資料である。.

9は平坦打面の縱長剥片。剥離輪にねじれが無く、打面厚も3mmと小さい。おそらくソフトハンマーのパンチによる間接打撃であろう。10は木端が石核底面まで取り込まれた石刀である。調整打面で、ソフトハンマーのパンチによる間接打撃と思われる。11は右核成形剥片である。平坦打面で、打面厚2.4mm。ソフトハンマーのパンチによる間接打撃であろう。背面には旧作業面の縦長剥片剥離面が複数できる。12は剥片断片。13は右側辺にわずかに旧作業面が残るので、打面再生剥片であろう。打面は点状で、ハンマーが右核縫辺を擦るようにして剥離されたものである。

14、15は剥片。16は剥離の開始部が曲げタイプの剥片である。従ってコーンはみられない。剥離角が150°であることが、曲げの剥離を示している。17は打面と末端辺が欠けている石刃である。18は二次加工剥片とした。加工は打面を切るように反方向からの剥離があり、また右側辺を叩き折っている。このような加工は、しばしば縄文文化にみられる削器にあるので、この石器が旧石器時代のものであるのかは、加工の点で確認がもてない。

しかし素材は両敲打面の石刀である。こうした石器は類例が必要である。19はハードハンマーの直接打撃の剥片、20は偏平で小形の原石である。

3. 石器群の構成と編年的位置

この石器群の特徴は2つある。それは一側縁基部加工のナイフ形石器をもつ石刃石器群であること、もうひとつは黒曜石の原産地が蓼科冷山群に偏っていることである。ナイフ形石器の特徴からは、南関東のⅦ層相当の石器群に類似するが、一側縁の基部加工は類例を求めなくてはならない。原産地の問題は、こうした編年的位置相当の石器群が存在するか否かを課題としなければならないだろう。いずれにしても、蓼科冷山群の黒曜石に偏在する石刃石器群が稀少例であることは今のところ確かであろう。

（文責：角張洋一）

第3章 繩文時代

繩文時代の堅穴住居跡は、6・7・8・9・11号住居跡の5軒発見された。いずれもC区南側からの発見である。6～9号住は曾利IV式湖、11号住は曾利IV～V式期に帰属する。6～9号住は埋甕を作り、6・8号住は堆甕が2基確認されており、それぞれ扯張された住居と考えられる。かは右が抜かれていたが、11号住を除き石圓かであろう。6・8号住は5本の主柱穴をもつ住居である。5・6・7・9・10・11・12・13・14・54・56号土坑と、2号ピットが純文時代のものと考えられる。

縄文土器は曾利式土器が数多く出土し、次いで中期末の土器が多く出土した。曾利式の中でも曾利IV式の山上が多い。¹⁰ 鉢・台式・猪汎式・斬道式・藤内式・井戸圓式の中層前半の上器は數点しか出土していない。後期初頭の種名式下、後期前半の屋之内式も数点の出土である。

6号住から十個4点・十鉢1点が出土している。14号土坑から土錠が1点出土している。

各住居跡の詳細は第3表、各土器・石器の詳細は第5・6表を参照されたい。

第4節 弥生時代

縄石遺構がA区から1基発見されている（第60図）。方形の石圓がのような形態で、区間に縁が埋まっていた。焼土や炭化物が確認できなかったので炉と断定はできない。遺構内から弥生中期条痕文土器片がわずかに出土している。周辺からも条痕文土器や石器と考えられる打製石斧が出土している。おそらく握り込みがごく浅い堅穴住居か、平地式住居であったと思われる。

55号土坑は弥生時代中期の上坑で、長軸1.68m、短軸

1.42m、深さ40cmである（第58図）。底部から小型壺の調査部が正位で出土し、南壁に石皿が立てかけられていた。覆土中から数多くの条痕文土器と、黒曜石や石礫等の石器も出土した。人骨は出土していない。壺の調査部が出土しているので墓壇とも考えられるが、貯蔵穴の可能性も否定できない。

弥生時代後期の周溝墓が8基発見された。全てC区に存在し、南北約70mの範囲に造られている。方台部の大きさから2つのグループに分けられる。10～13mの大型のものが3基（1・4・5号周溝墓）、5～6mの小型のものが5基（2・3・6・7・8号周溝墓）である。溝の共有は2・3・5号周溝墓だけで、それ以外はそれぞれ独立して造られている。1・4号周溝墓の土輪はほぼ同じであるが、5号周溝墓の土輪は異なる。これは、1・4号周溝墓と5号周溝墓とでは築造時期に差があった可能性がある。6・8号周溝墓は、遺構全体を調査していないので断定できないが、円形になる可能性がある。

5号周溝墓の中央に埋甕主体部が1基確認され、その中から鉄劍1振・鉄劍1点・ガラス玉片4点が出土した（第70・71図）。

遺構外からは弥生時代中期～後期の土器が出土している（第61・62図）。後期の土器は周溝墓群周辺から川上しているが数は少ない。中期の土器はA区とC区を中心にして数多く出土している（第69図）。

各遺構の詳細は第3・4表、各遺物の詳細は第5・6・7表を参照されたい。

第5節 平安時代

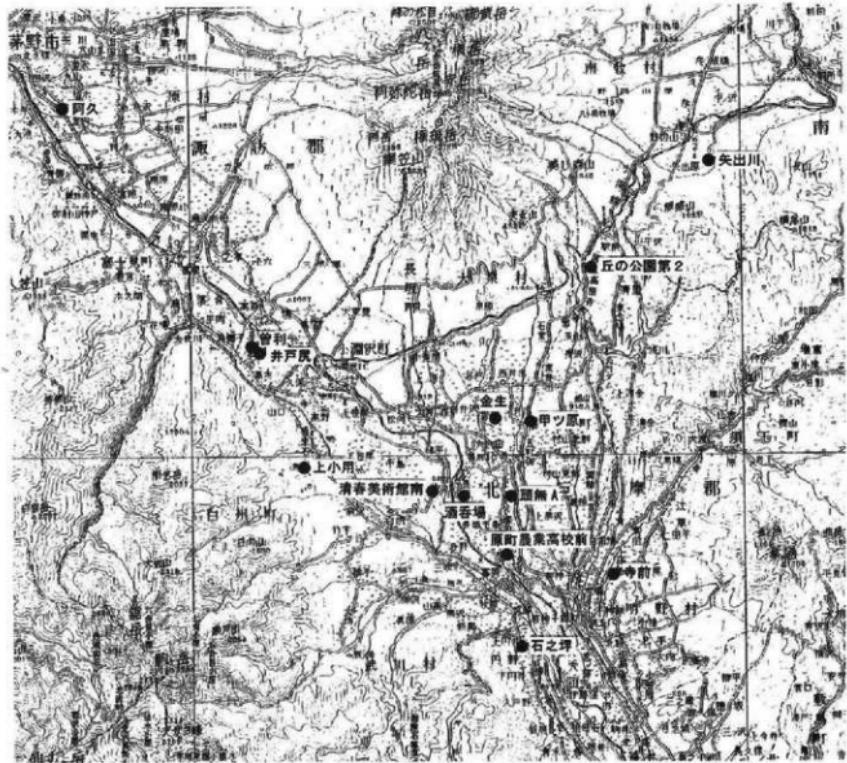
平安時代の堅穴住居跡は1・2・3・4・5・10号住居跡の6軒発見された。1号住はA区、2号住はB区、3・4・5・10号住はC区にある。縄文時代の住居跡や弥生時代の周溝墓より広い範囲に分布する。帰農時期は、出土した甲斐型坏等から判断し、3号住が宮ノ前編年VI期（830～860年頃）、2・4・5・10号住が同VII期（860～890年頃）、1号住が同VIII期（890～920年頃）と考えられる。9世紀中頃から10世紀初頭の集落である。カマドが確認できた1～5号住では全て東壁に構築されていた。中でも2号住のカマドは南東壁に近くに作られている。50号ピットから土錠が1点出土し、形態から平安時代のものであろう。詳細は第3・5表を参照されたい。

第6節 時期不明

土坑55基、ピット129基、1号堅穴状遺構・1～6・8号溝が時期不明な遺構である。詳細は第3・4表を参照されたい。なお7号溝は欠番である。



第1図 頭無A遺跡位置図



第2図 八ヶ岳南麓主要遺跡分布図 (1/200,000)



第3図 頭無A遺跡周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

第1表 頭無A遺跡周辺の遺跡地名表

遺跡No	遺跡名	時代	遺跡No	遺跡名	時代	遺跡No	遺跡名	時代
4063	柳平B遺跡	國/平/古/平	4139	新原遺跡	縄	3087	高内B遺跡	縄/平/中
4064	小塙數遺跡	縄/平/中	4140	相吉丘遺跡	中	3088	老ヶ森B遺跡	縄/平/中
4065	久風原遺跡	縄	4142	松尾丘遺跡	中	3089	西ノ原B遺跡	縄/中
4066	成瀬遺跡	縄/古/平	4164	大林遺跡	旧/縄/江	3090	萬原B遺跡	縄/中
4068	山田丘跡	平	4167	西尾遺跡	古	3091	宮原遺跡	縄/平
4069	石川丘北遺跡	縄/平/中	4168	上町南遺跡	縄	3092	御所遺跡	縄/平/中
4070	石川原東遺跡	縄/平	4169	鶴角西遺跡	縄/古/平/中	3093	柳原B遺跡	縄/平/中
4071	坂下遺跡	縄/古/中/近	4170	鶴角遺跡	古/平	3094	津原遺跡	平/中
4101	上町人跡	縄/平	4171	長坂上条遺跡	縄/古/平/平	3095	中央八A遺跡	縄/平/中
4103	東村人跡	縄/平	4175	和田遺跡	古/古/平	3102	藤原八A遺跡	縄/中
4104	東村行遺跡	古/余/平	4176	古里敷遺跡	縄	3103	宮原前八A遺跡	縄
4105	中村行遺跡	古/余/平	4179	沢尻上町遺跡	縄	3105	宮原の市B遺跡	縄
4106	鍋田行遺跡	平	4181	柳坪南遺跡	平/江	3106	西久保遺跡	縄文/半表
4107	西村行遺跡	古/余/平	4182	柳坪北遺跡	縄/古/平	3107	後原遺跡	縄/古/中
4108	中反行遺跡	縄/平	4185	春香塙東遺跡	縄/古/平	3108	長崎八A遺跡	縄/古/平/中
4110	長岡行遺跡	古/平/中	4186	山木道跡	縄	3109	長崎・後原遺跡	縄/平/中
4111	白山神社前遺跡	平	4187	北村東遺跡	縄/古	3110	長崎B遺跡	縄/平/中
4112	上ノ星款遺跡	縄/平	4188	大久保遺跡	縄/中	3111	中久保B遺跡	縄/平/中
4113	大穴神三塚	平/中	4189	天王塙古墳	古	3112	宮原坂八A遺跡	縄/中
4114	大穴A遺跡	平	4195	扇屋遺跡	縄/平/中	3113	宮原坂B遺跡	縄/中
4115	大穴B遺跡	古/平	4196	竹原田北遺跡	縄	3114	宮尾根C遺跡	縄/平
4116	油部田遺跡	田/古/余/平/中	4206	長坂上条・那塙	古/平	3116	炳井八A遺跡	平/中
O 4117	頭無A遺跡	田/古/余/平/中	4207	地之程遺跡	縄/平	3117	西ノ入遺跡	縄/平/中
4118	桜木遺跡	古/古/平	4208	道遺跡	縄	3119	東入遺跡	縄/古
4119	坂川・柳坪遺跡	縄/江	4210	猿塙遺跡	縄/古/平	3120	宮原戸遺跡	縄/古/中
4120	銷上(二木本)遺跡	縄/古/中	4211	上条宮保遺跡	縄/平/江	3130	舟山遺跡	縄/古/中
4121	新田遺跡	縄	3072	高原原A遺跡	縄/平/中	3133	西ノ原遺跡	縄/古/中
4125	上久保遺跡	縄/平	3076	神明遺跡	平/中	3139	老ヶ森八A遺跡	縄/中
4126	坂行の土塼	中	3082	東田・原庭數遺跡	縄/平/中	3141	柳原A遺跡	縄/平/中
4127	下村行跡	中	3083	石田原前遺跡	縄/平/中	3144	庄の公園前遺跡	縄
4128	坂行川・三塚群	縄	3084	上/反/遺跡	縄/古/平/中	3149	下風呂遺跡	縄
4134	今前遺跡	縄	3085	高内A遺跡	縄/平/中	3152	上原原遺跡	縄/中
4138	北村遺跡	縄/古/中/	3086	大正寺遺跡	縄/平/中			



第4図 頭無A遺跡周辺地形図 (1/5,000)

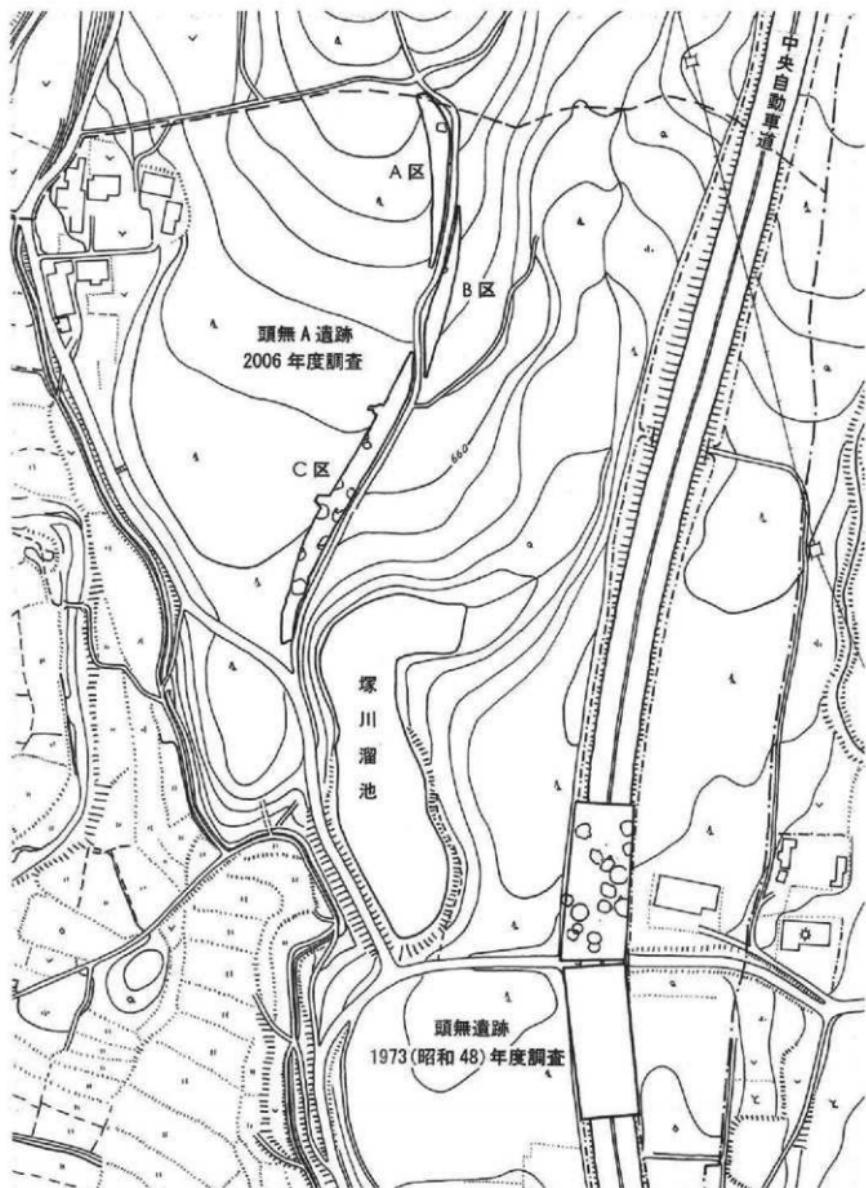


2006(平成18)年度 試掘調査範囲

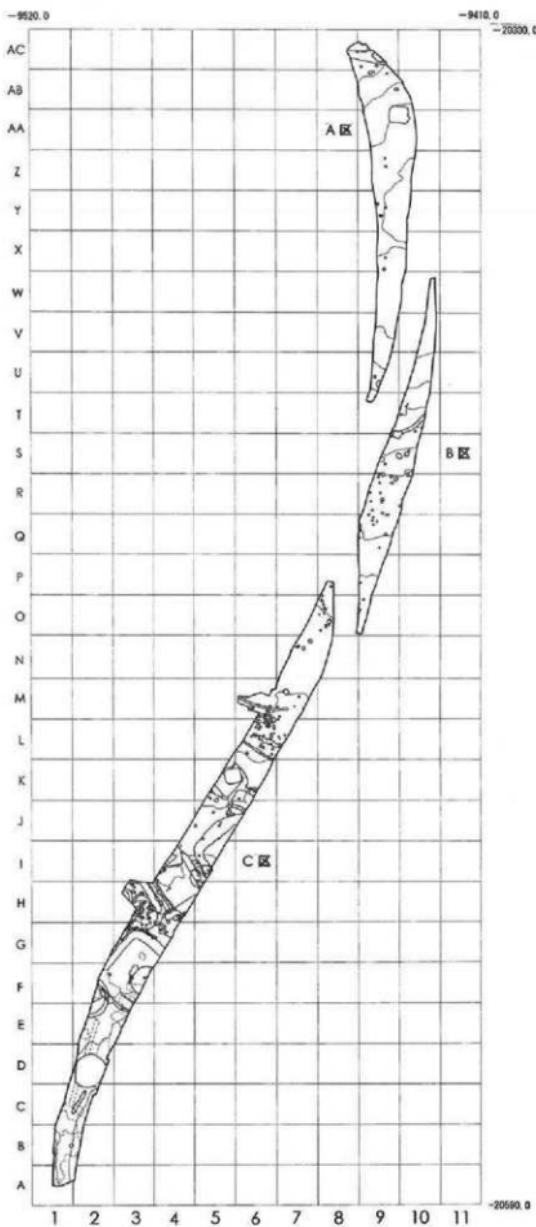
試掘坑配置図



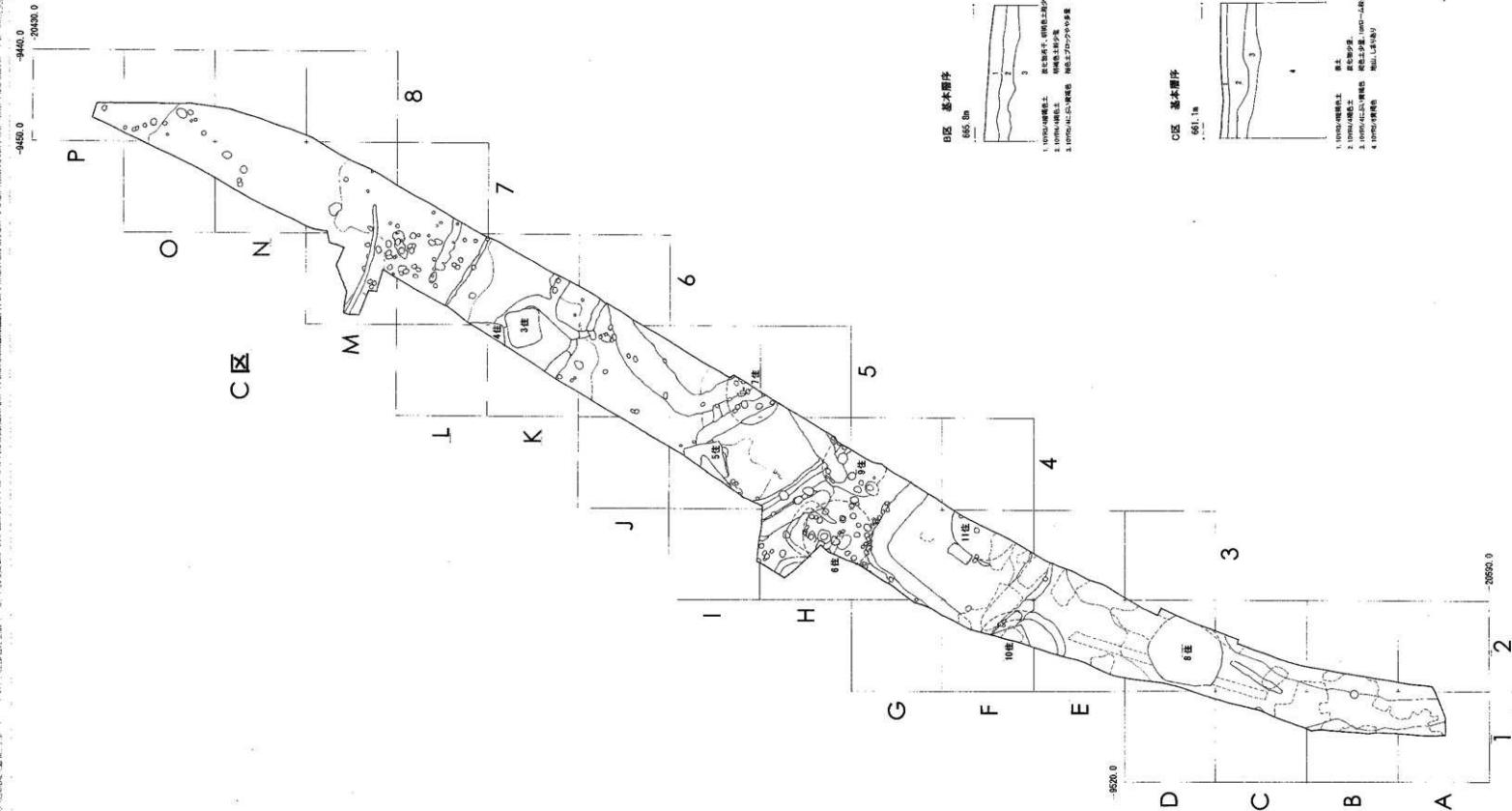
第5図 2006(平成18)年度 試掘調査範囲および試掘坑配置図



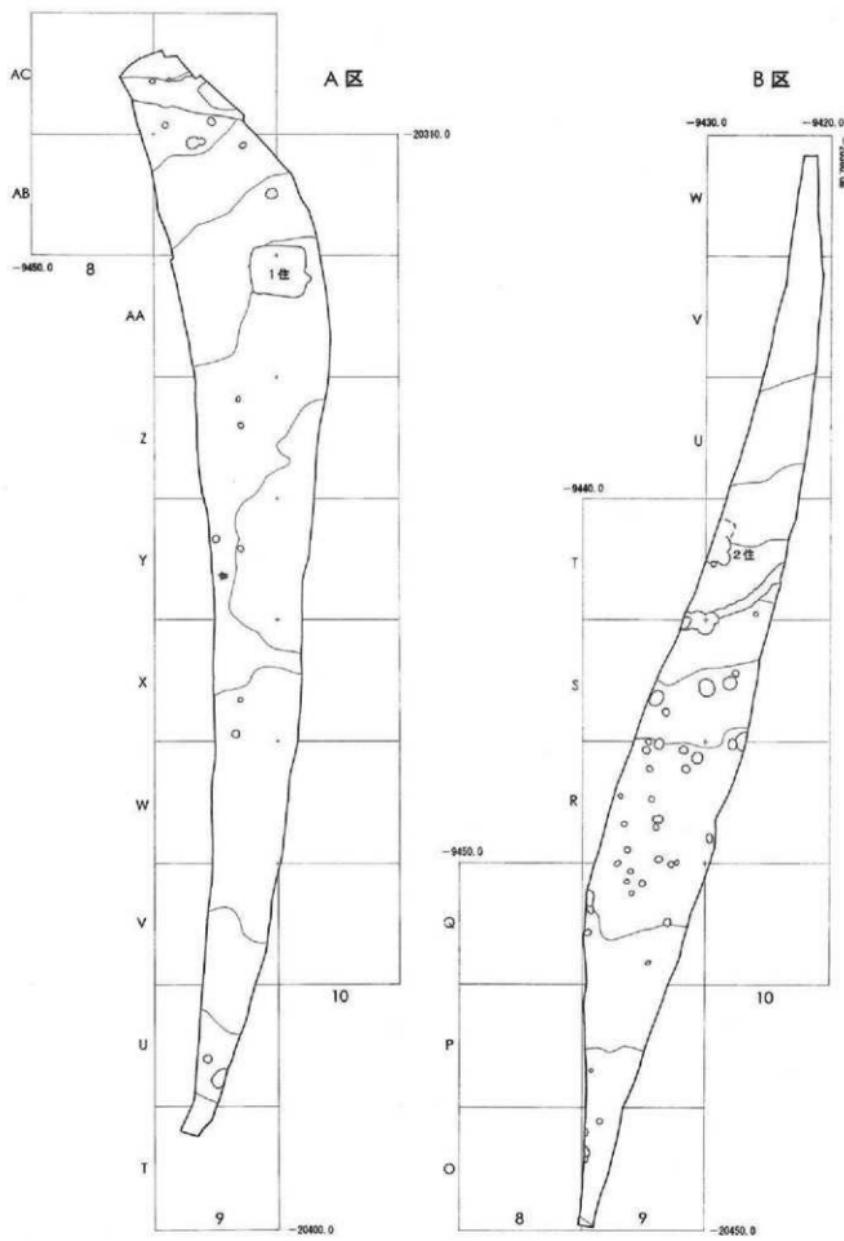
第6図 頭無A遺跡調査区位置図 (1/2,500)



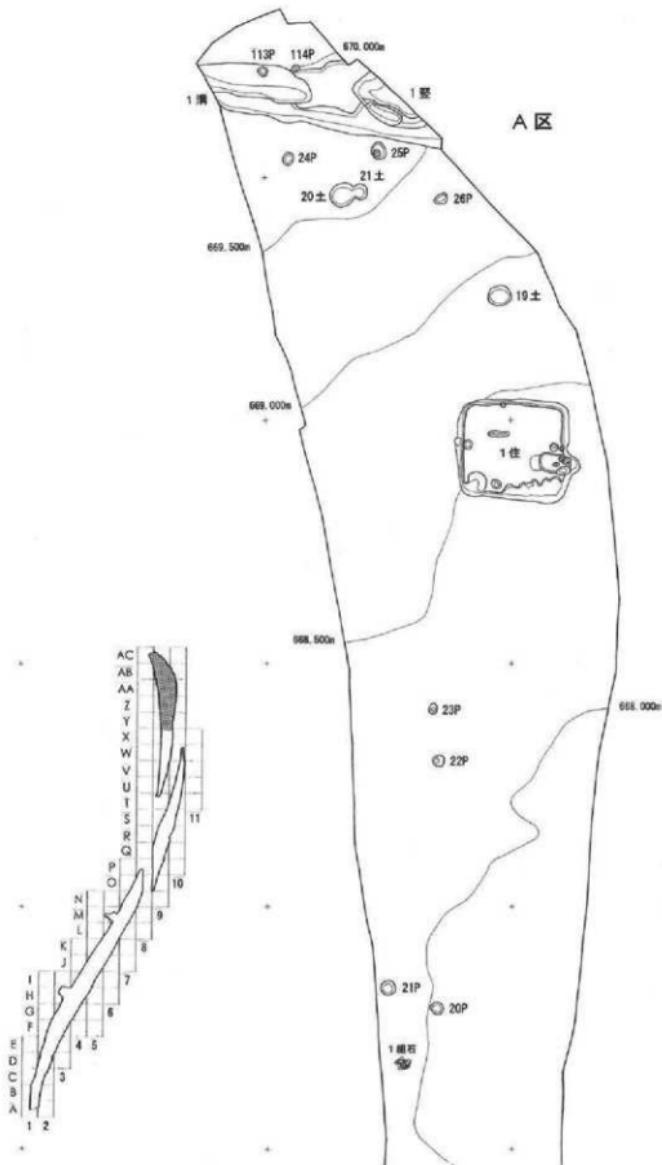
第7図 調査区全体図 (1/1,200)



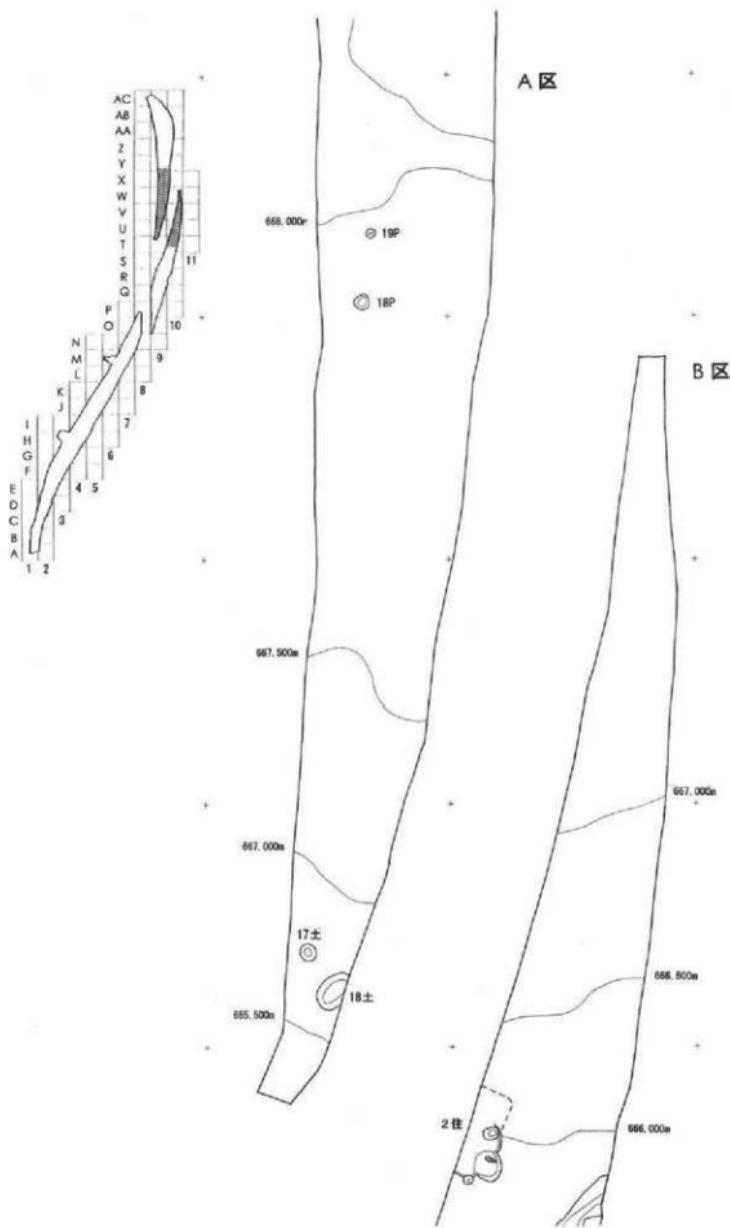
第8図 C区全体図 (1/400)、B区・C区基本層序



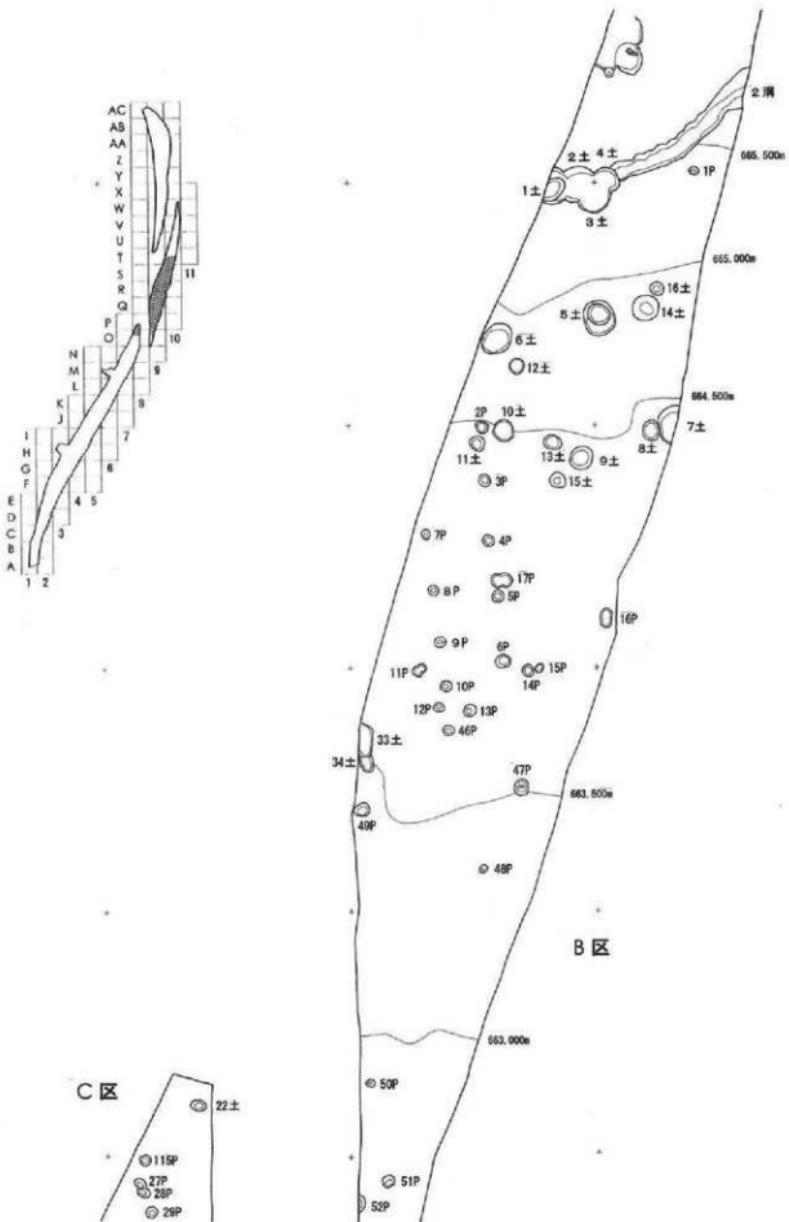
第9図 A区・B区全体図 (1/400)



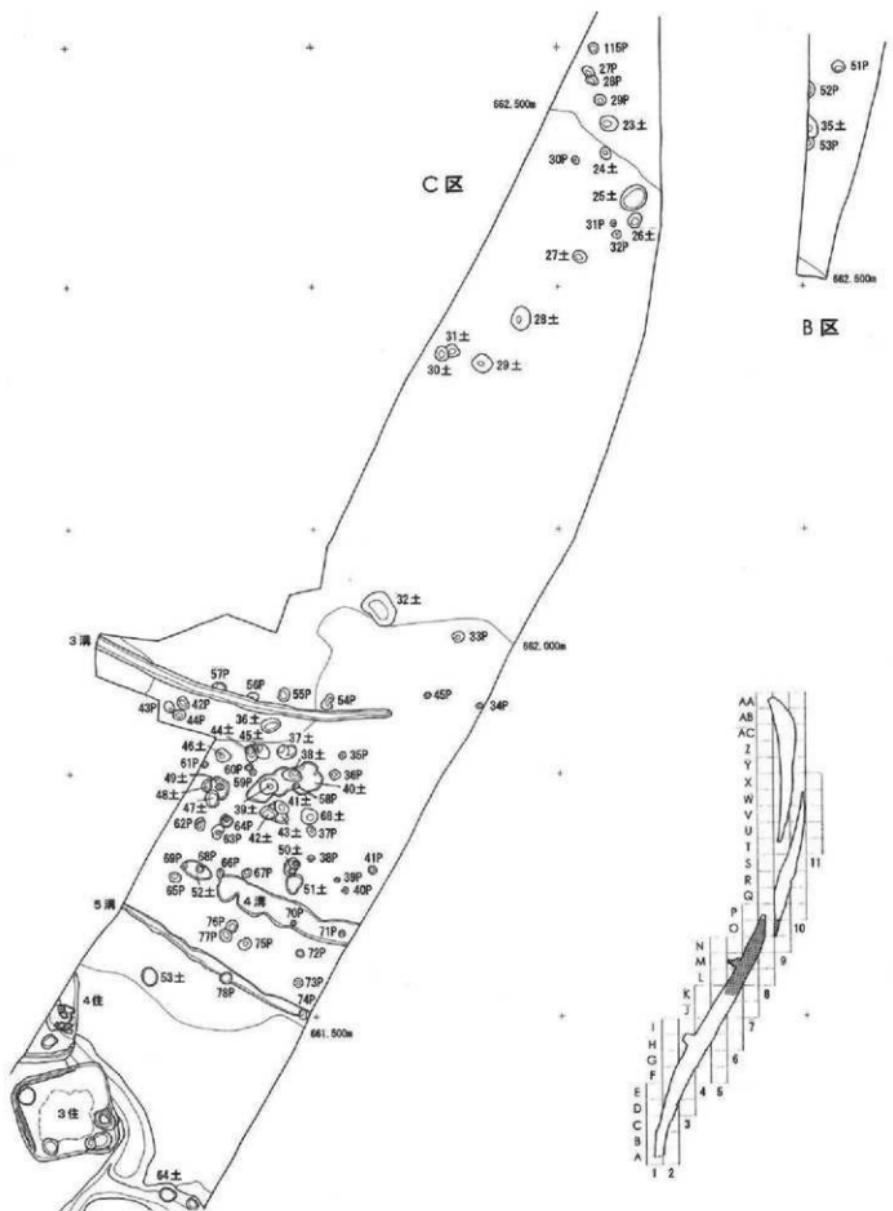
第10図 遺構分布図① (1/200)



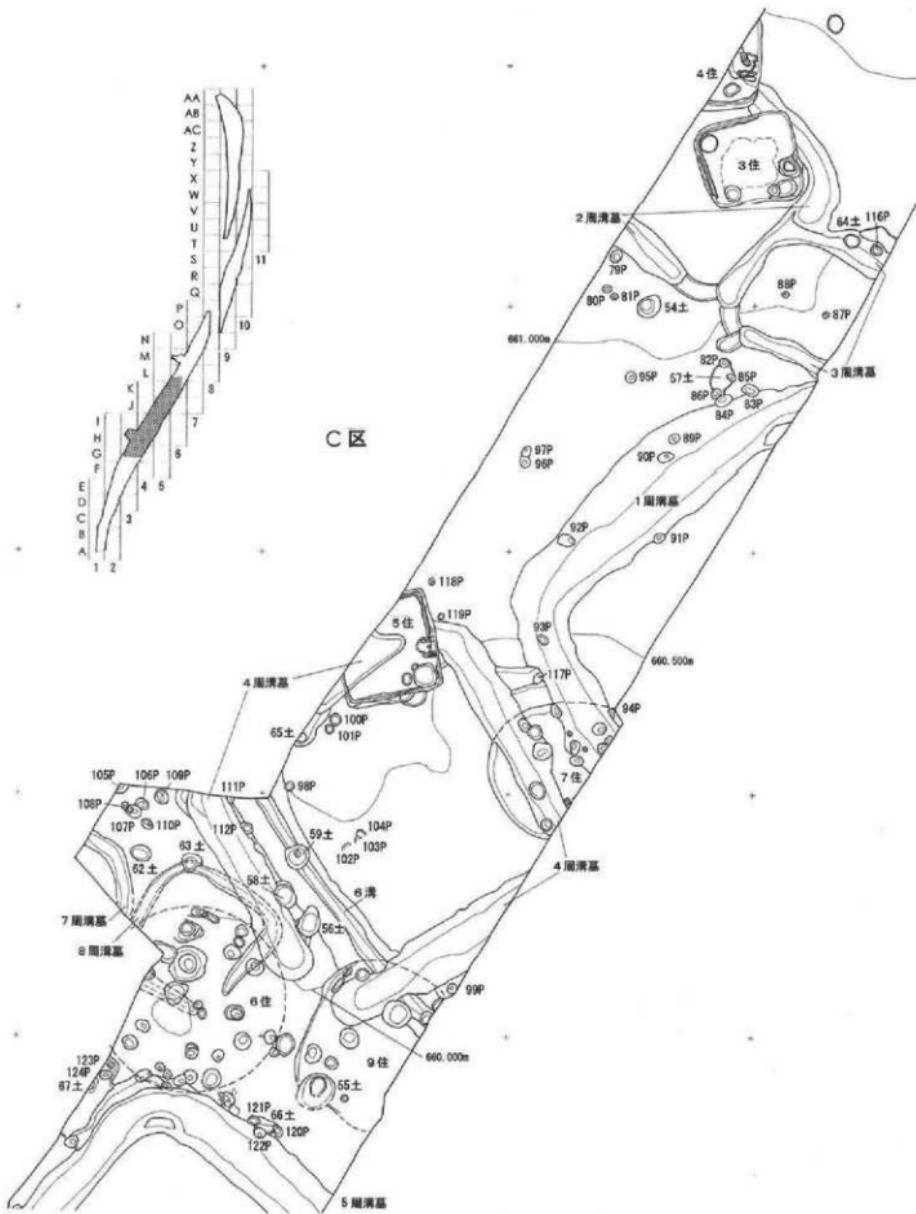
第11図 遺構分布図② (1/200)



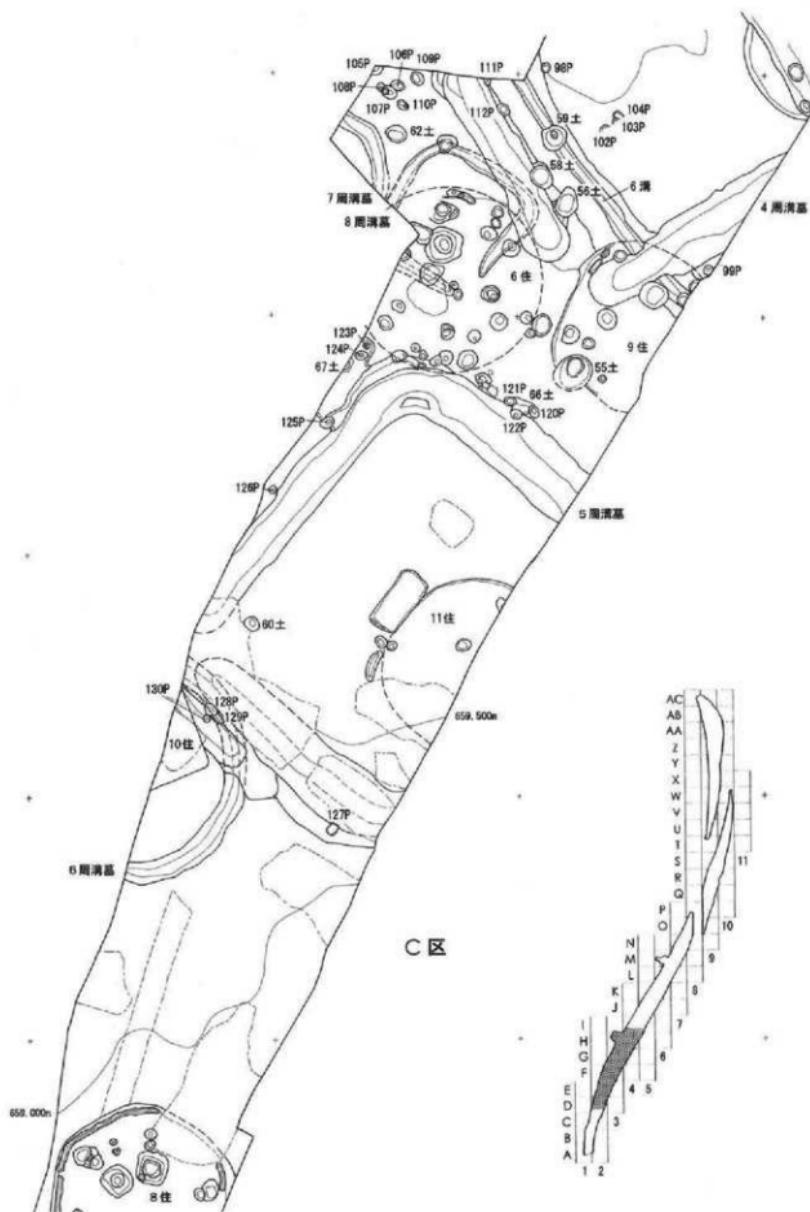
第12図 遺構分布図③ (1/200)



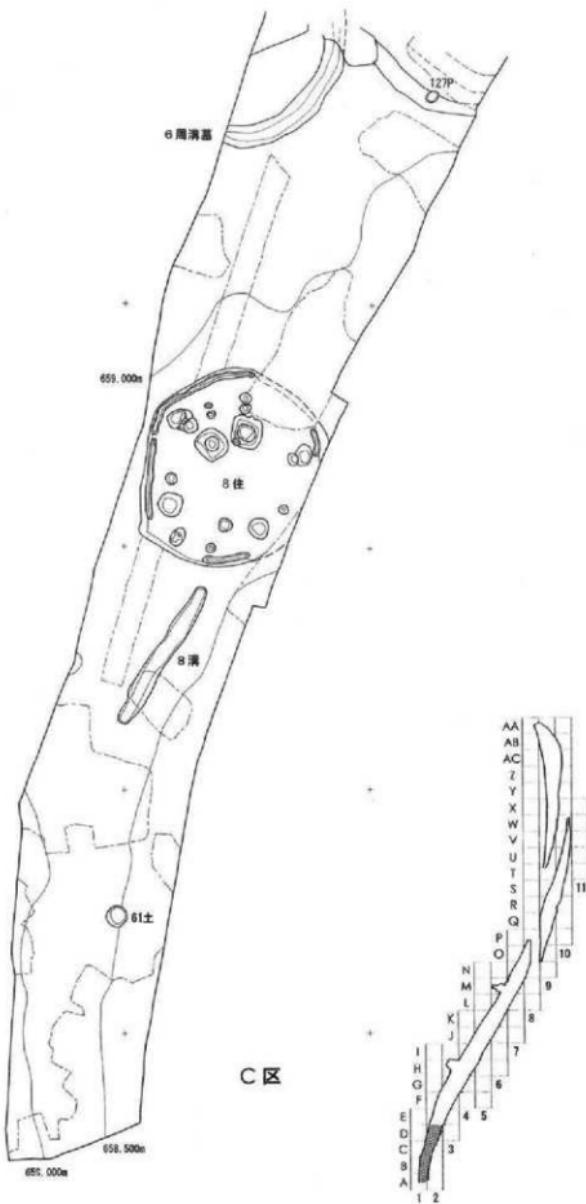
第13図 遺構分布図④ (1/200)



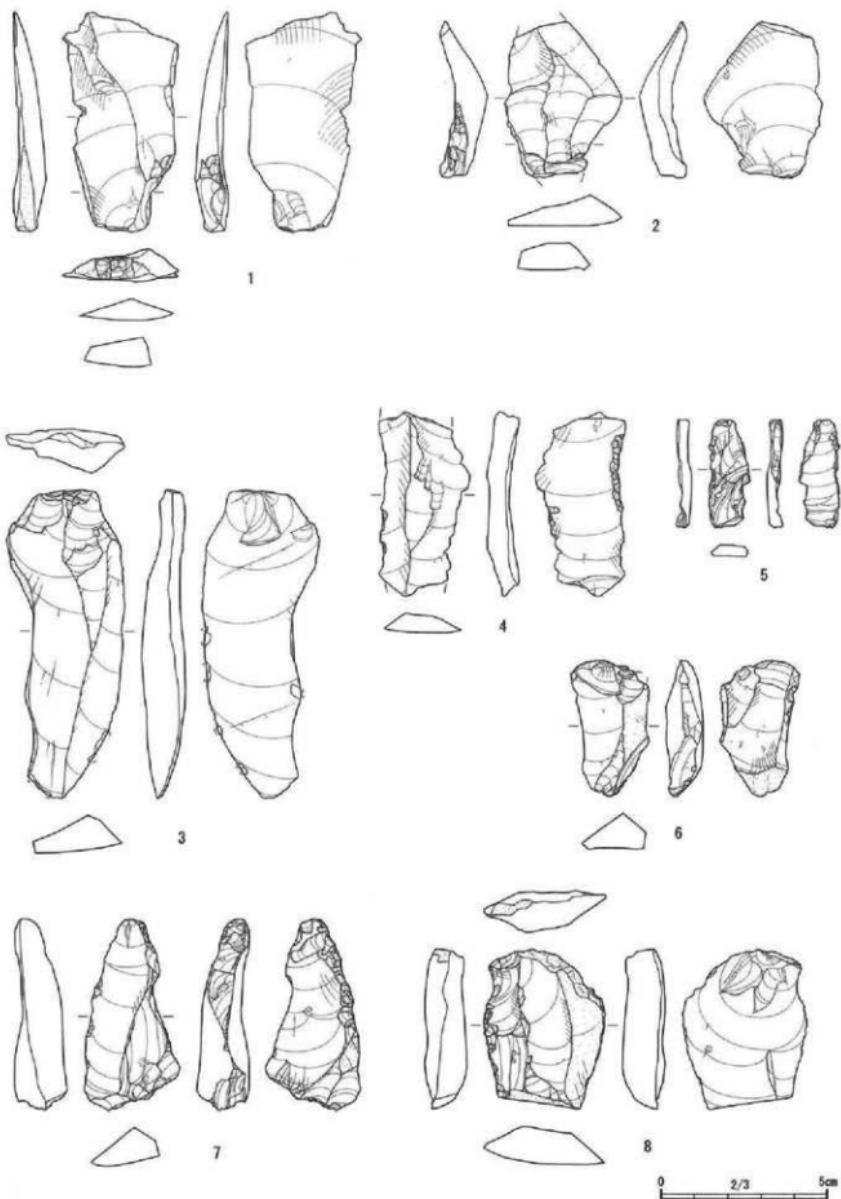
第14図 遺構分布図⑤ (1/200)



第15図 遺構分布図⑥ (1/200)



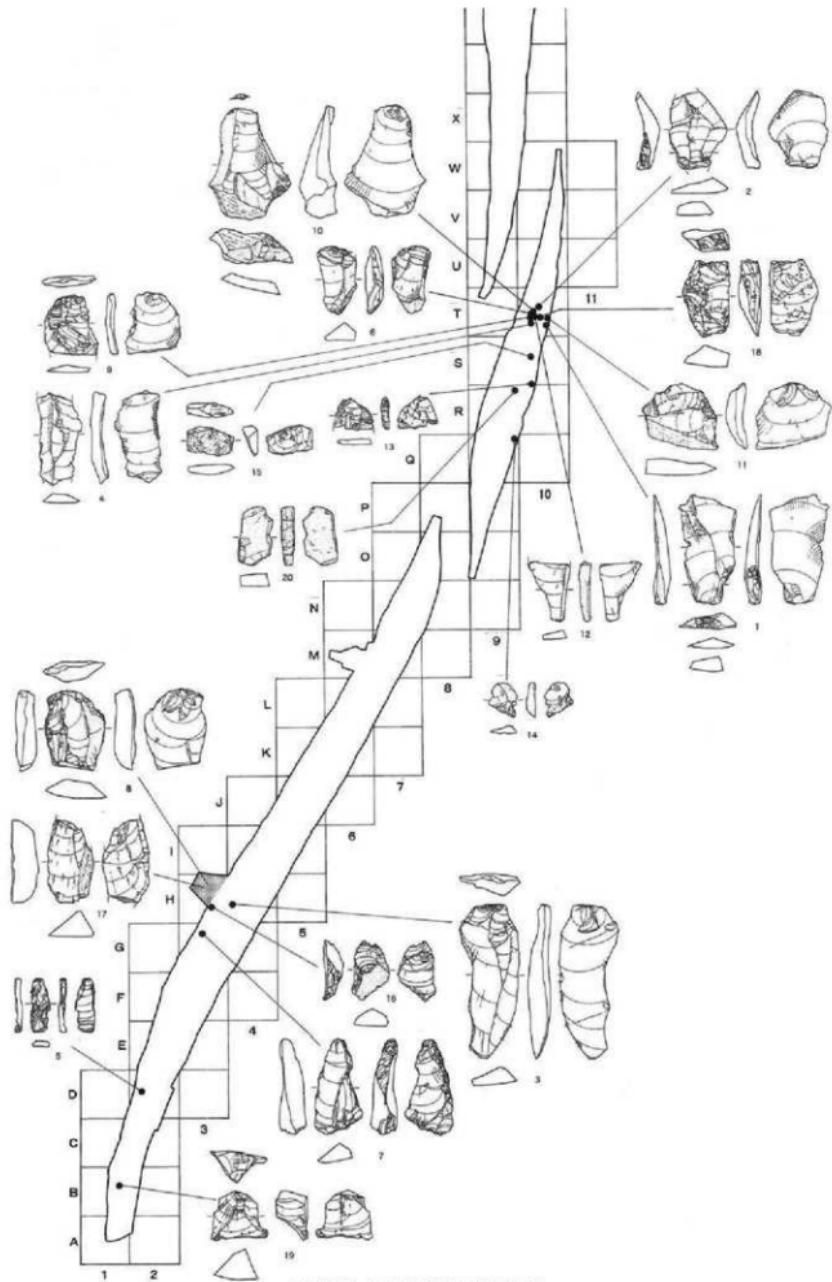
第16図 遺構分布図⑦ (1/200)



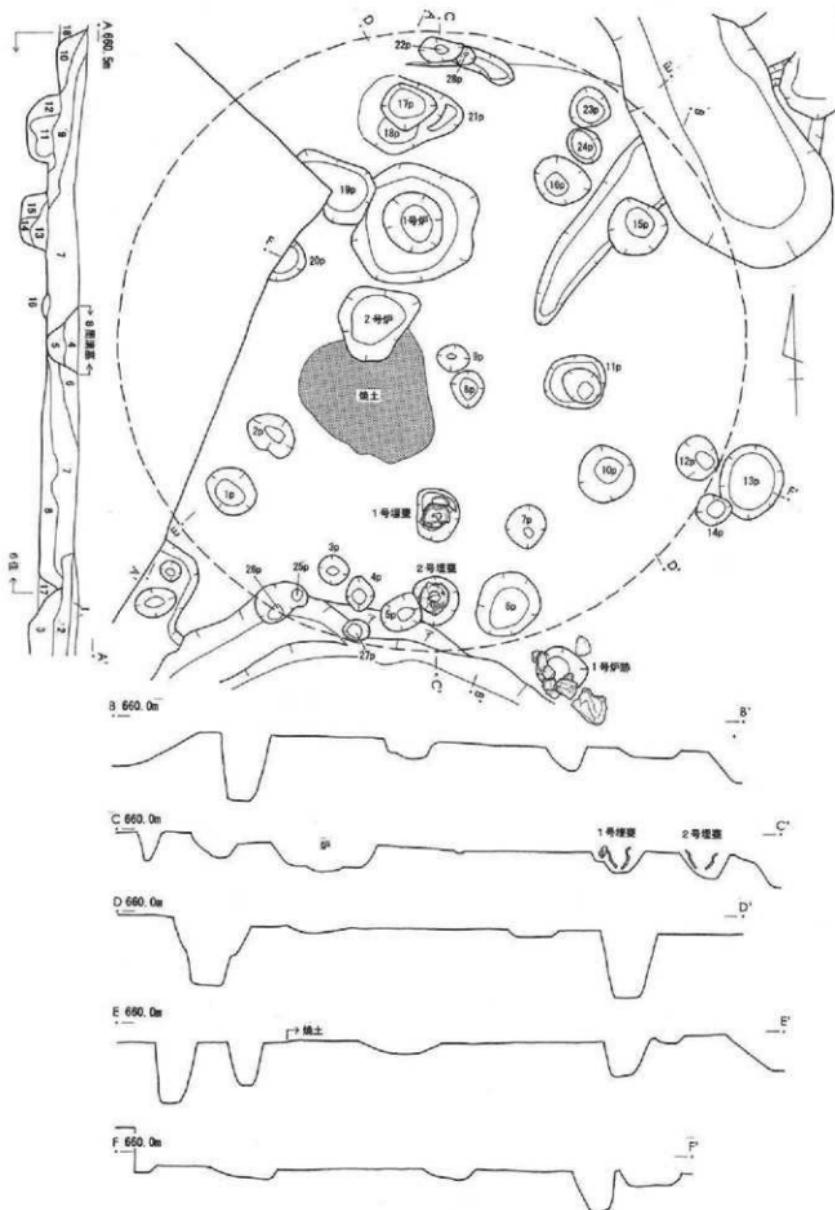
第17図 旧石器時代石器①



第18図 旧石器時代石器②

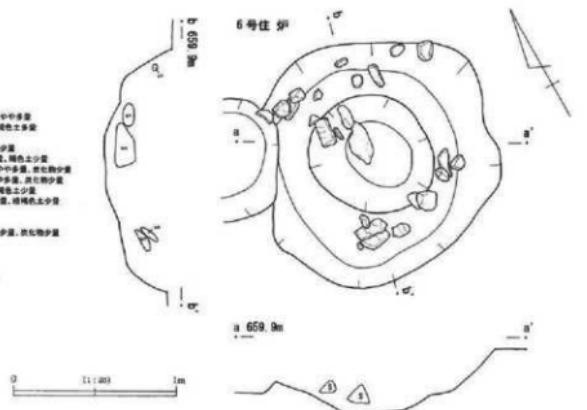


第19図 旧石器時代石器分布図

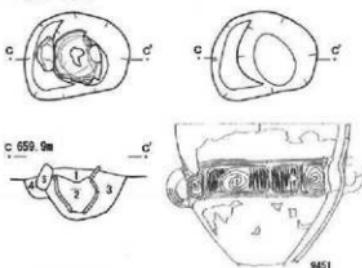


第20図 6号住居跡

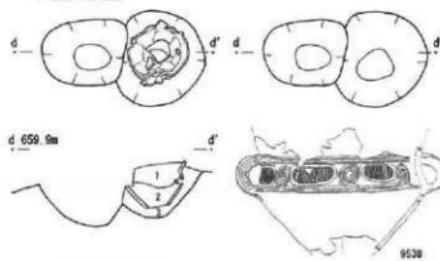
- 6号住土面剖面(調查西面)
1. 黑土
 2. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50中等量, 混雜土中少量
 3. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50多量, 混雜土少量, 墓底土少量
 4. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土少量, 墓底土少量
 5. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量, 墓底土少量
 6. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量, 墓底土少量
 7. HY7M/48層褐色土 1~2m00~1~2m50少量, 混雜土中少量, 墓底土少量
 8. HY7M/48層褐色土 1~2m00~1~2m50少量, 混雜土中多量, 墓底土少量
 9. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量, 墓底土少量
 10. HY7M/48層褐色土 1~2m00~1~2m50少量, 混雜土中少量, 墓底土少量
 11. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量
 12. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量
 13. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量
 14. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量
 15. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量
 16. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量
 17. HY7M/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土中少量
 18. HY7M/48層褐色土 土山



6号住 1号埋壺



6号住 2号埋壺

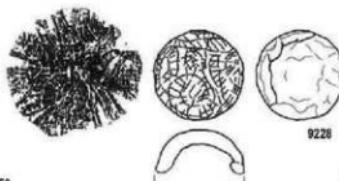
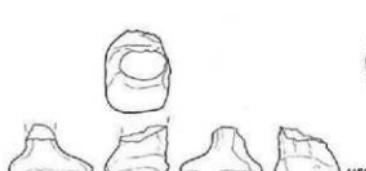


6号住1号埋壺土面剖面 No.9451

1. 10YR/48褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土少量, 墓底土少量
2. 10YR/48層褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土少量
3. 10YR/48褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土少量
4. 10YR/48層褐色土 1m00~1m50少量

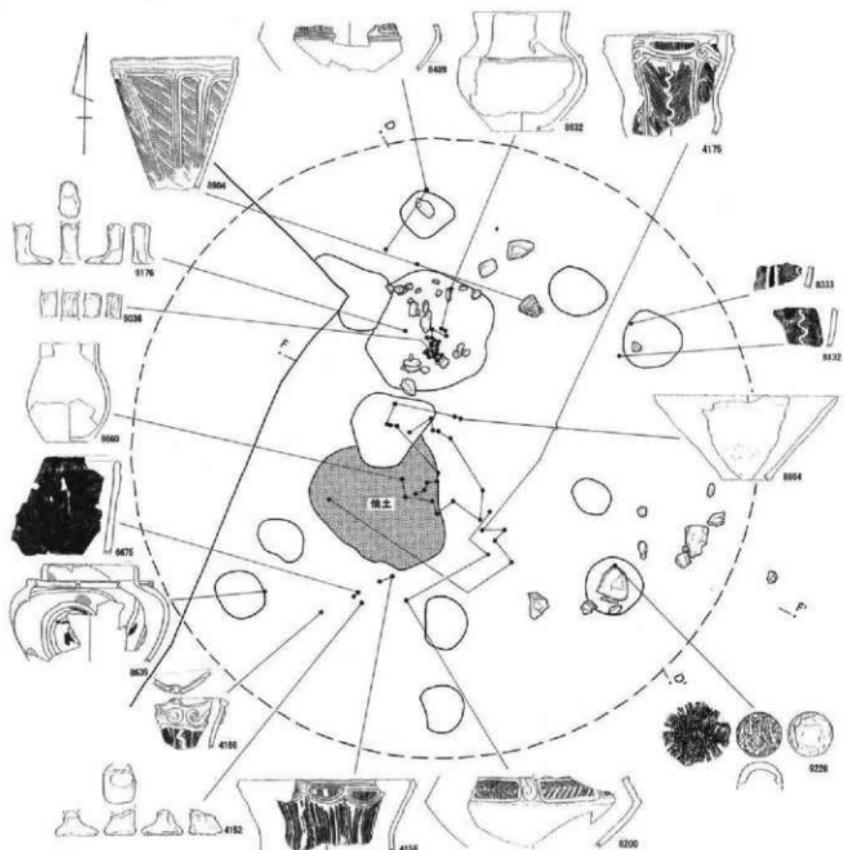
6号住2号埋壺土面剖面 No.9532

1. 10YR/48褐色土 1m00~1m50少量, 墓底土少量
2. 10YR/48褐色土 1m00~1m50少量, 混雜土少量
3. 10YR/48褐色土 1m00~1m50少量

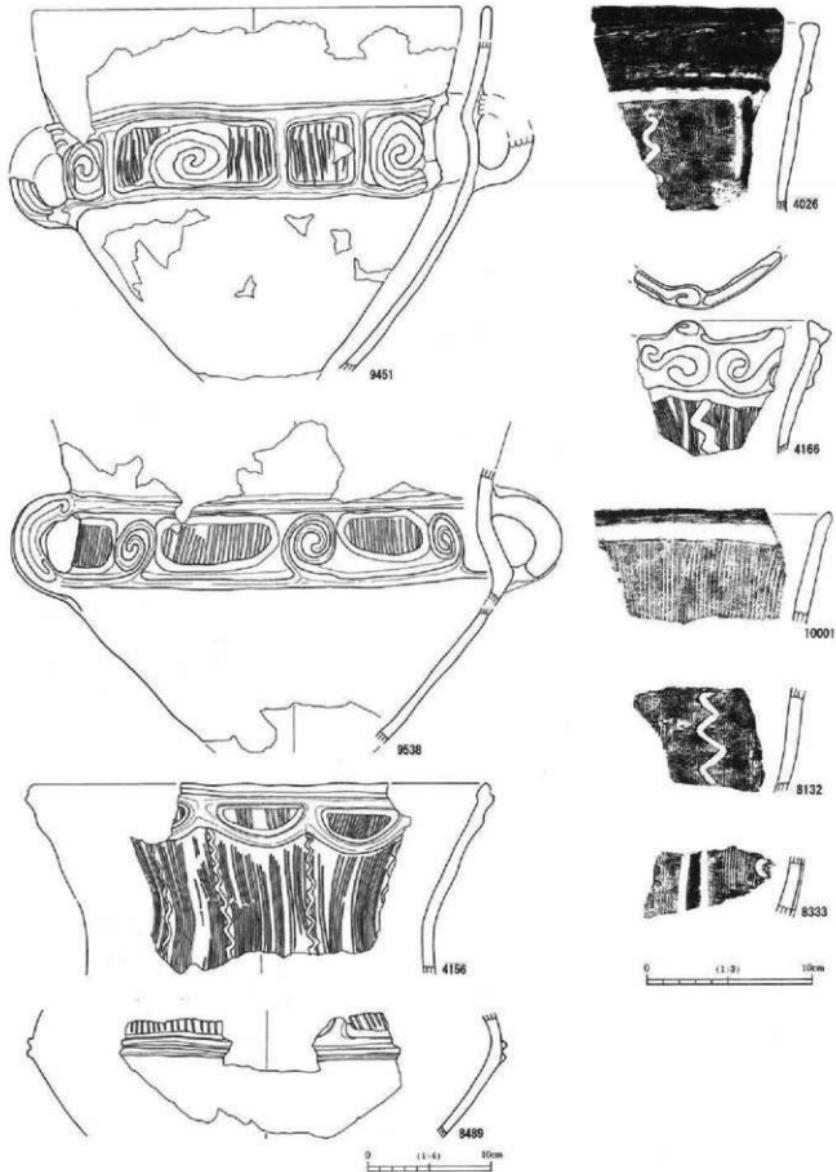


0 1m 1:100 5cm

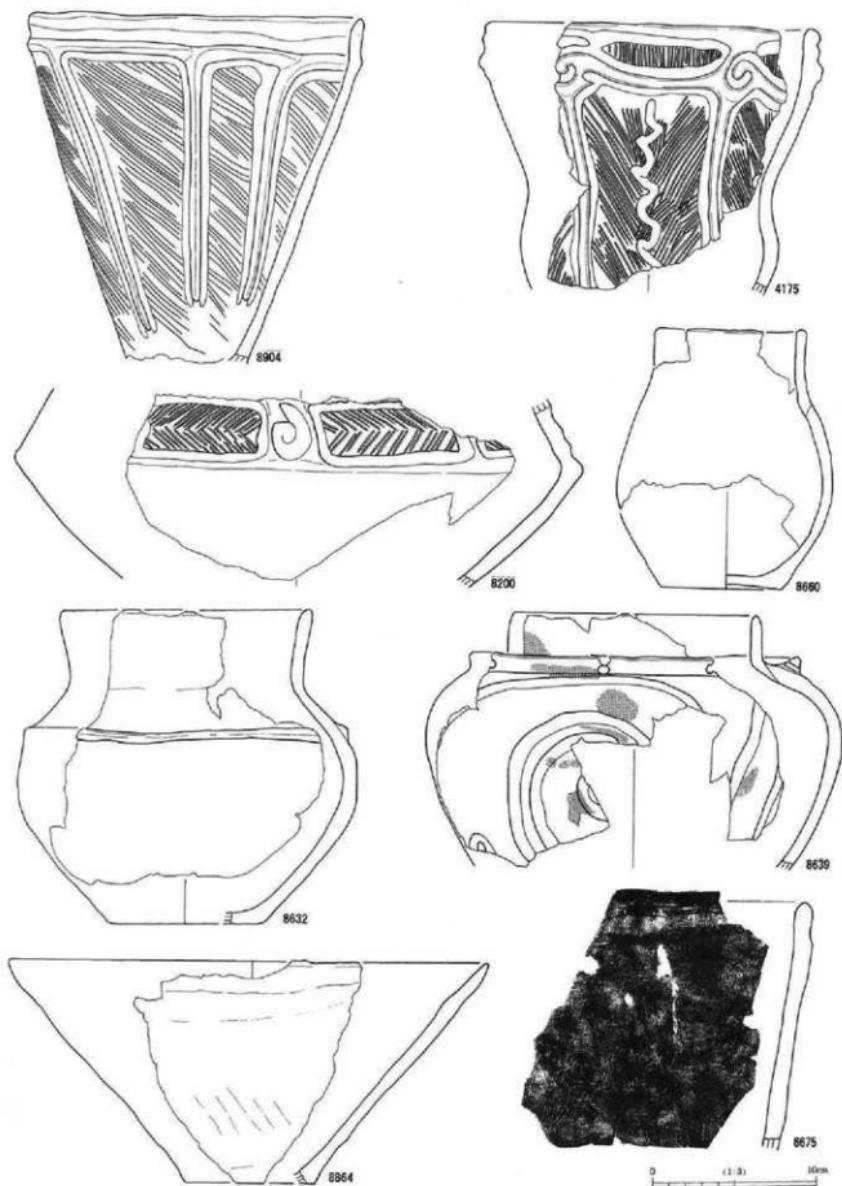
第21図 6号住居跡炉、1号埋壺、2号埋壺、出土遺物①



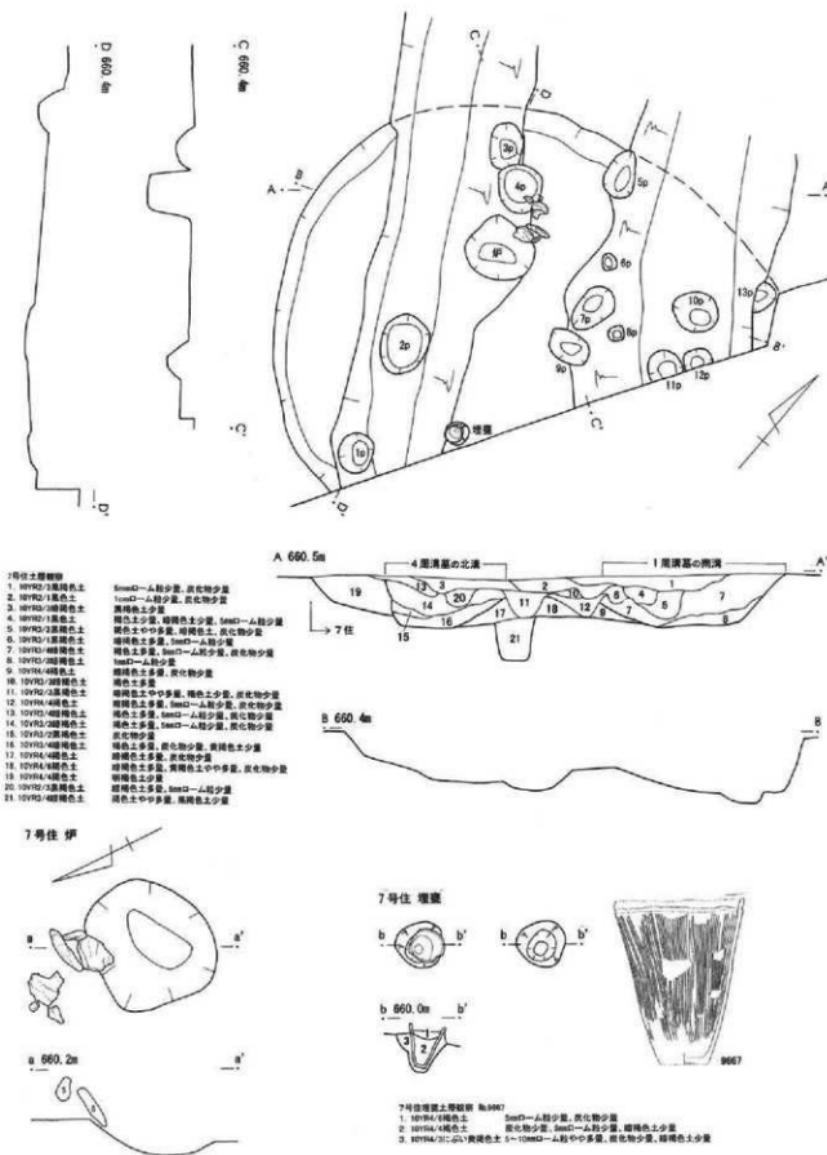
第 22 図 6 号住居跡遺物出土状況



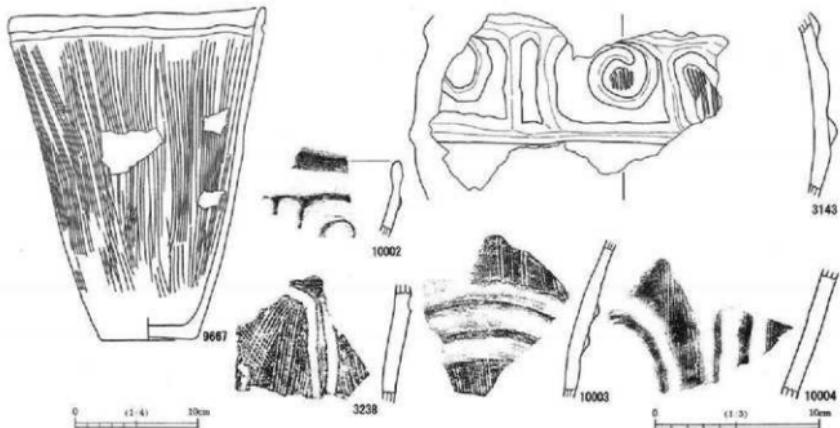
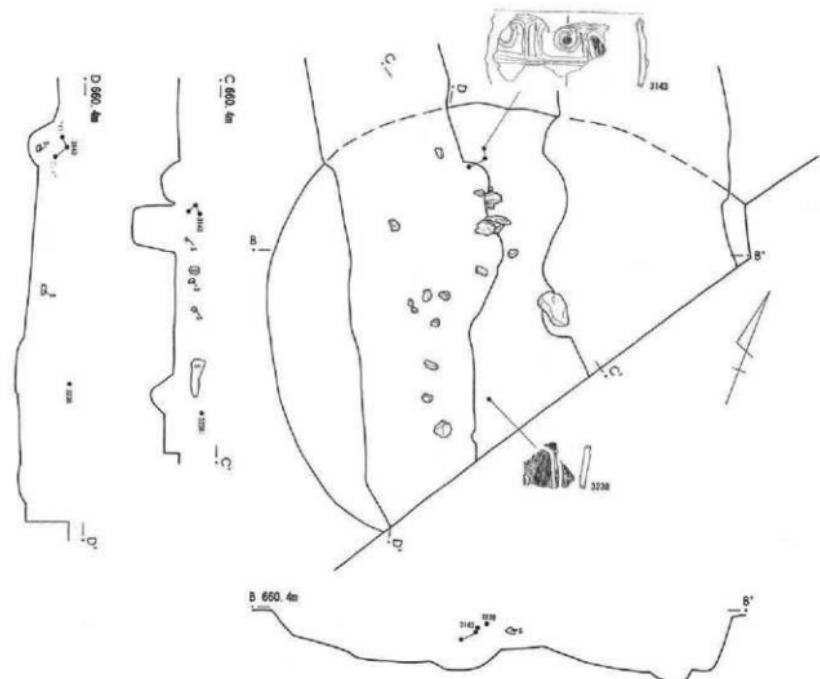
第23図 6号住居跡出土遺物②



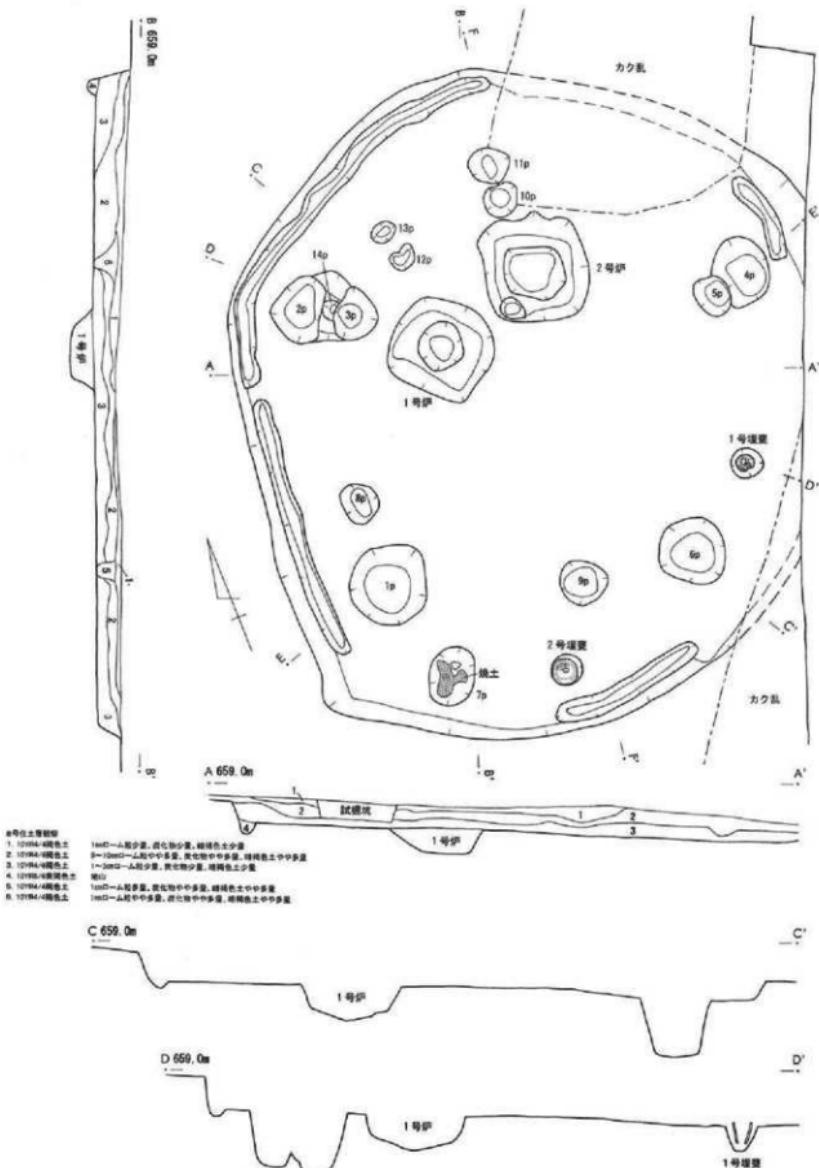
第24図 6号住居跡出土遺物③



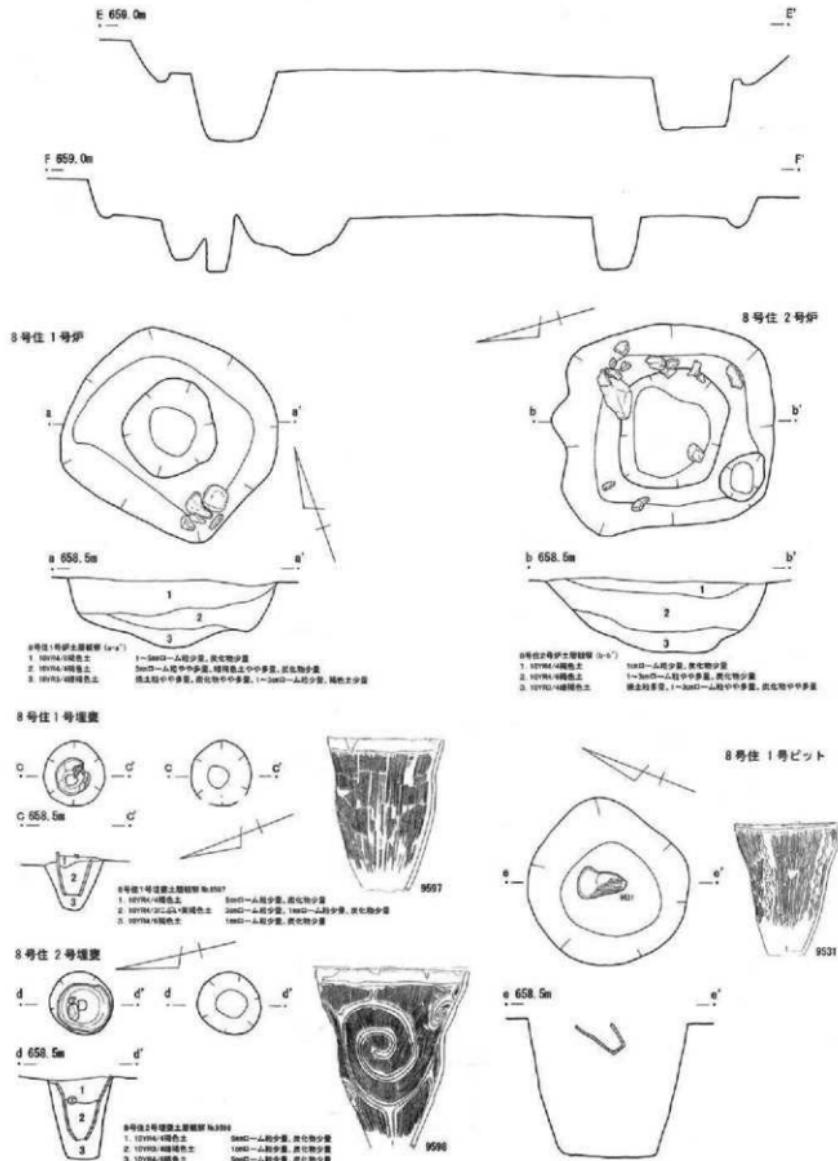
第25図 7号住居跡、炉、埋甕



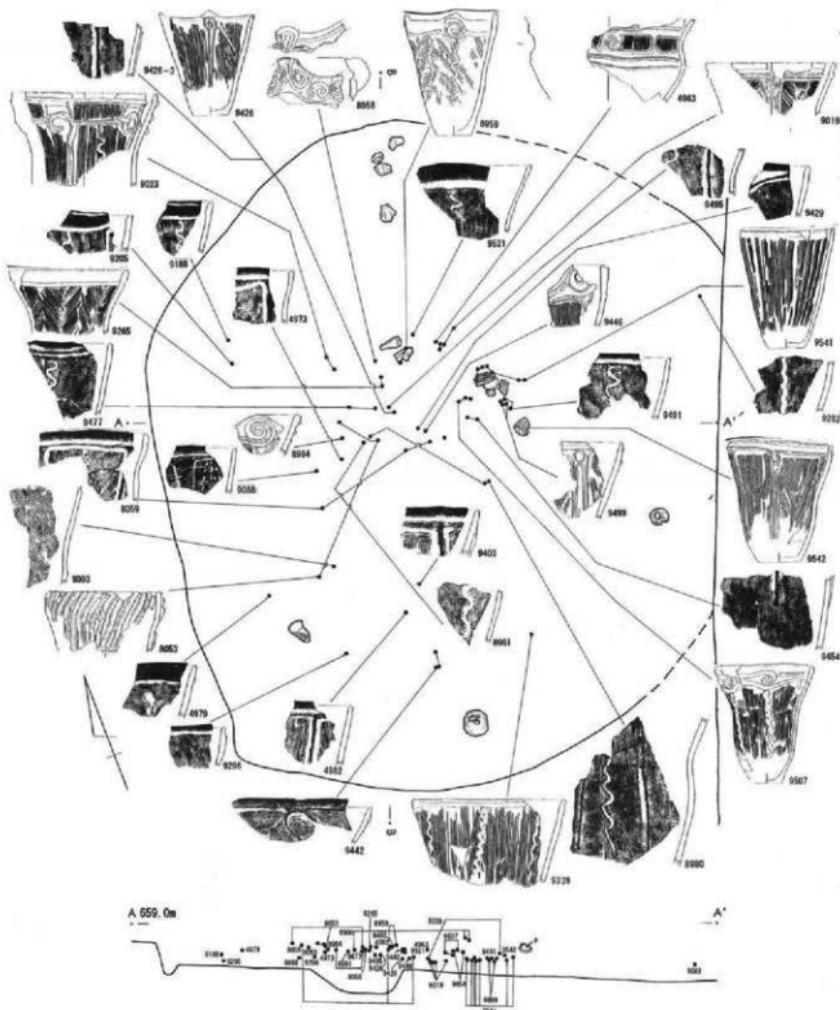
第26図 7号住居跡遺物出土状況、出土遺物



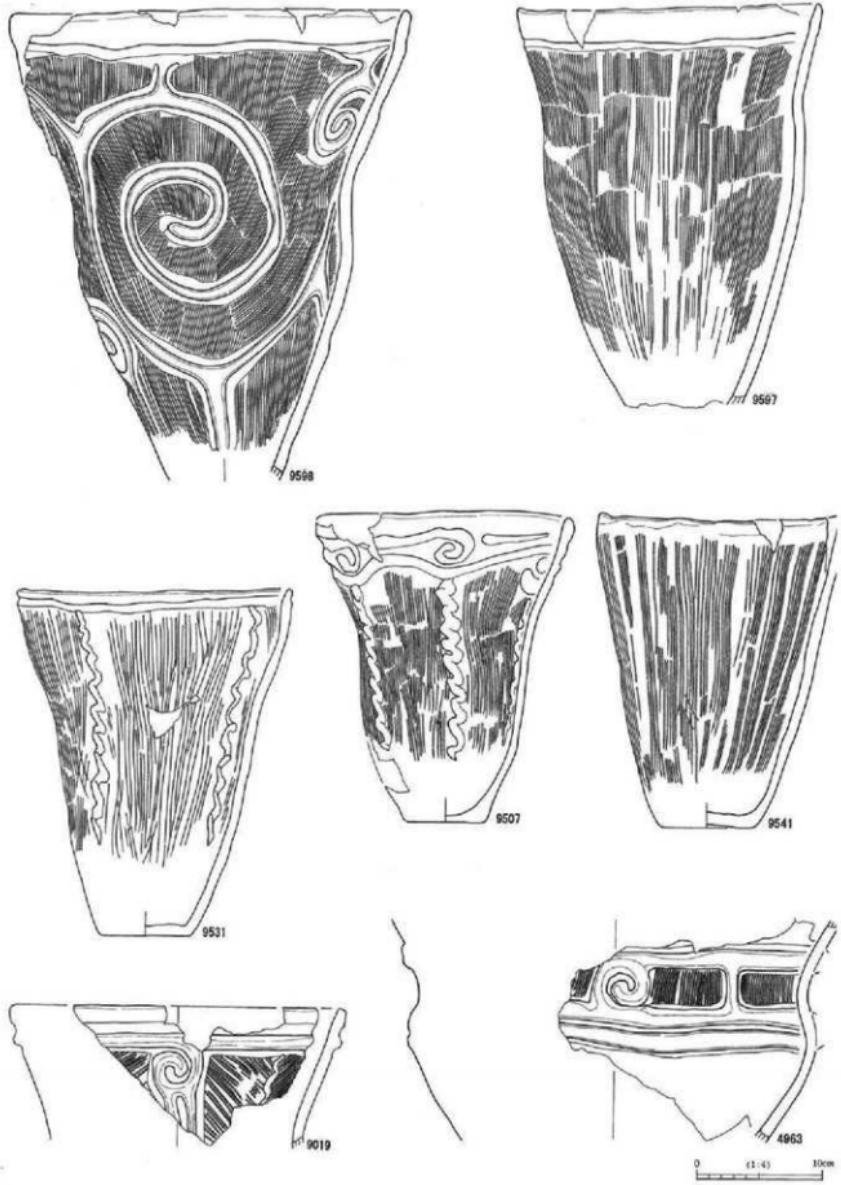
第27図 8号住居跡



第28図 8号住居跡 1号炉、2号炉、1号埋甃、2号埋甃、1号ビット



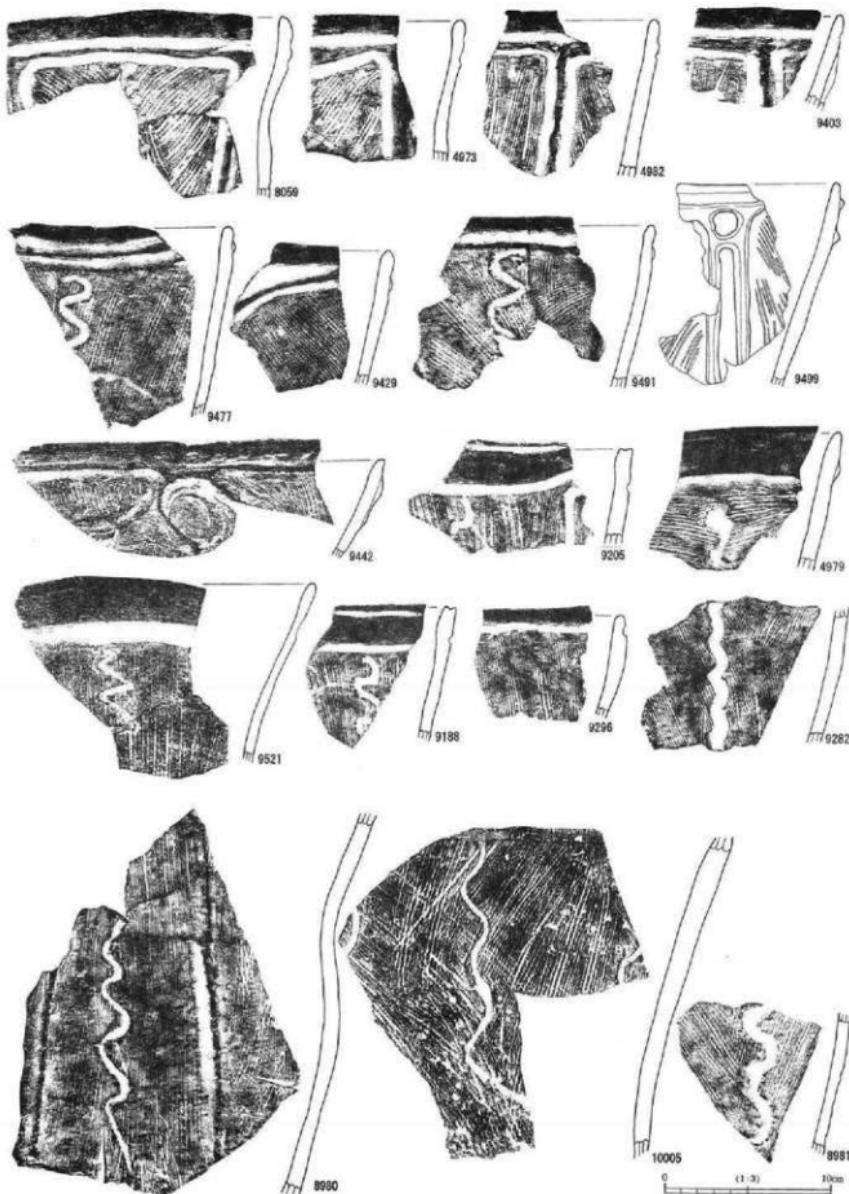
第29図 8号住居跡遺物出土状況



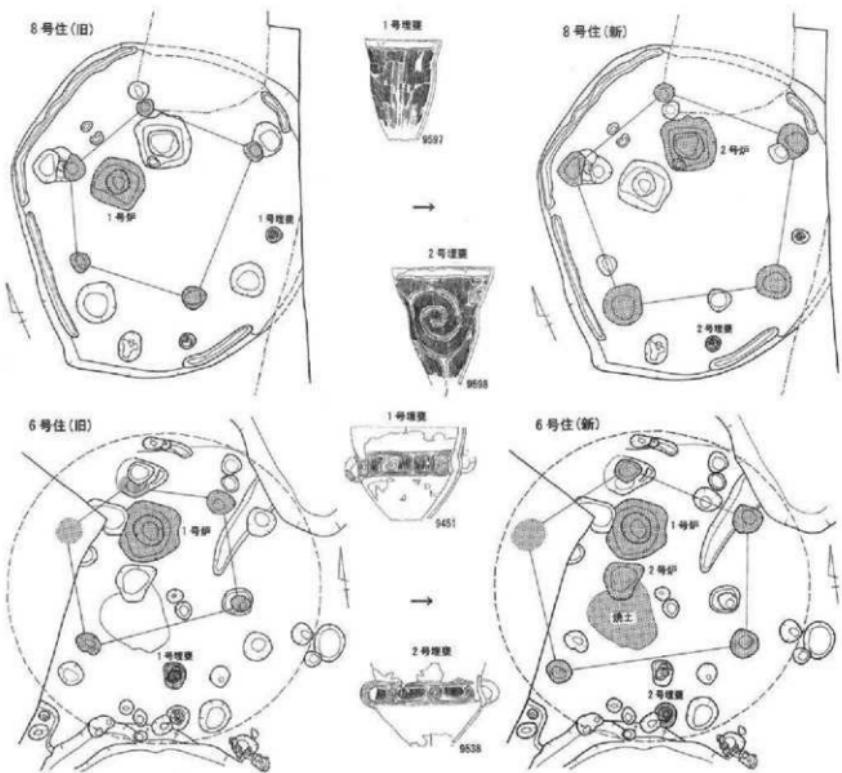
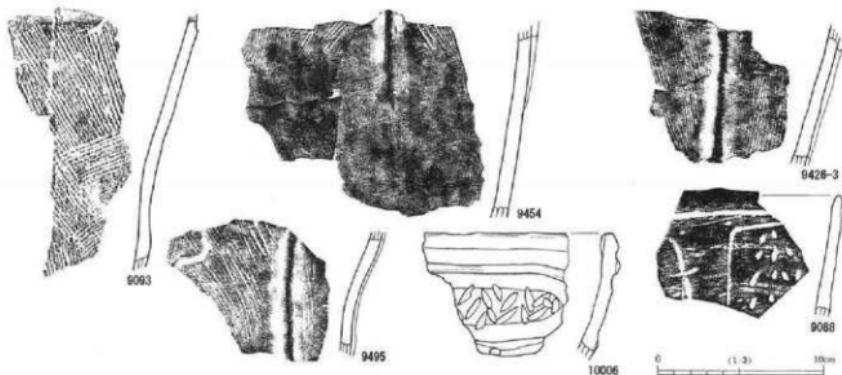
第30図 8号住居跡出土遺物①



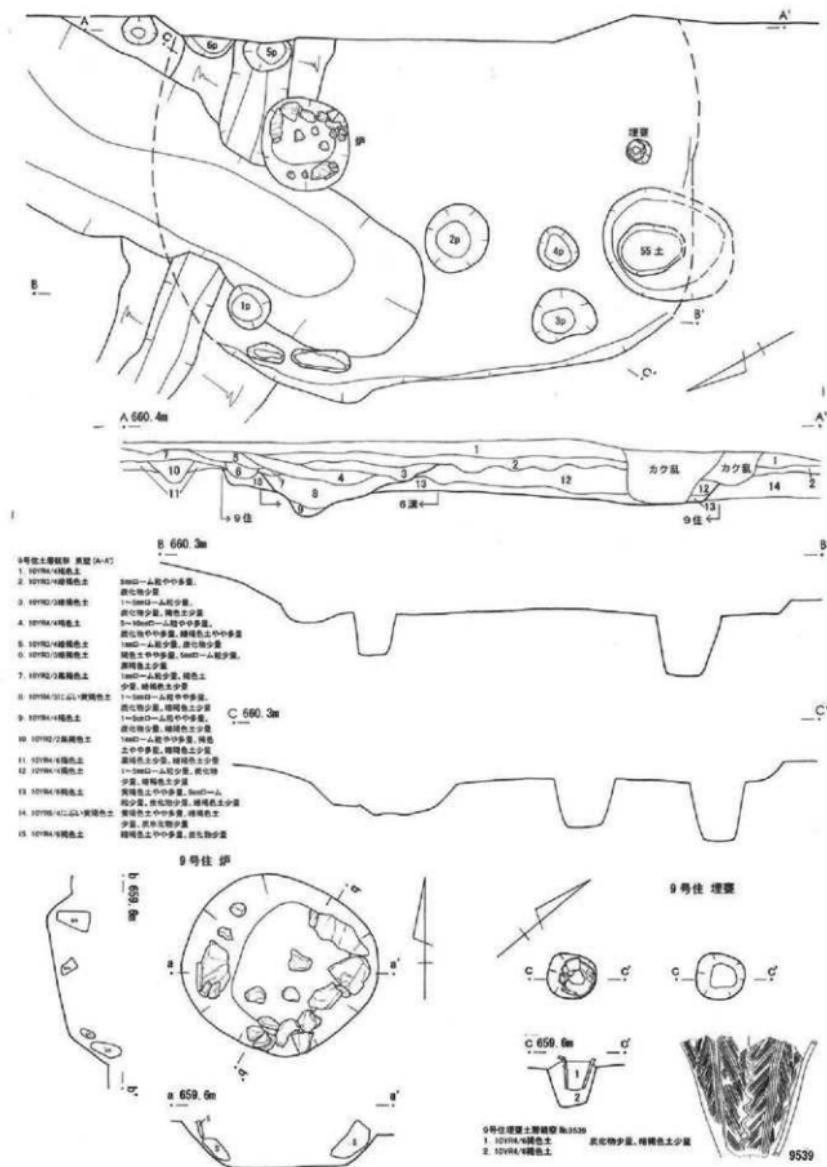
第31図 8号住居跡出土遺物②



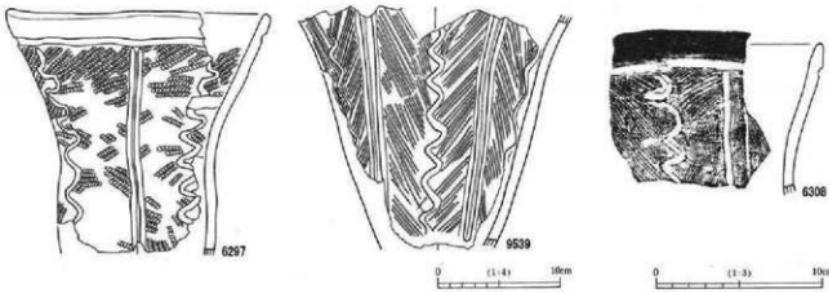
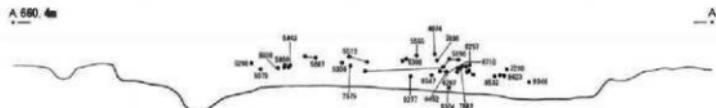
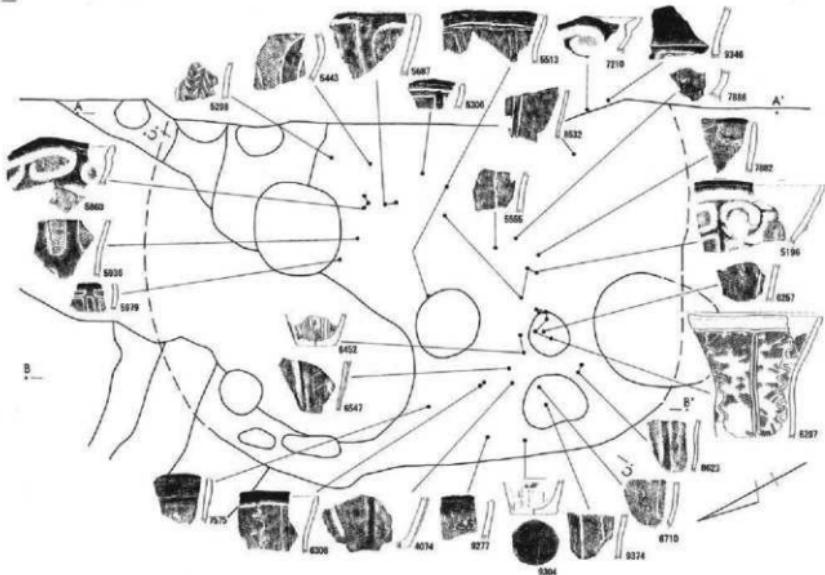
第32図 8号住居跡出土遺物③



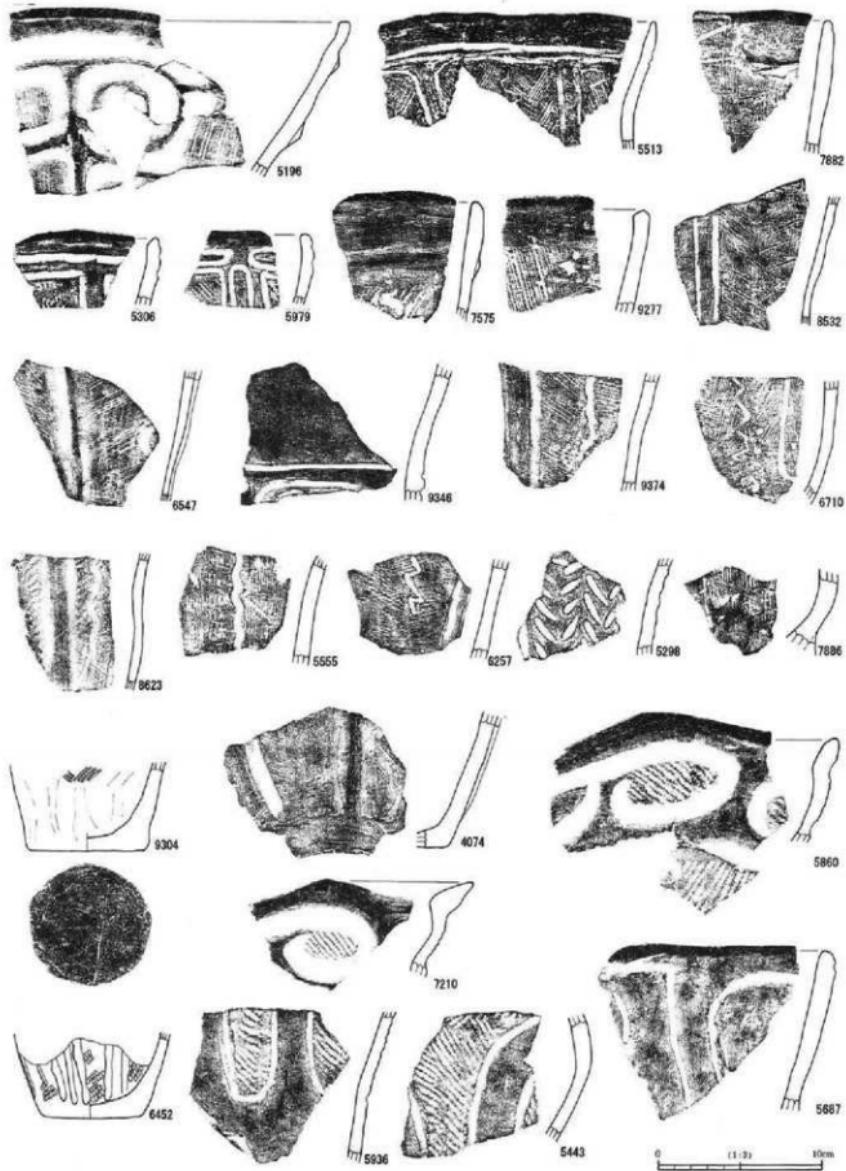
第33図 8号住跡出土遺物④、住居変遷図、6号住跡住居変遷図



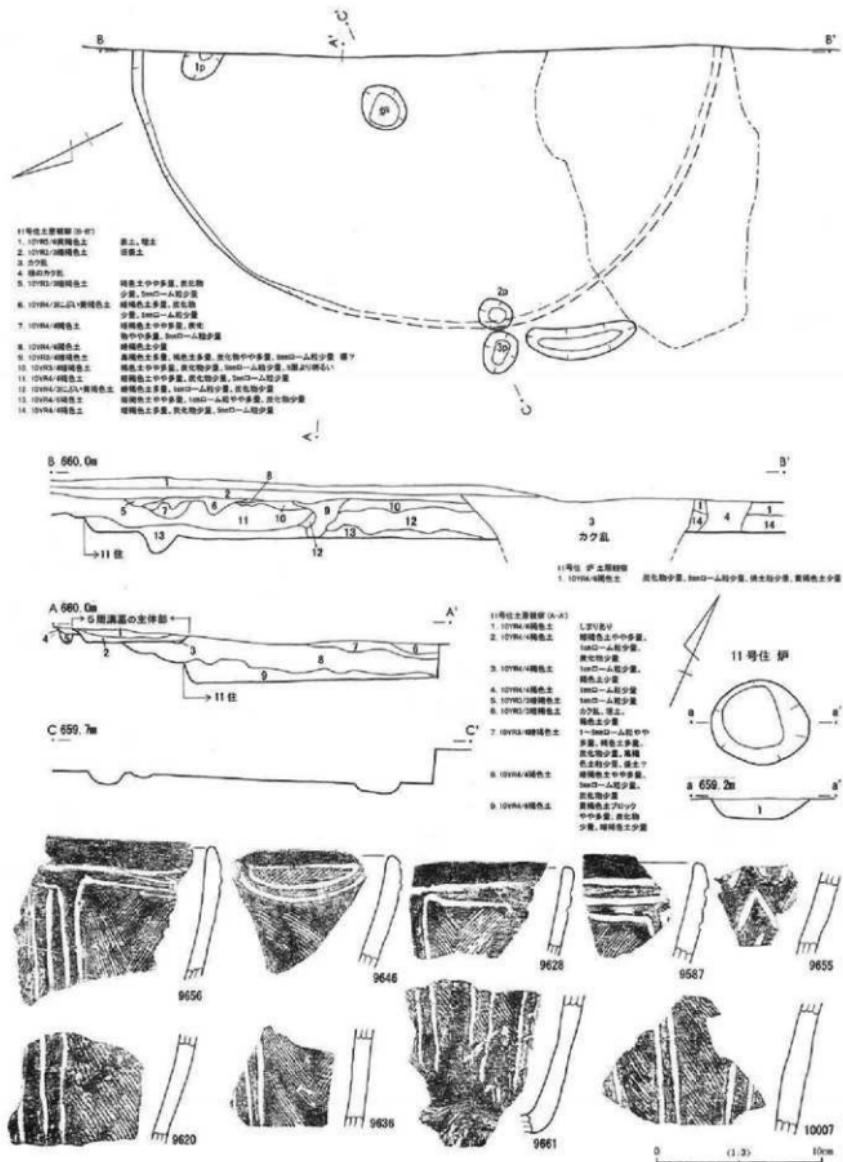
第34図 9号住居跡、炉、埋甕



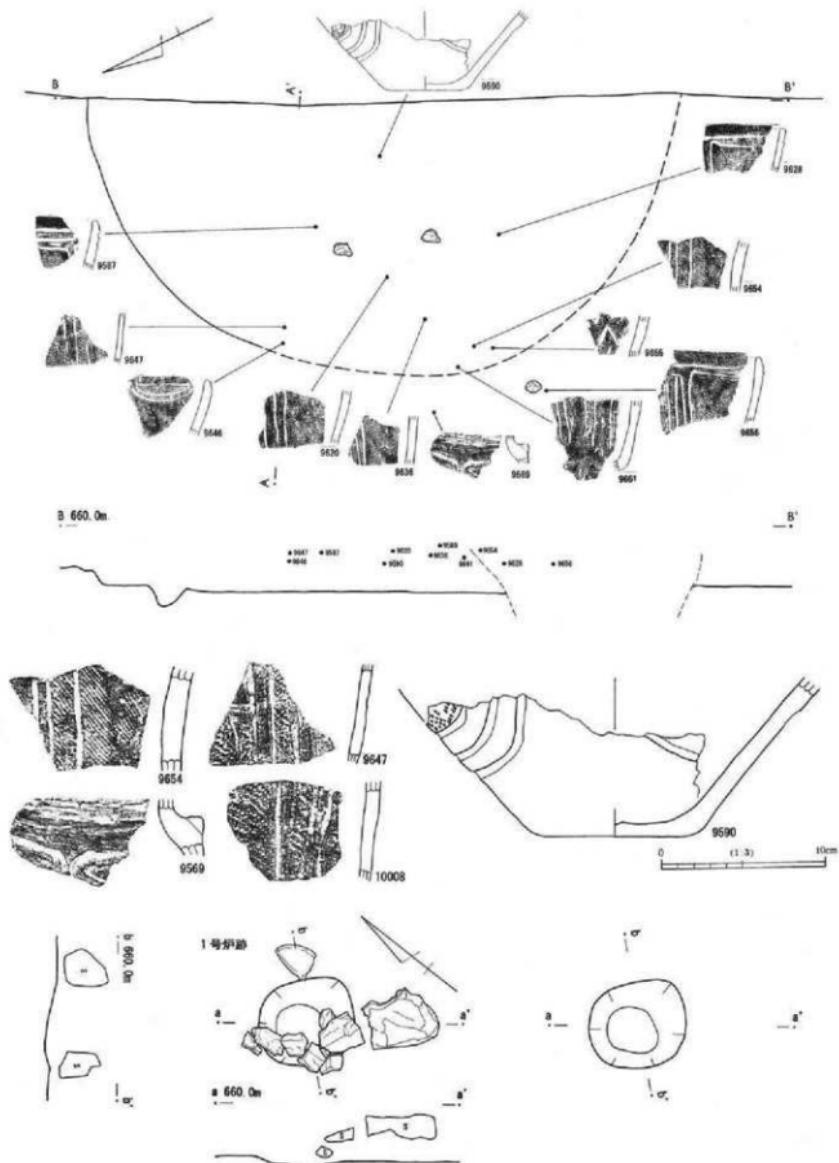
第35図 9号住居跡遺物出土状況、出土遺物①



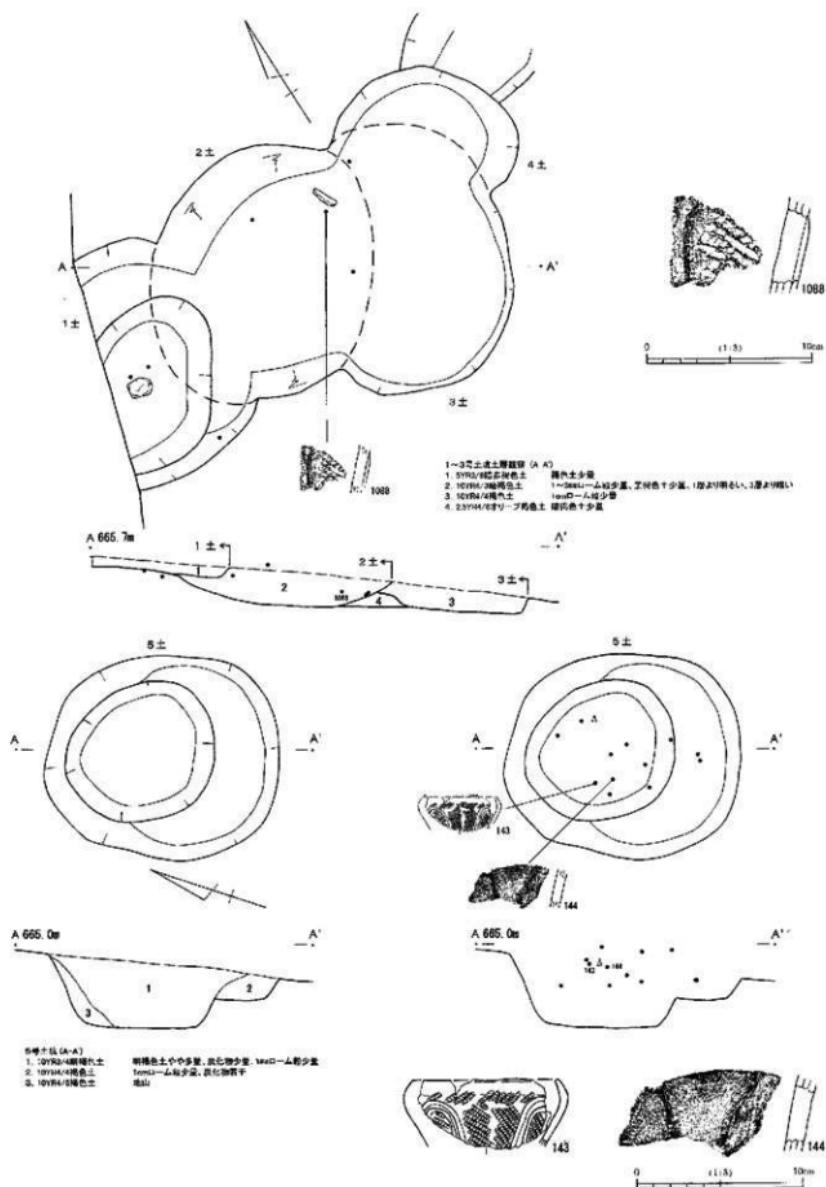
第36図 9号住跡出土遺物②



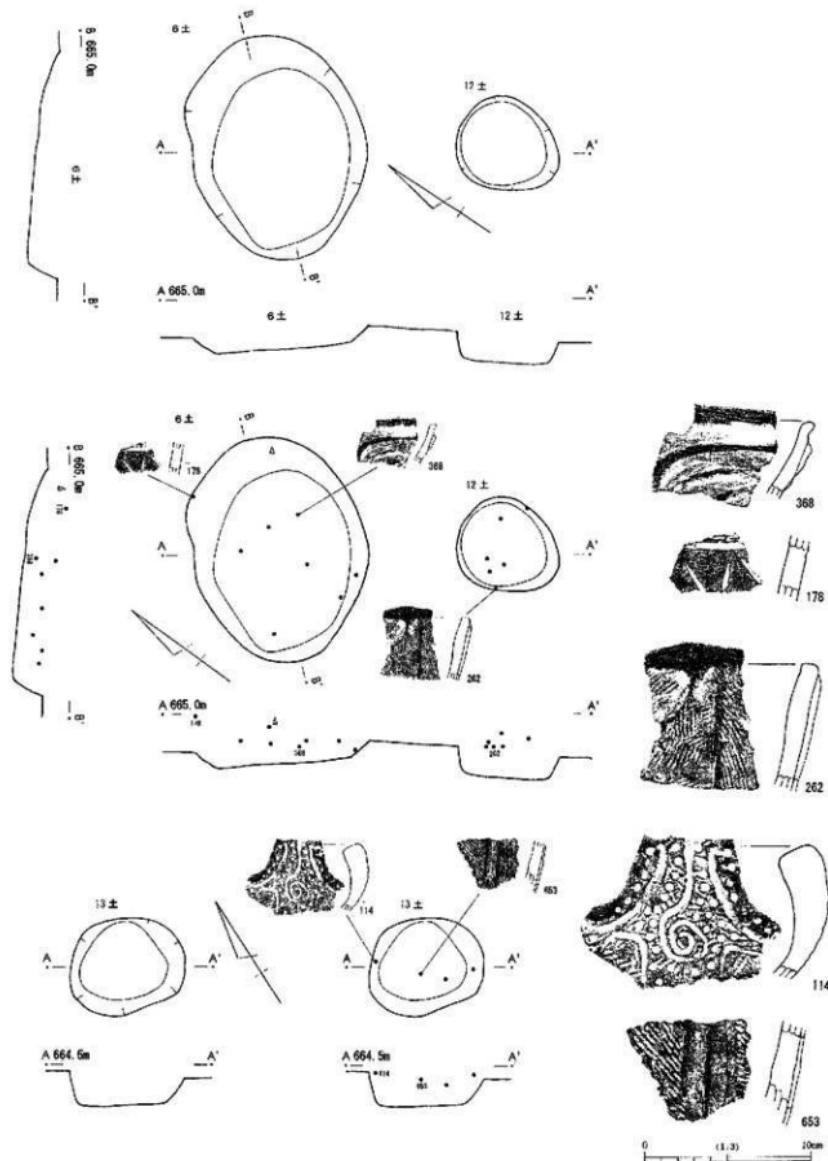
第37図 11号住居跡、炉、出土遺物①



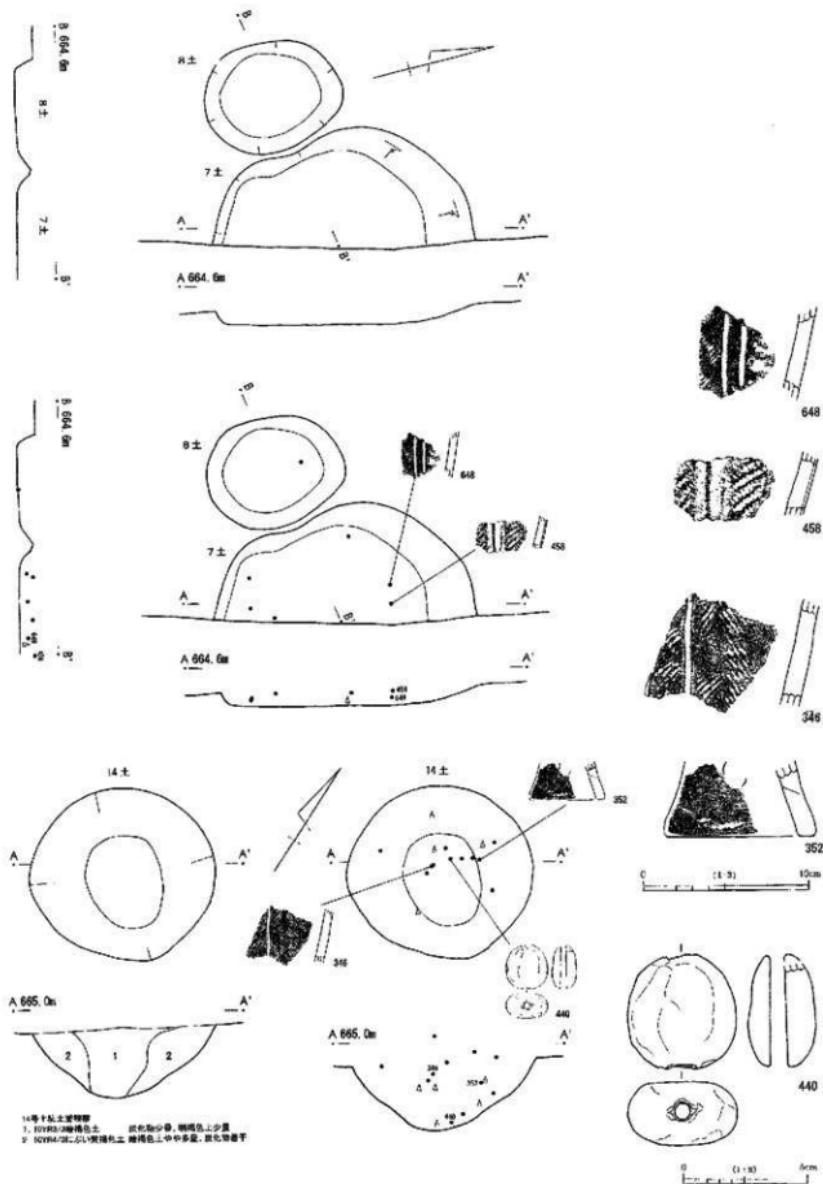
第38図 11号住居跡遺物出土状況、出土遺物②、1号炉跡



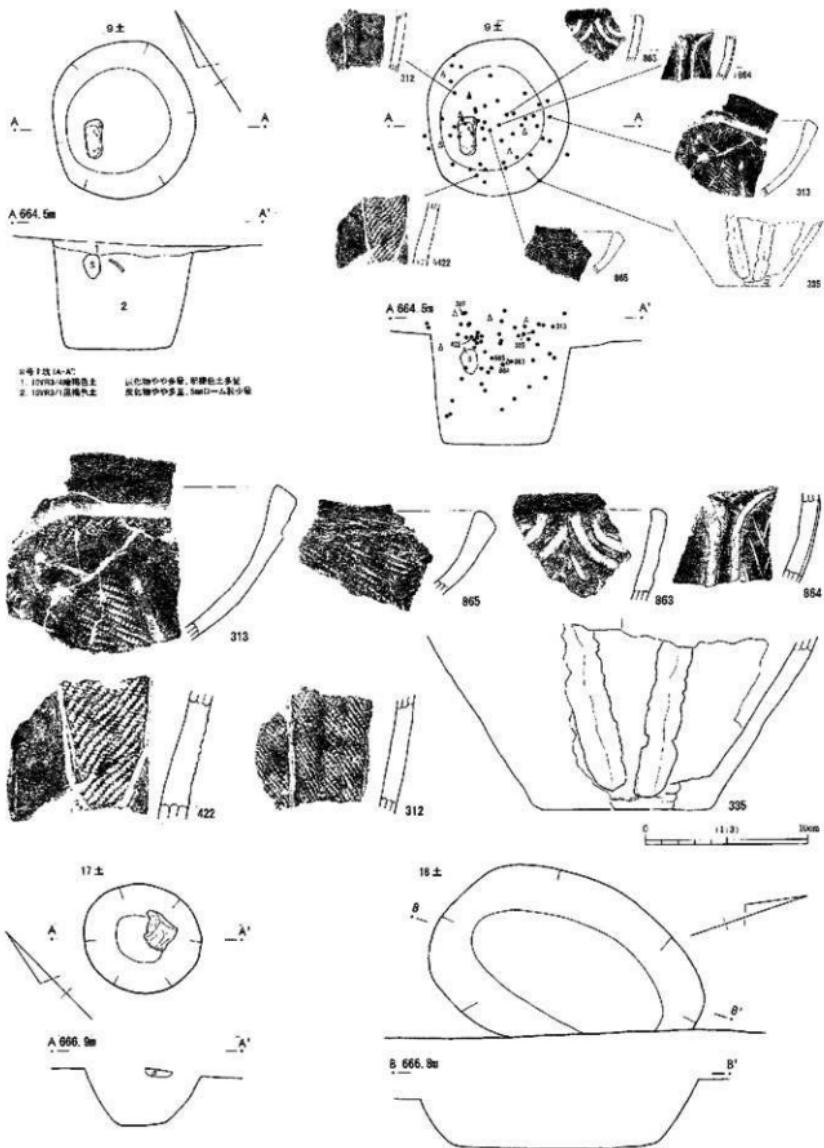
第39図 1~5号土坑、出土遺物



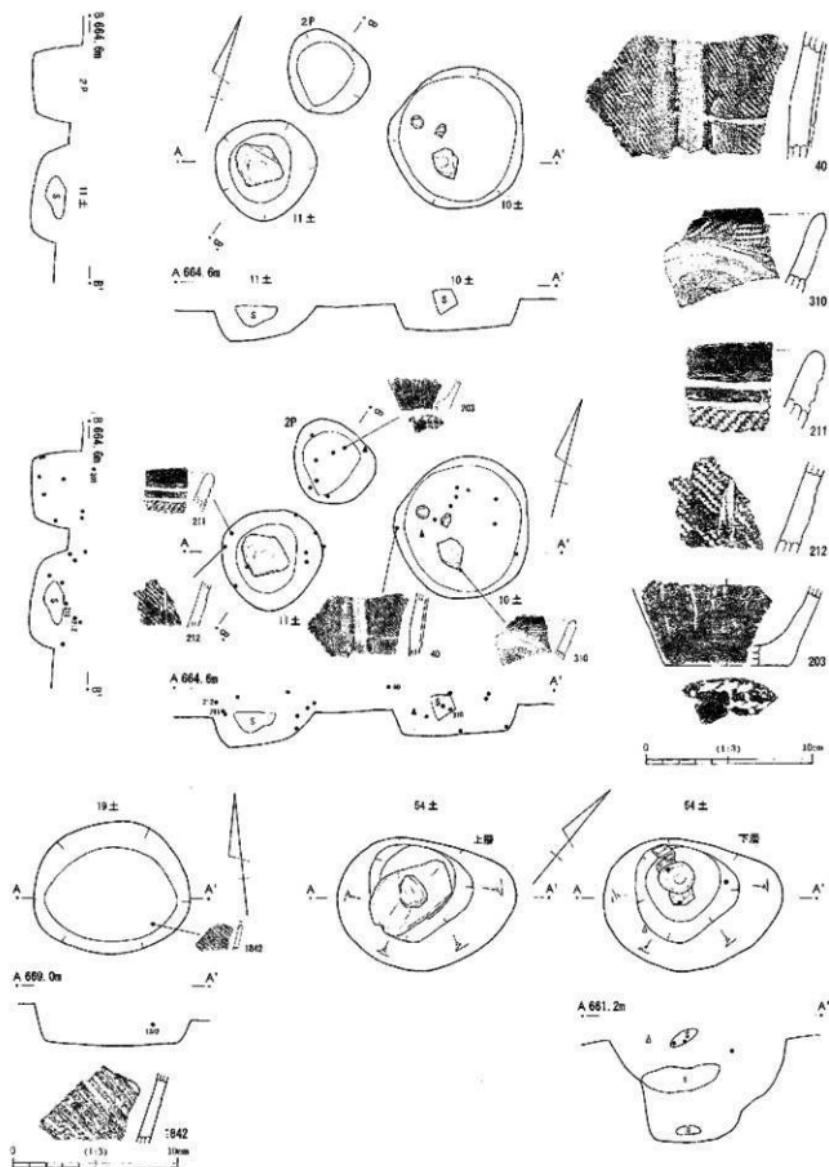
第40図 6・12・13号土坑、出土遺物



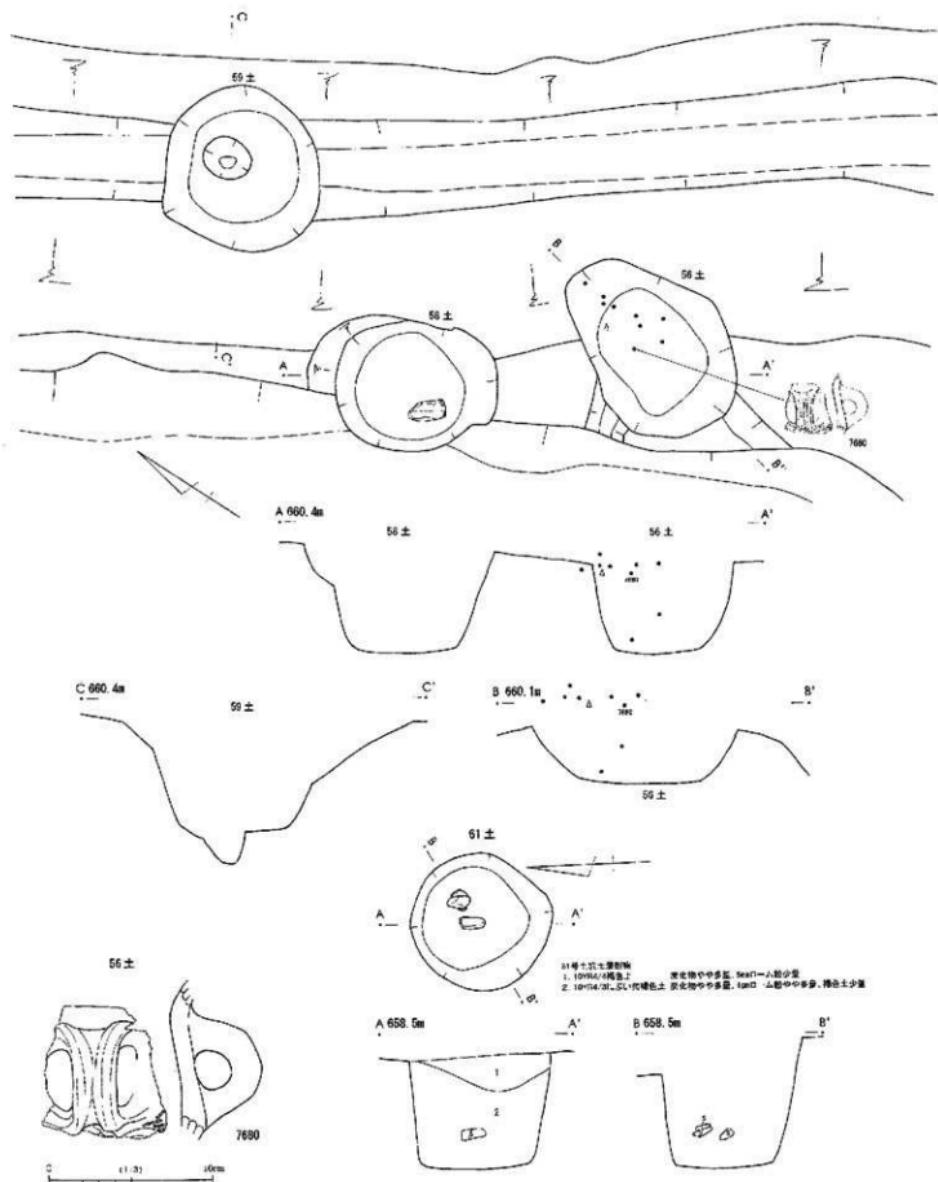
第41図 7・8・14号土坑、出土遺物



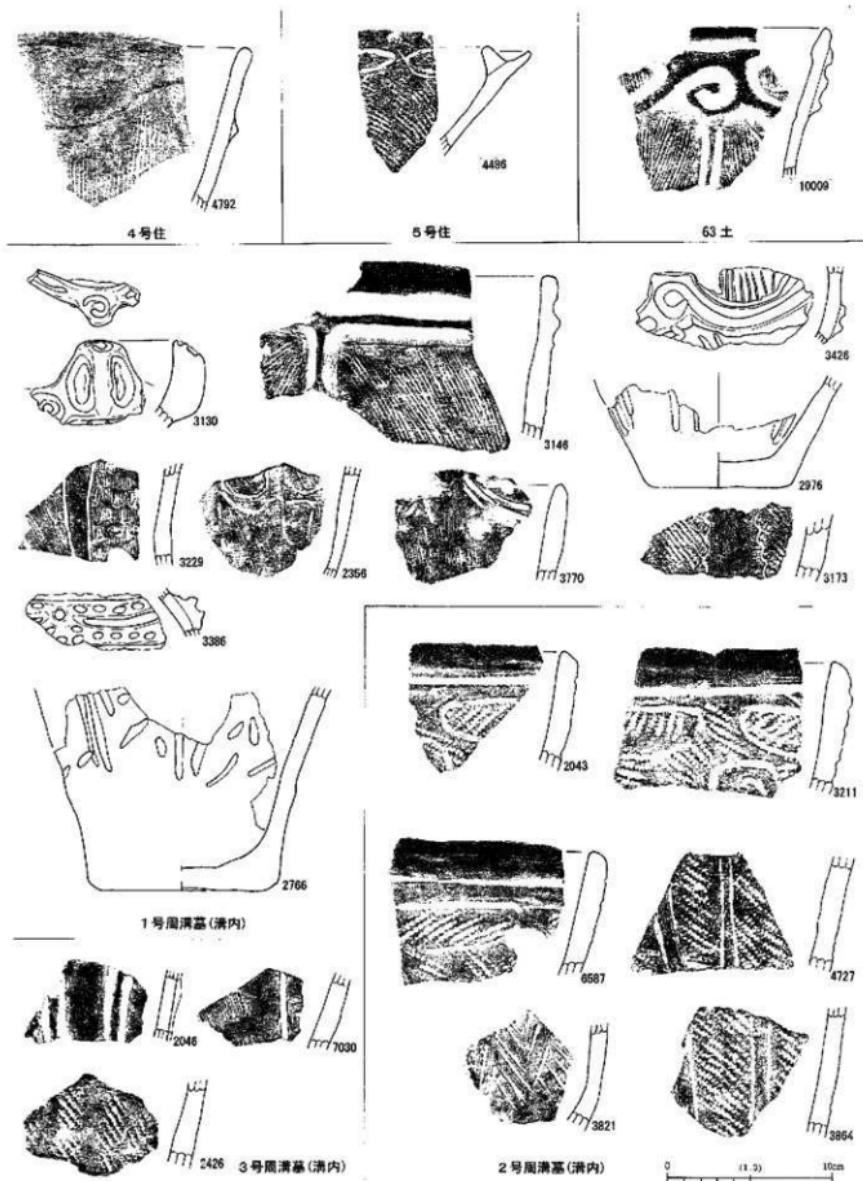
第42図 9・17・18号土坑、出土遺物



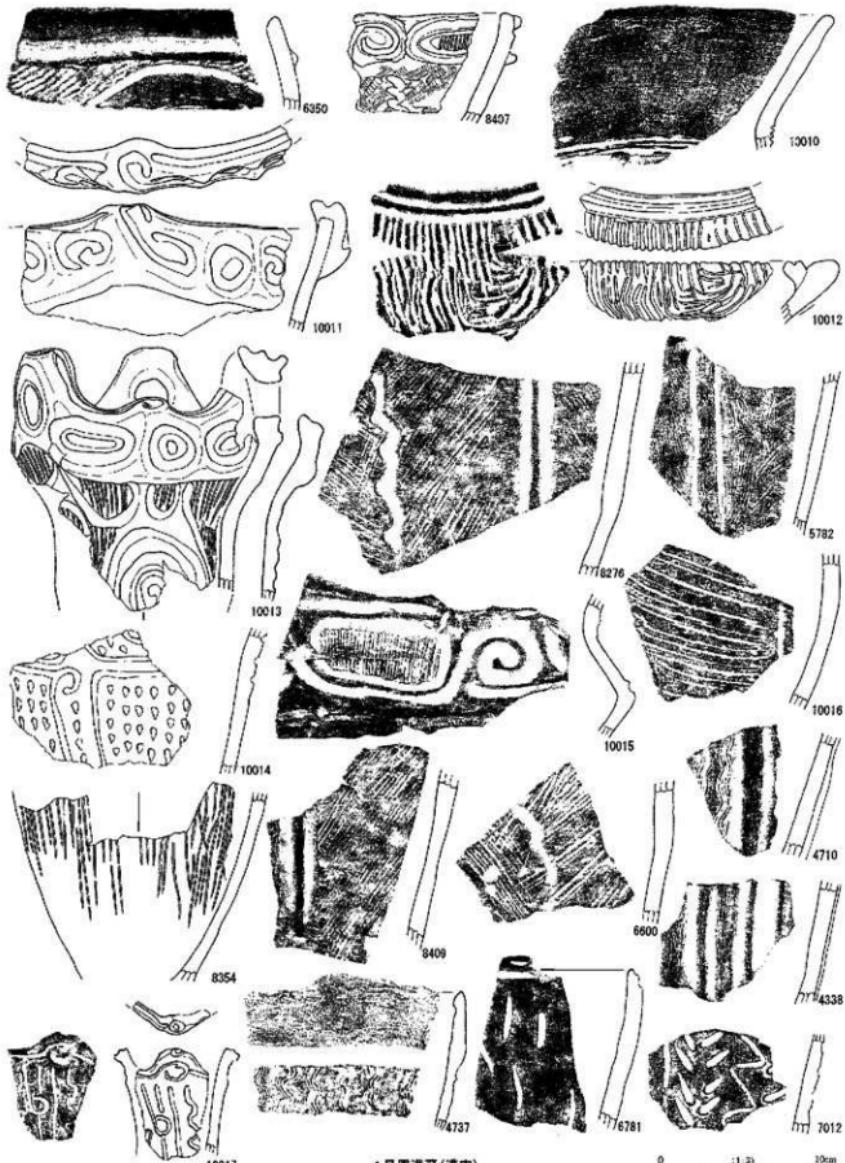
第43図 10・11・19・54号土坑、2号ピット、出土遺物



第44図 56・58・59・61号土坑、出土遺物



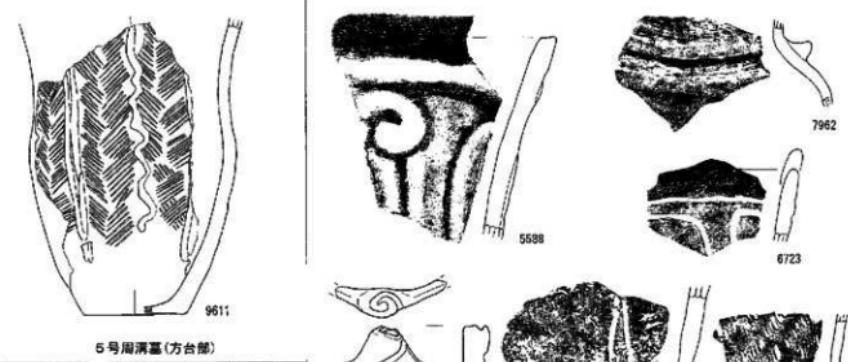
第45図 遺構外出土縄文土器①



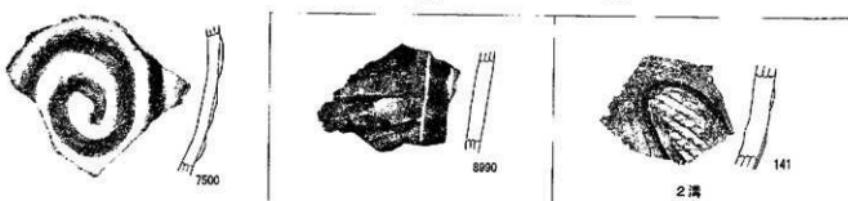
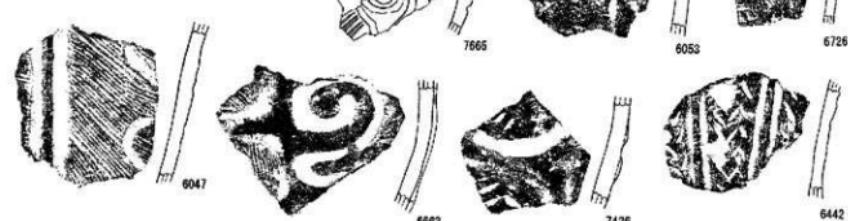
第46図 遺構外出土縄文土器②



4号周清墓(清内)



5号周清墓(方台部)

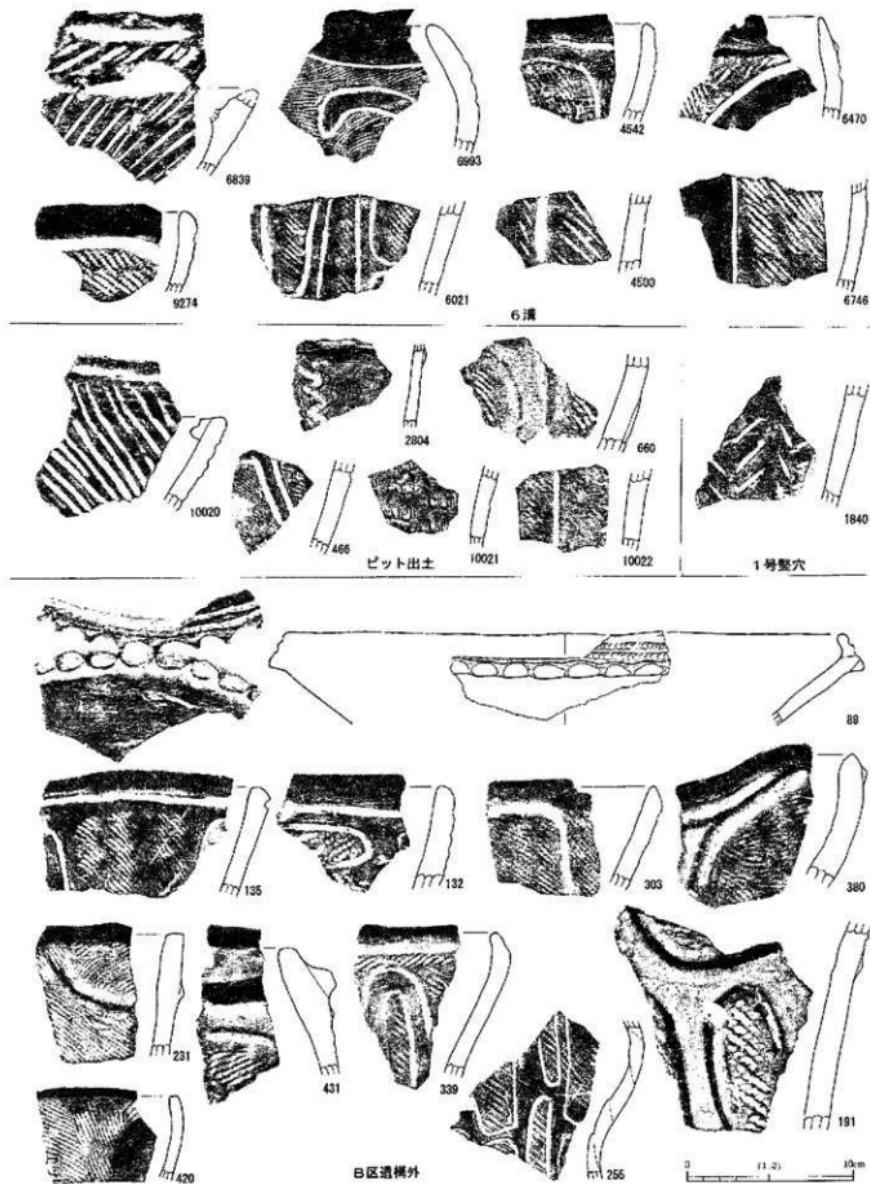


5号周清墓(清内)

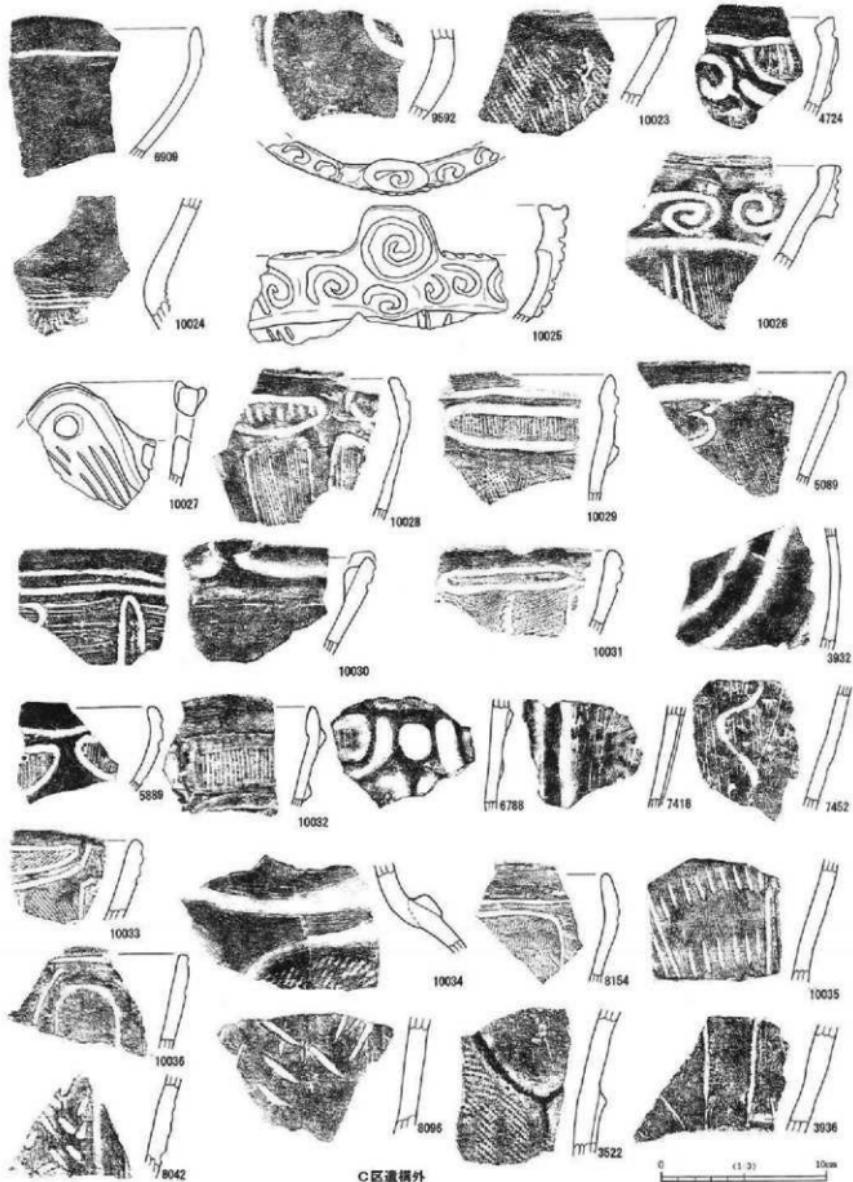
6号周清墓

0 (1:3) 10cm

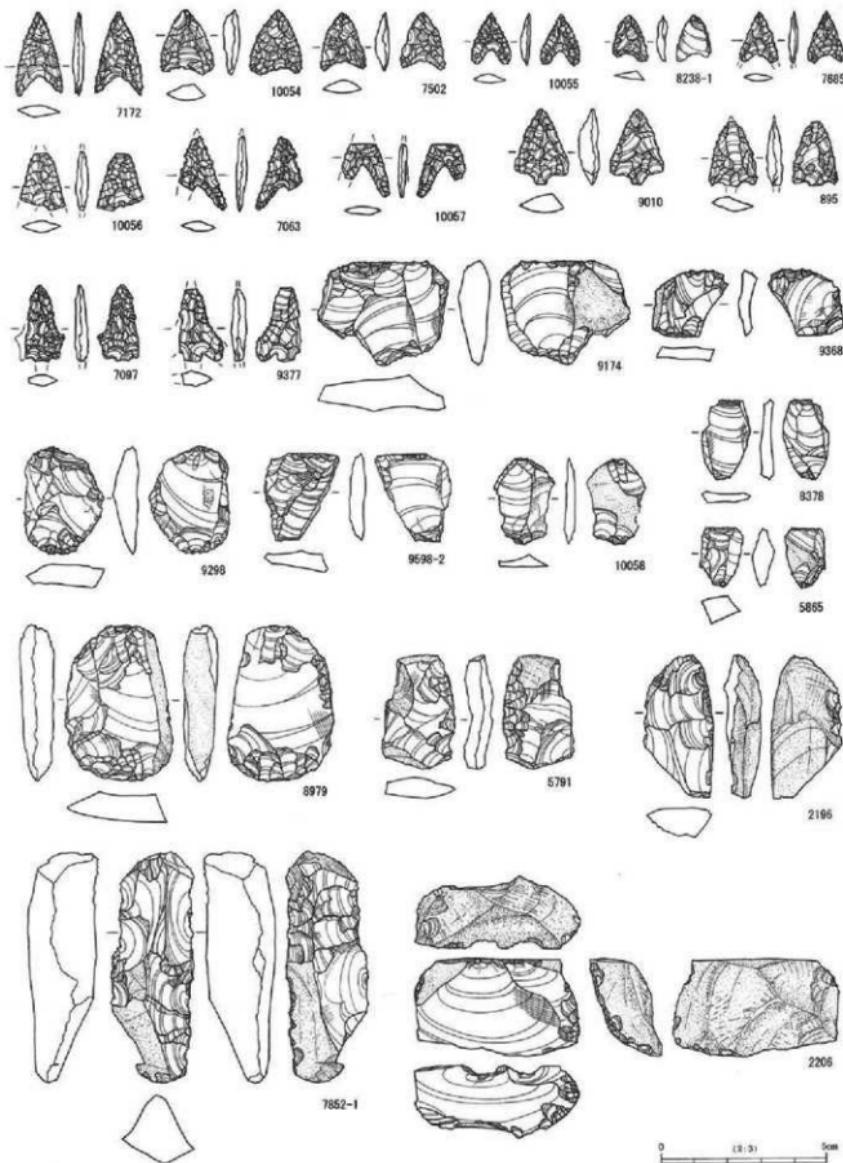
第47図 造模外出土縄文土器③



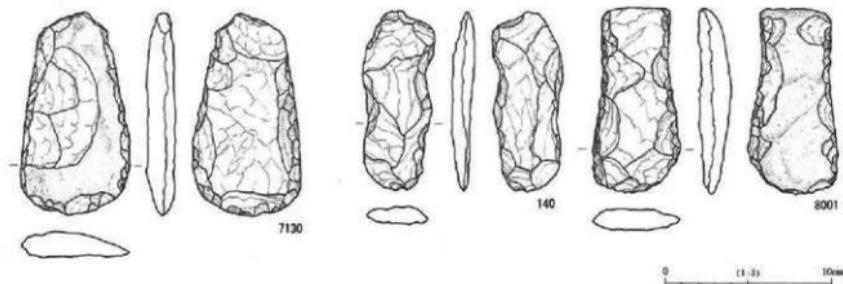
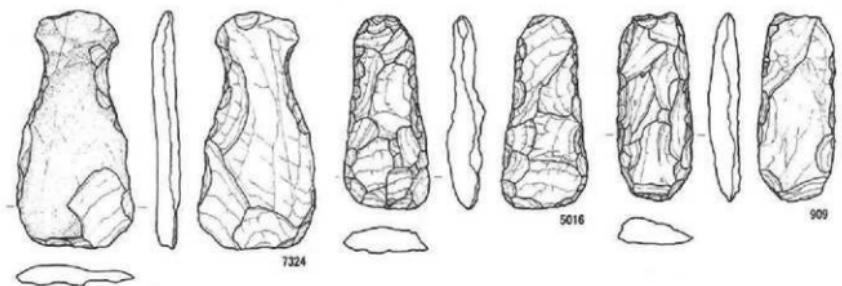
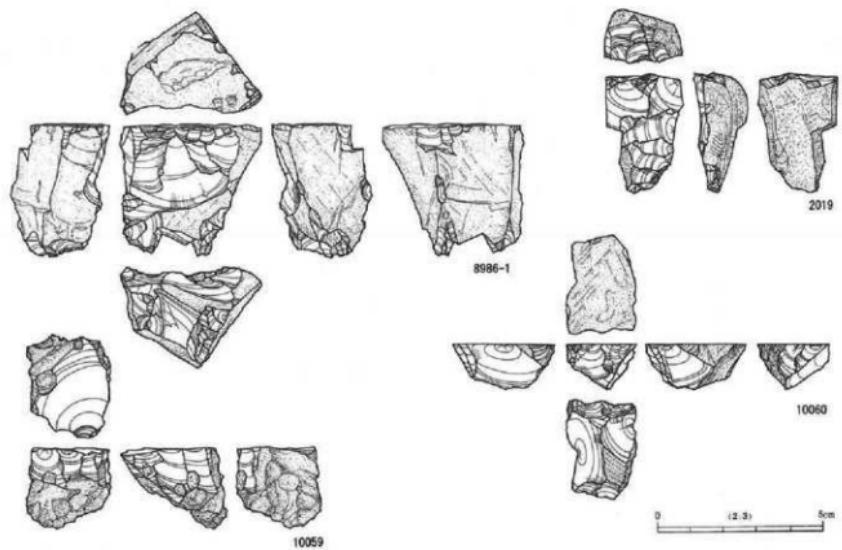
第48図 造構外出土縄文土器④



第49図 遺構外出土縄文土器⑤



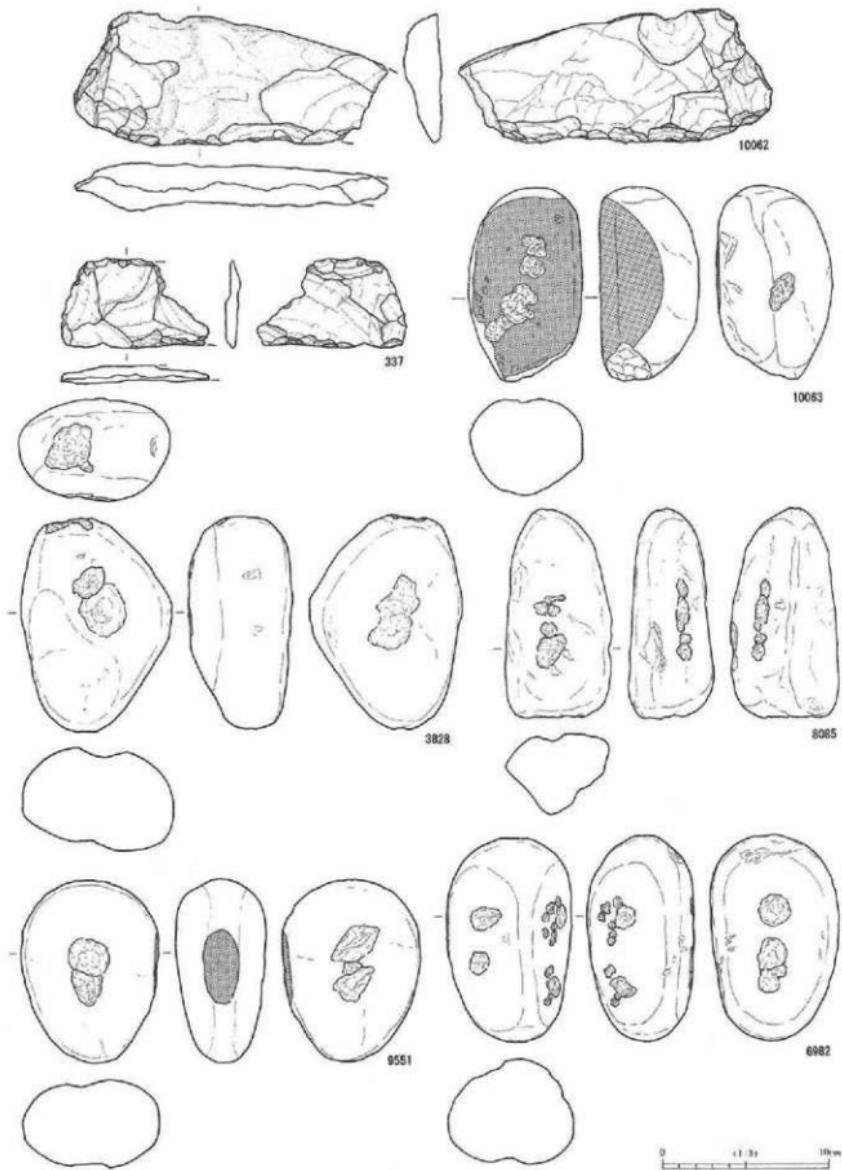
第50図 出土石器①



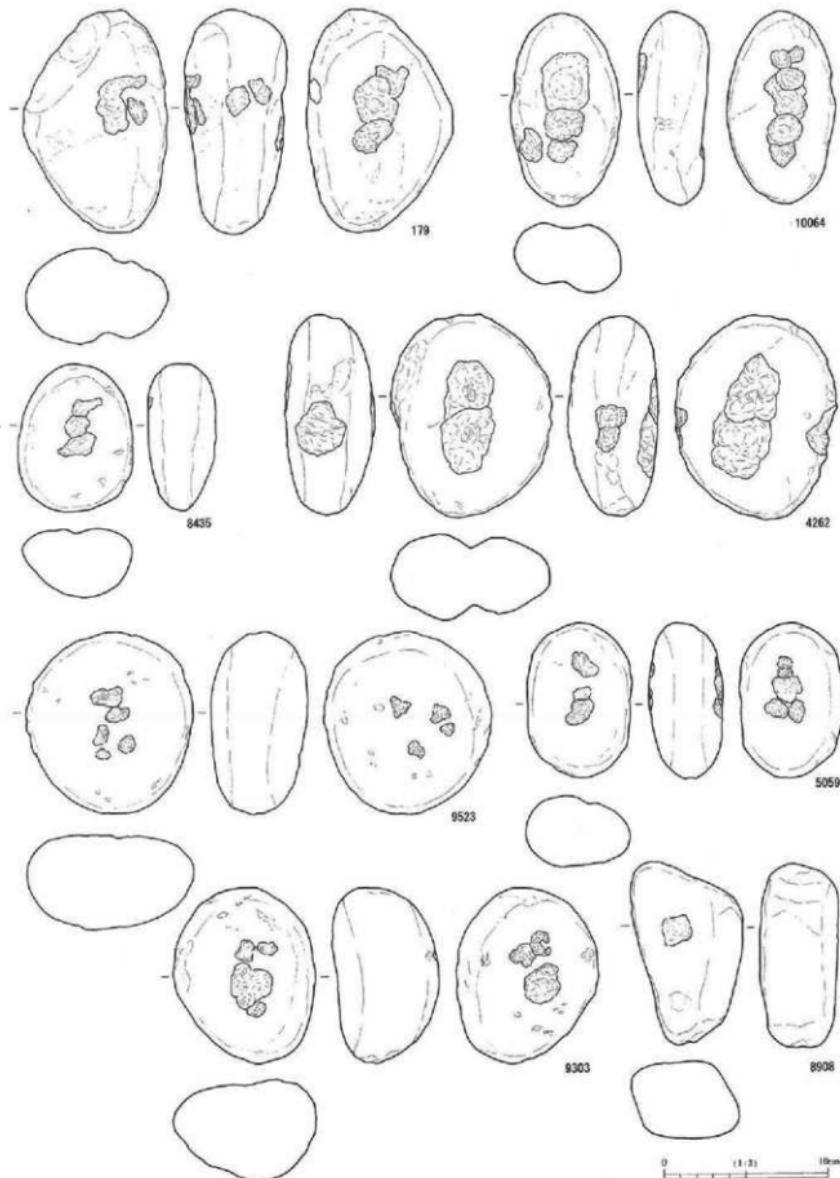
第51図 出土石器②



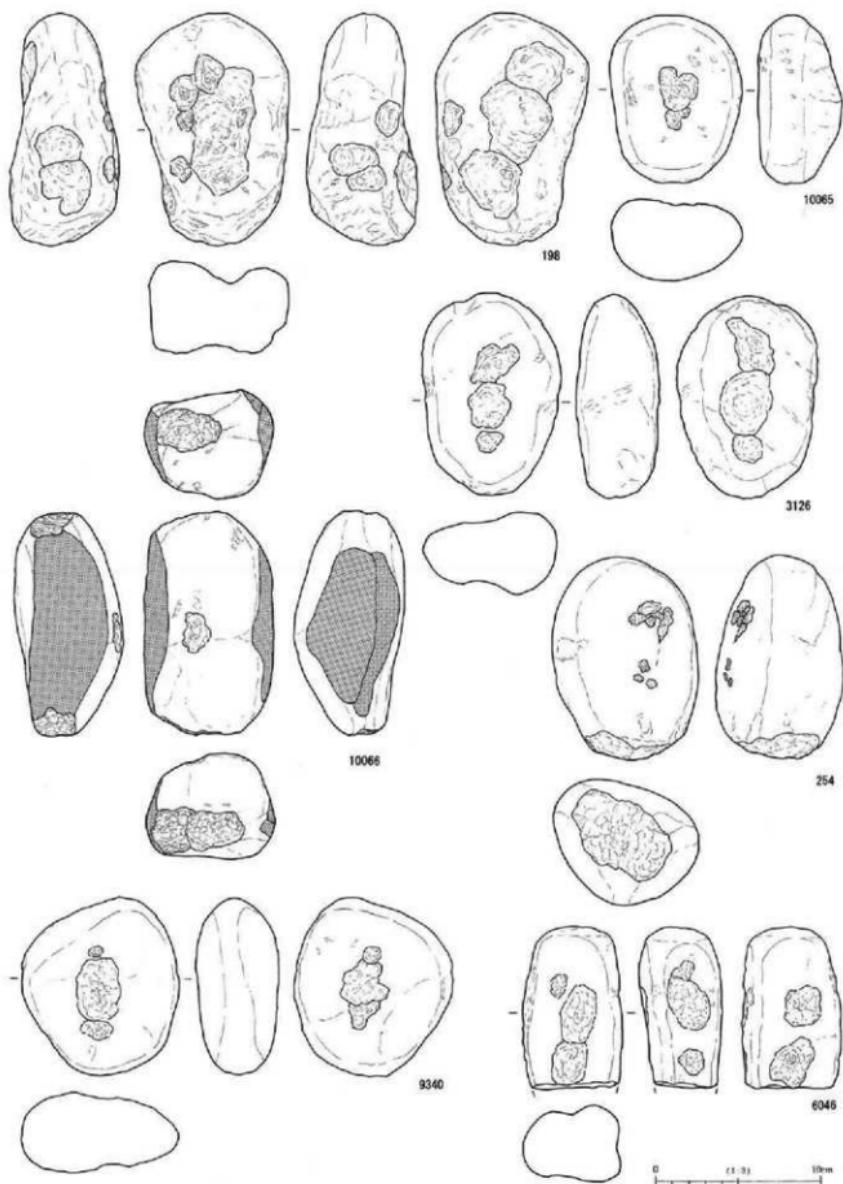
第52図 出土石器③



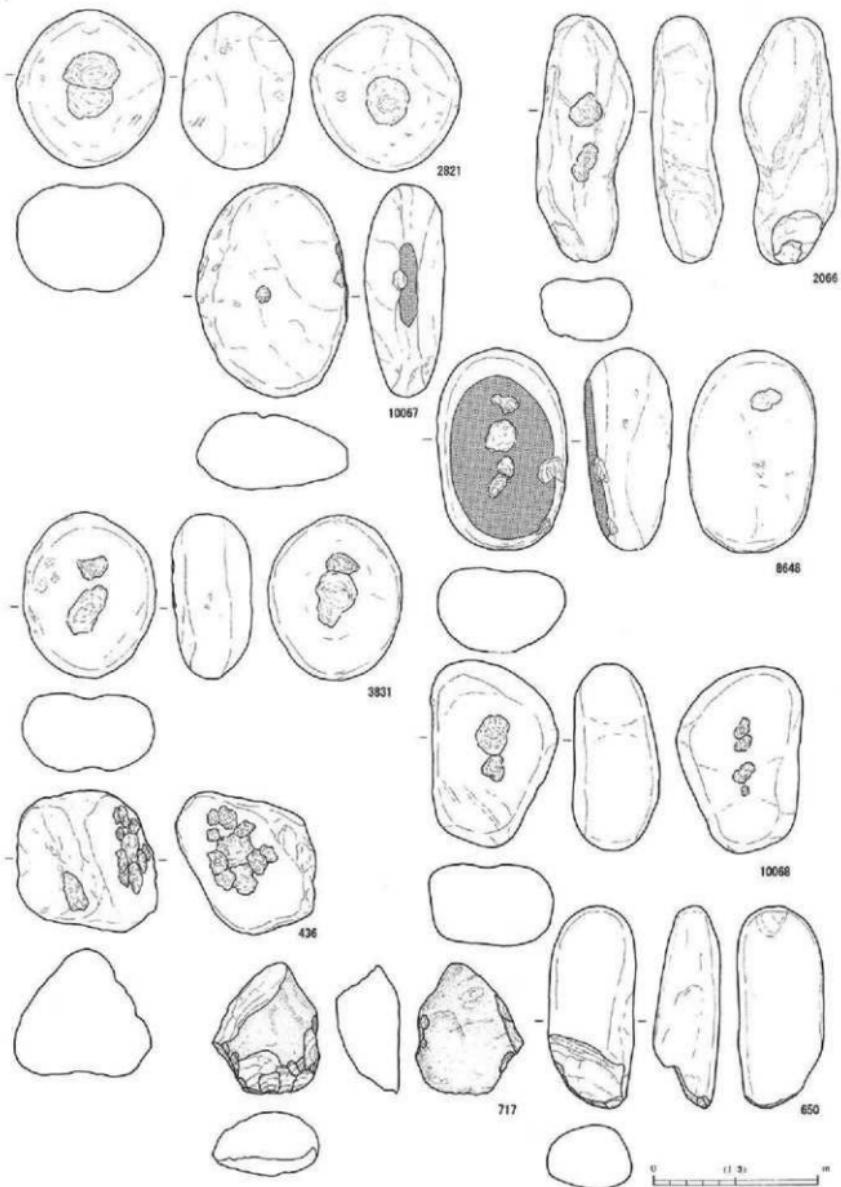
第53図 出土石器④



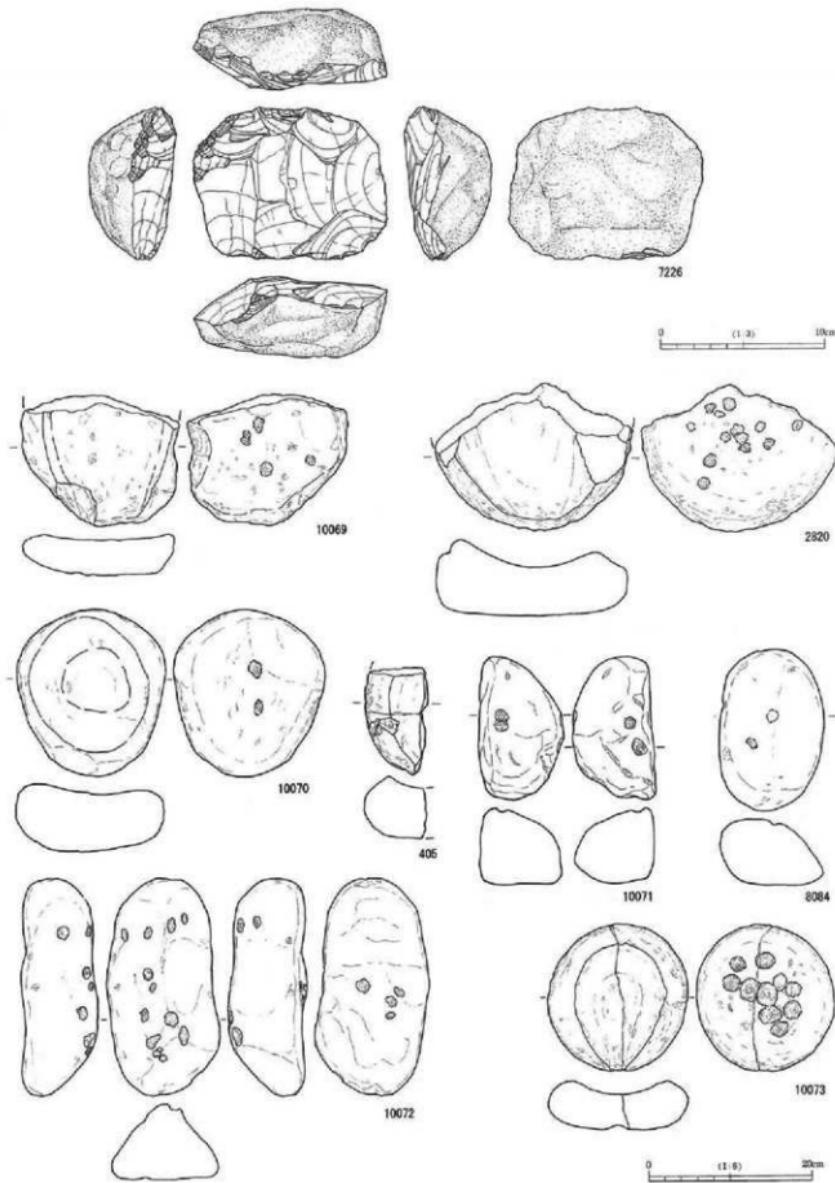
第54図 出土石器⑤



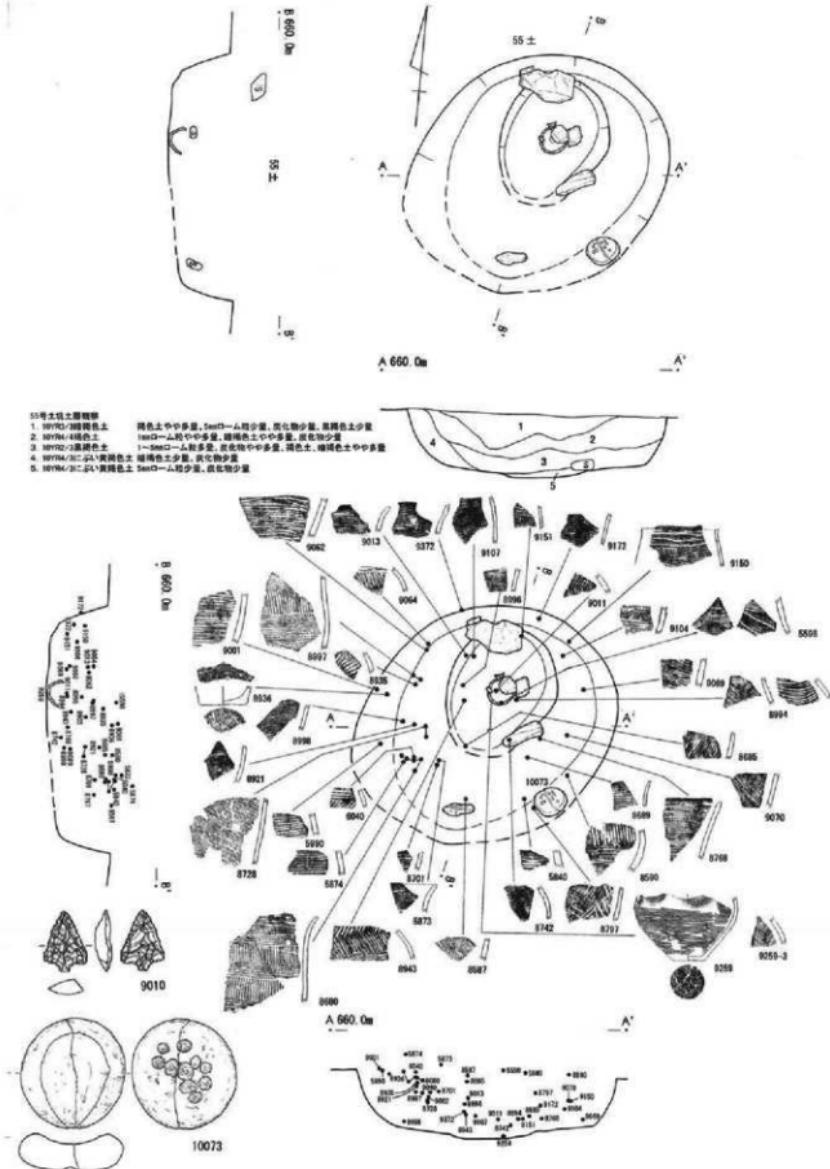
第55図 出土石器⑥



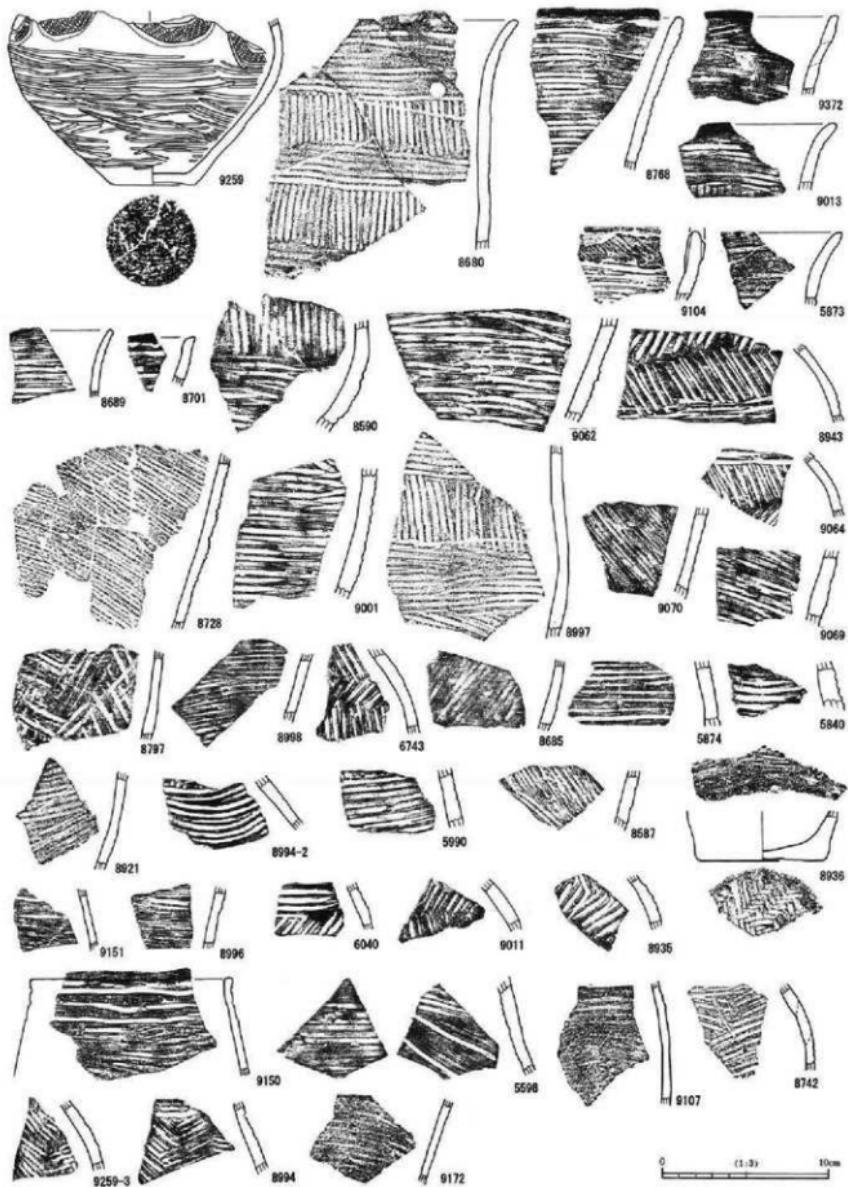
第56図 出土石器⑦



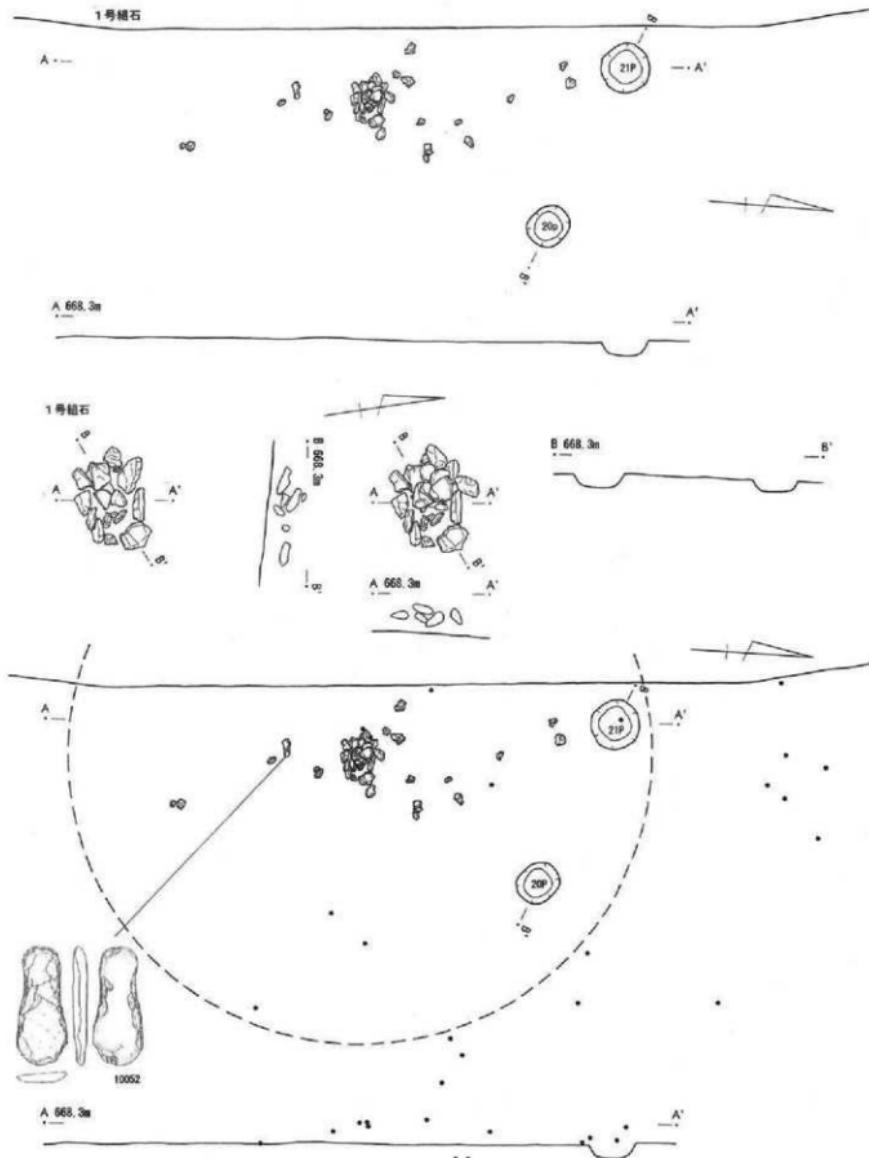
第57図 出土石器⑧



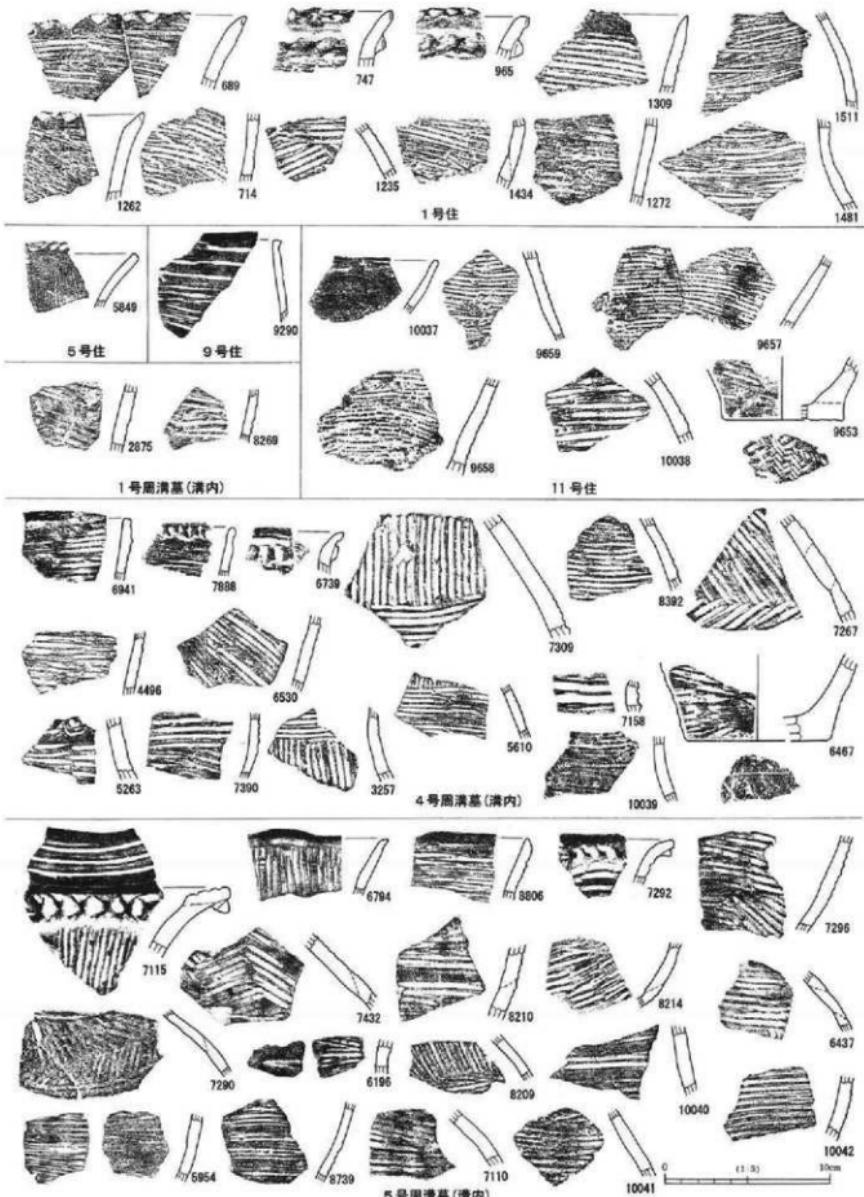
第 58 圖 55 号土坑、遺物出土状況



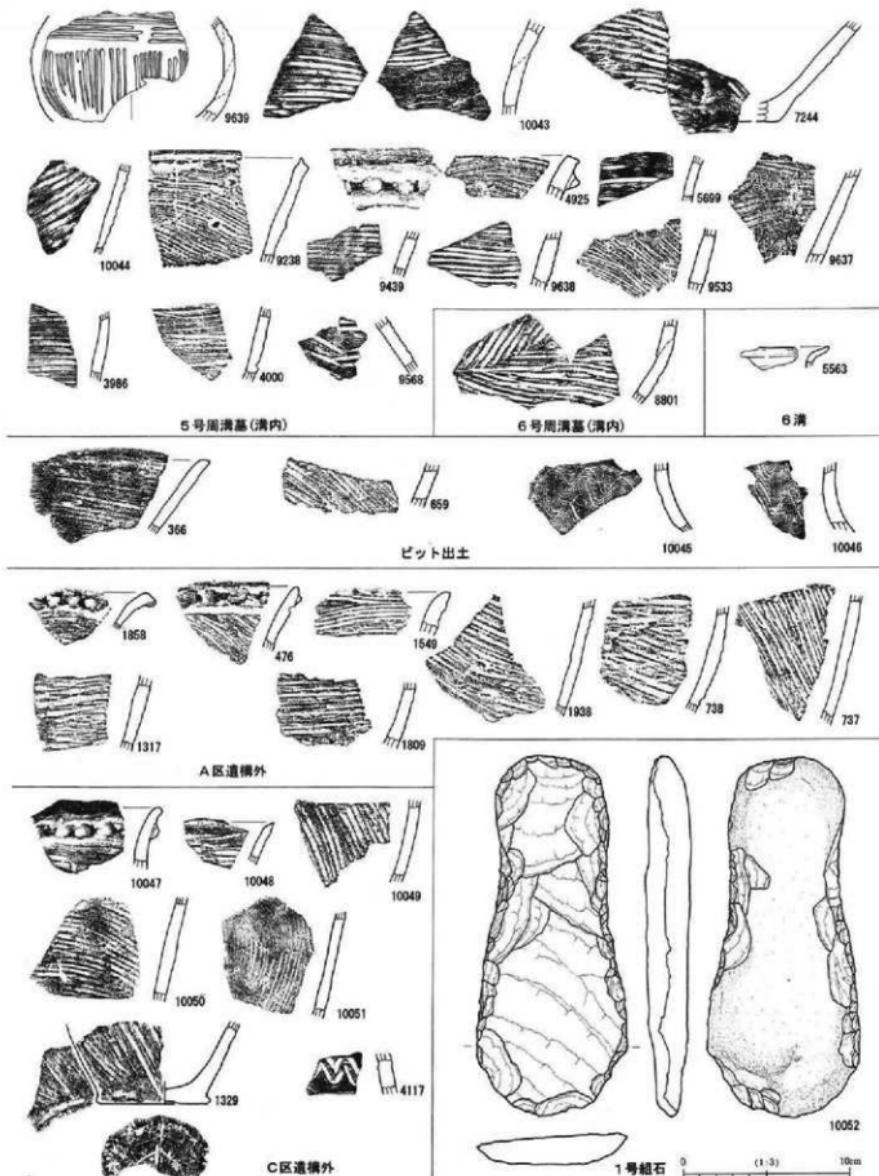
第59図 55号土坑出土遺物



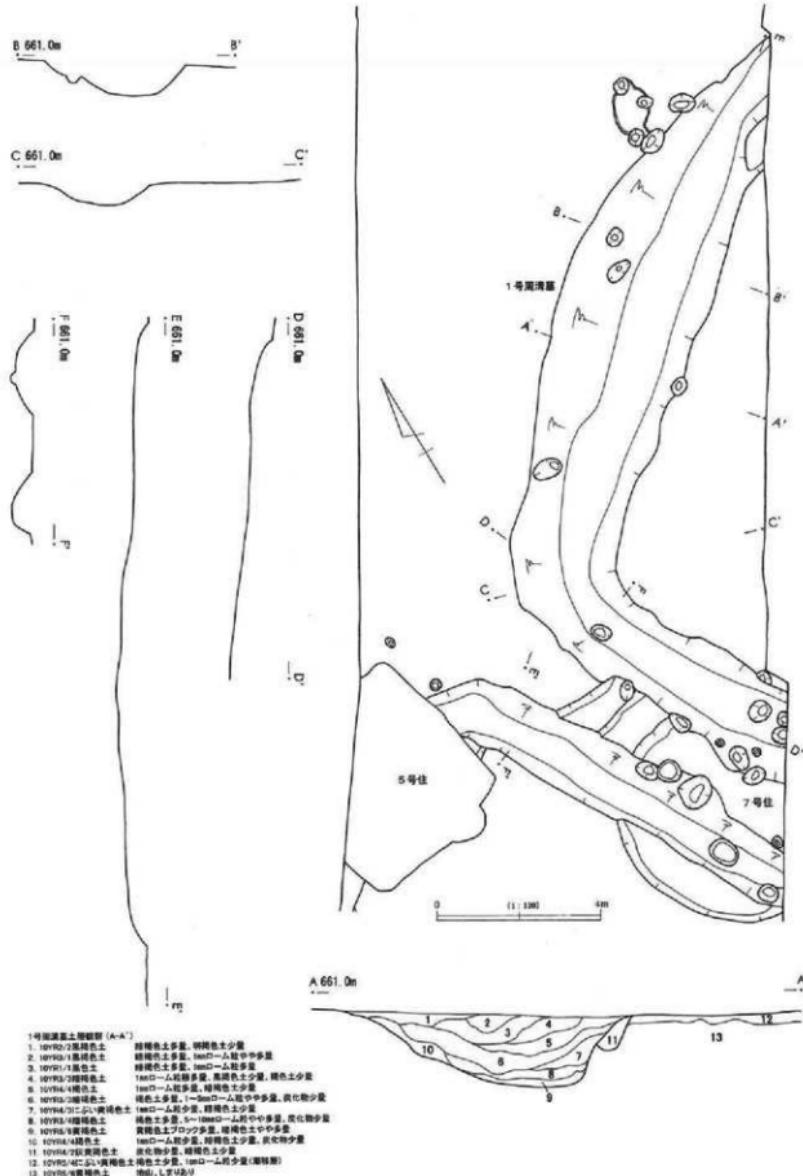
第60図 1号組石遺構、遺物出土状況



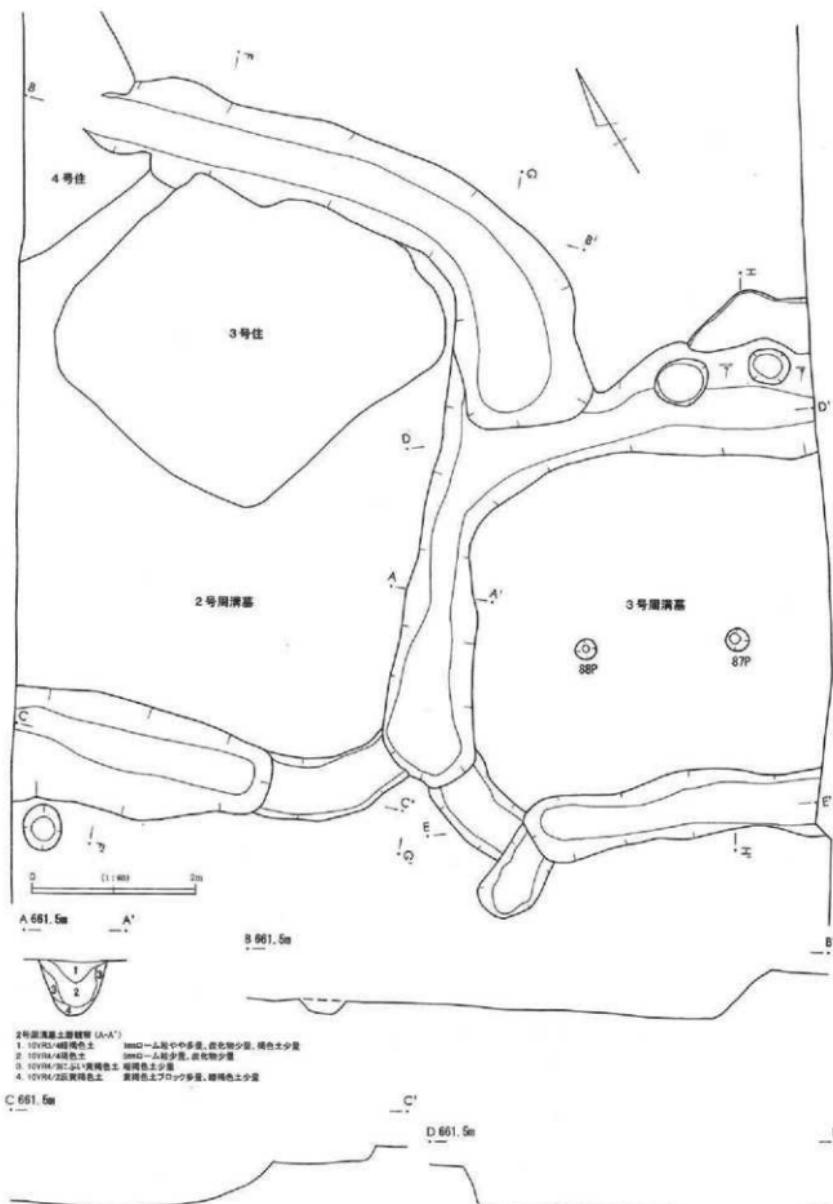
第 61 図 遺構外出土弥生土器①



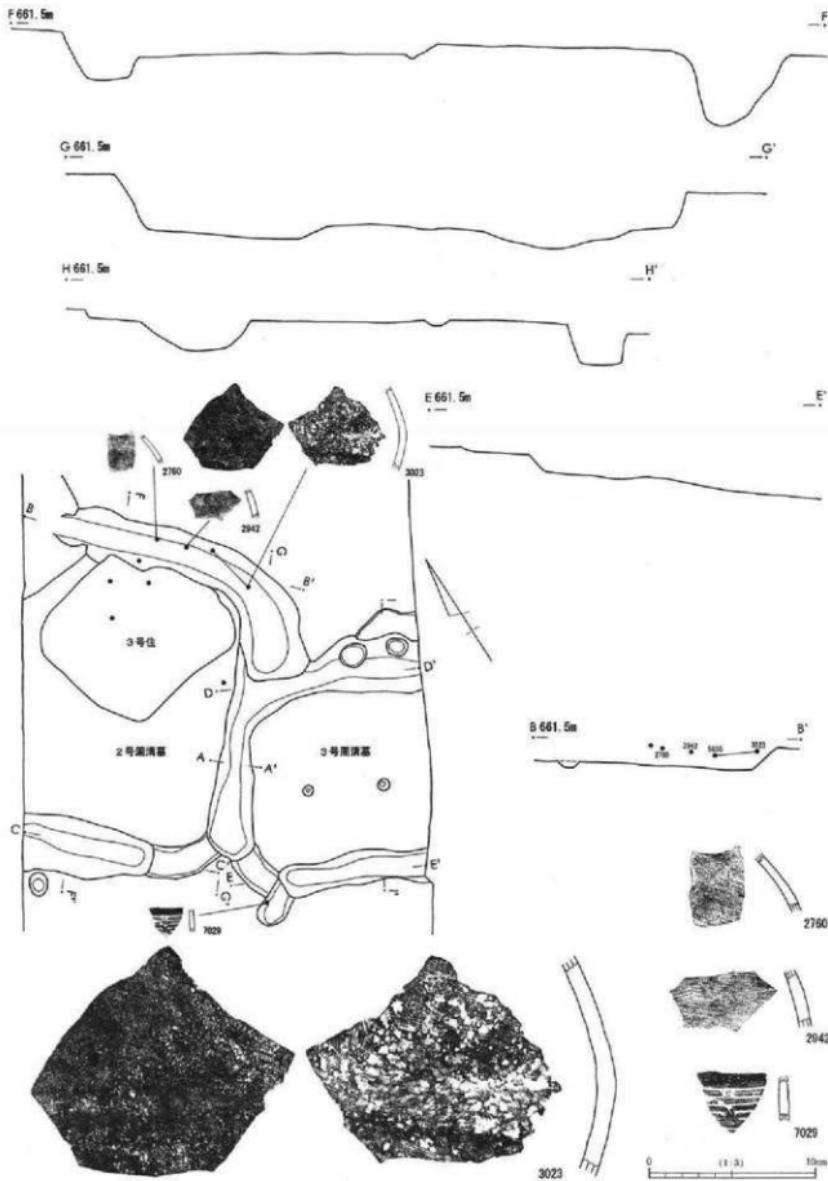
第62図 遺構外出土弥生土器②、1号組石遺構周辺出土土器



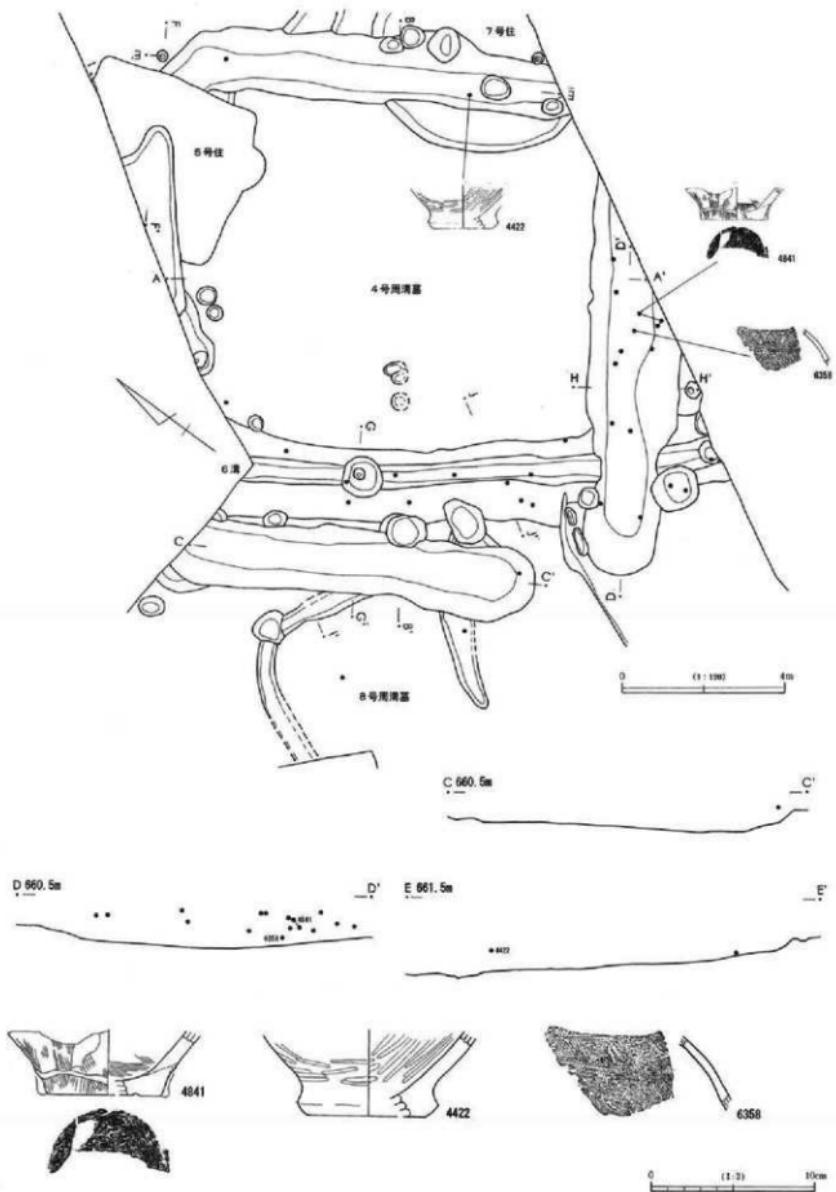
第 63 図 1号周清基



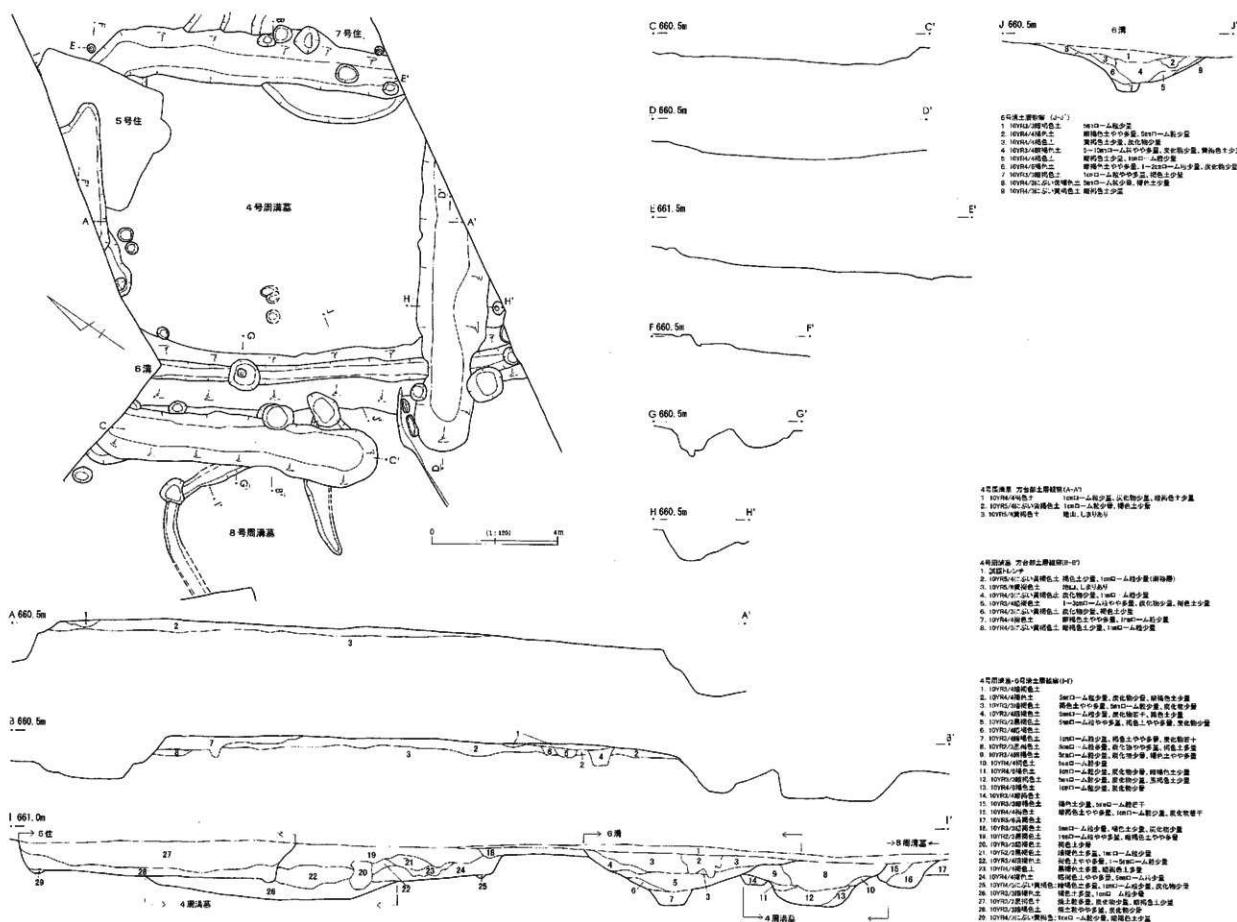
第64図 2・3号周溝基



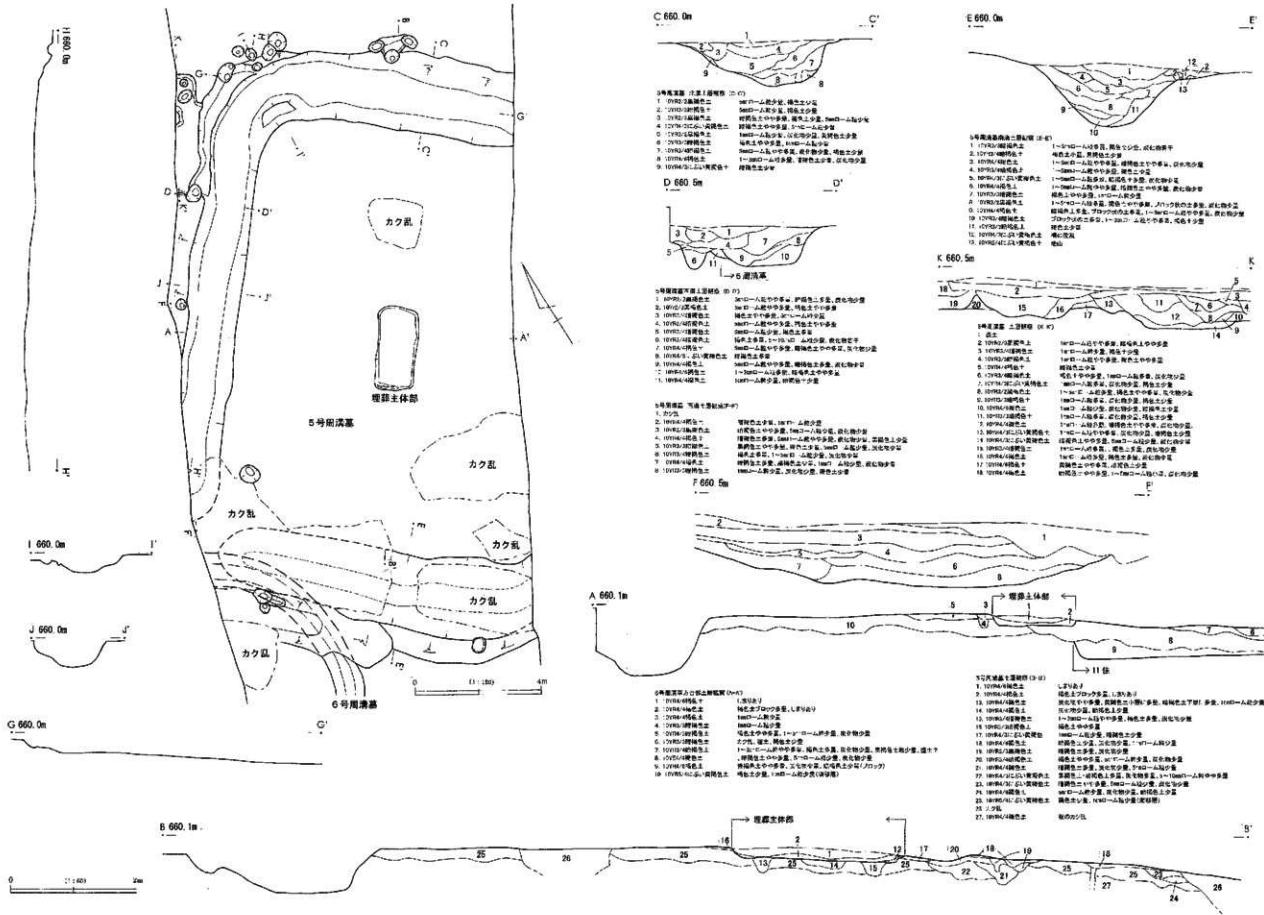
第65図 2・3号周溝墓遺物出土状況、出土遺物



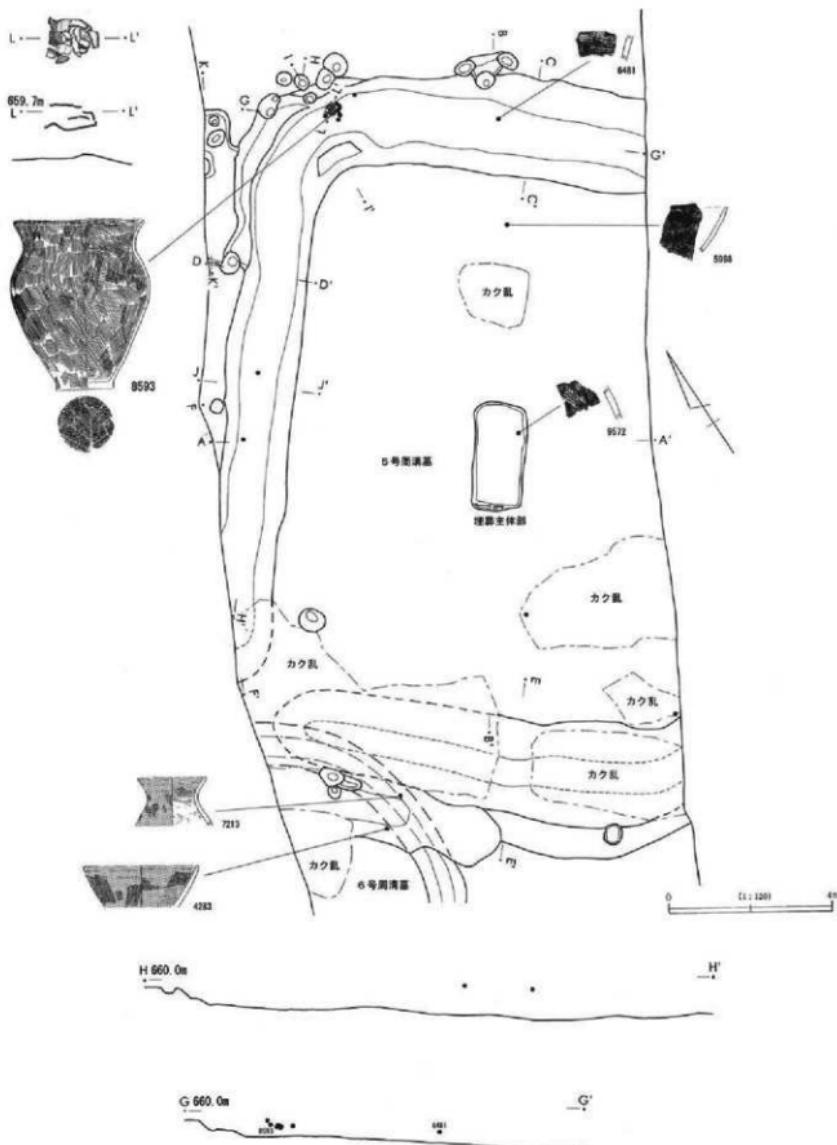
第66図 4号周清墓・6号周清墓出土状況、出土遺物



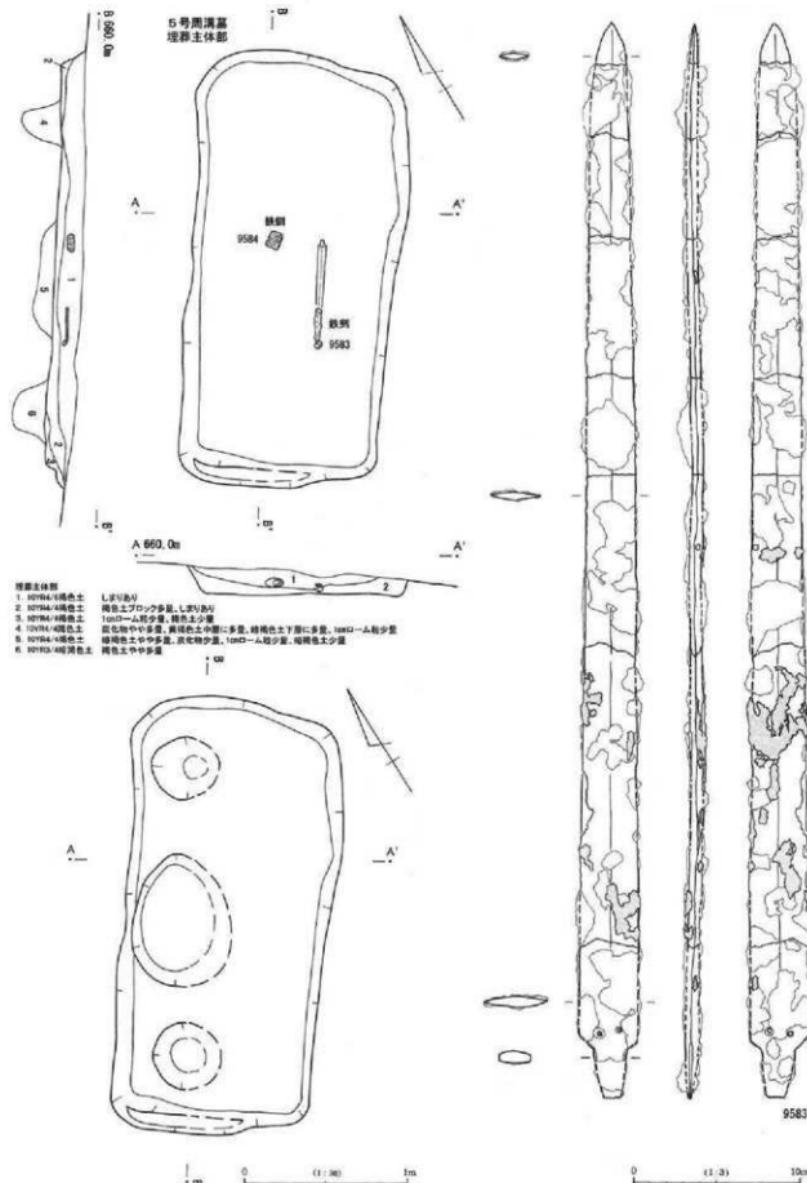
第67図 4号周溝基、6号溝



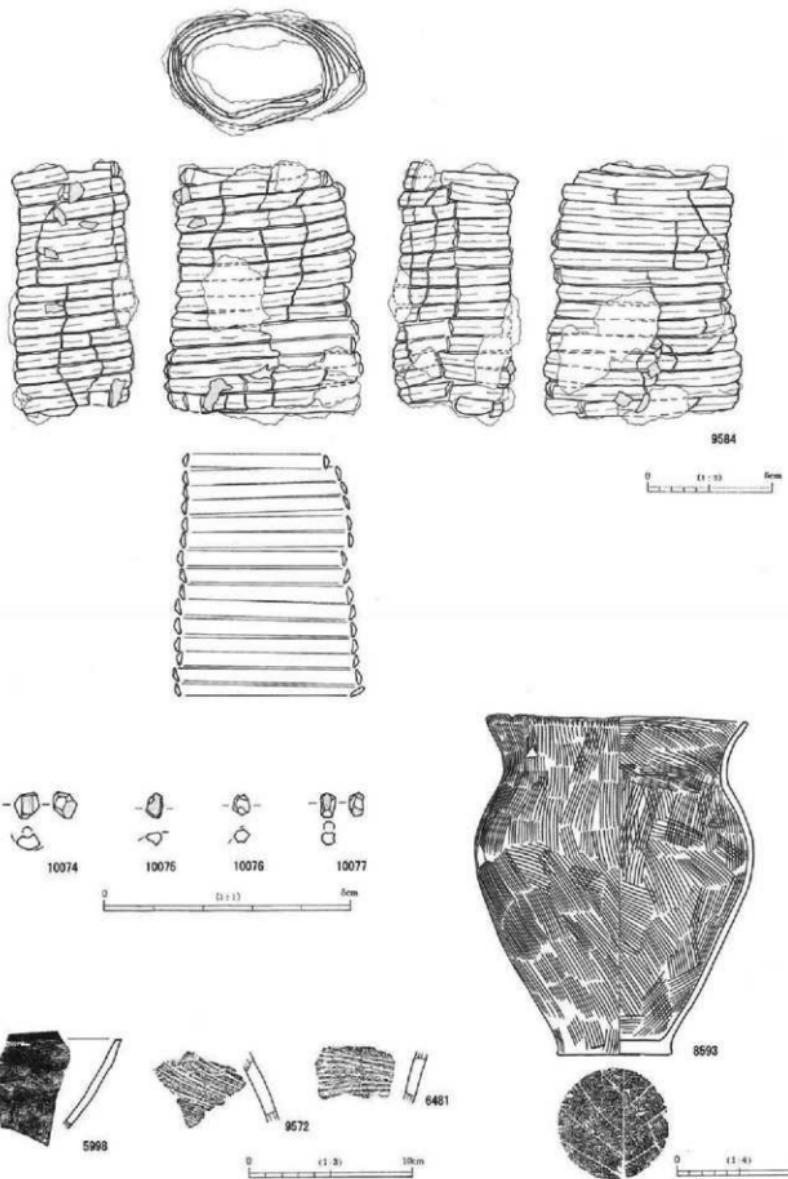
第68図 5号周溝基



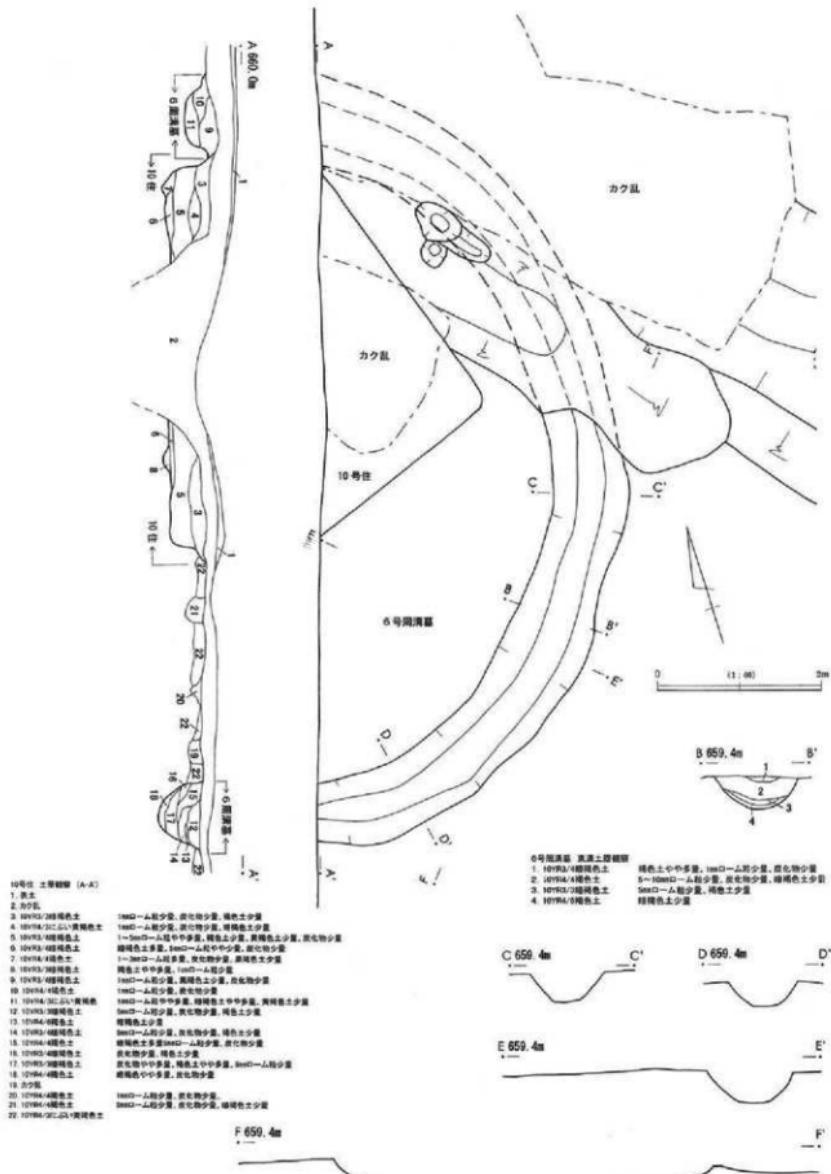
第 69 図 5 号周溝墓遺物出土状況



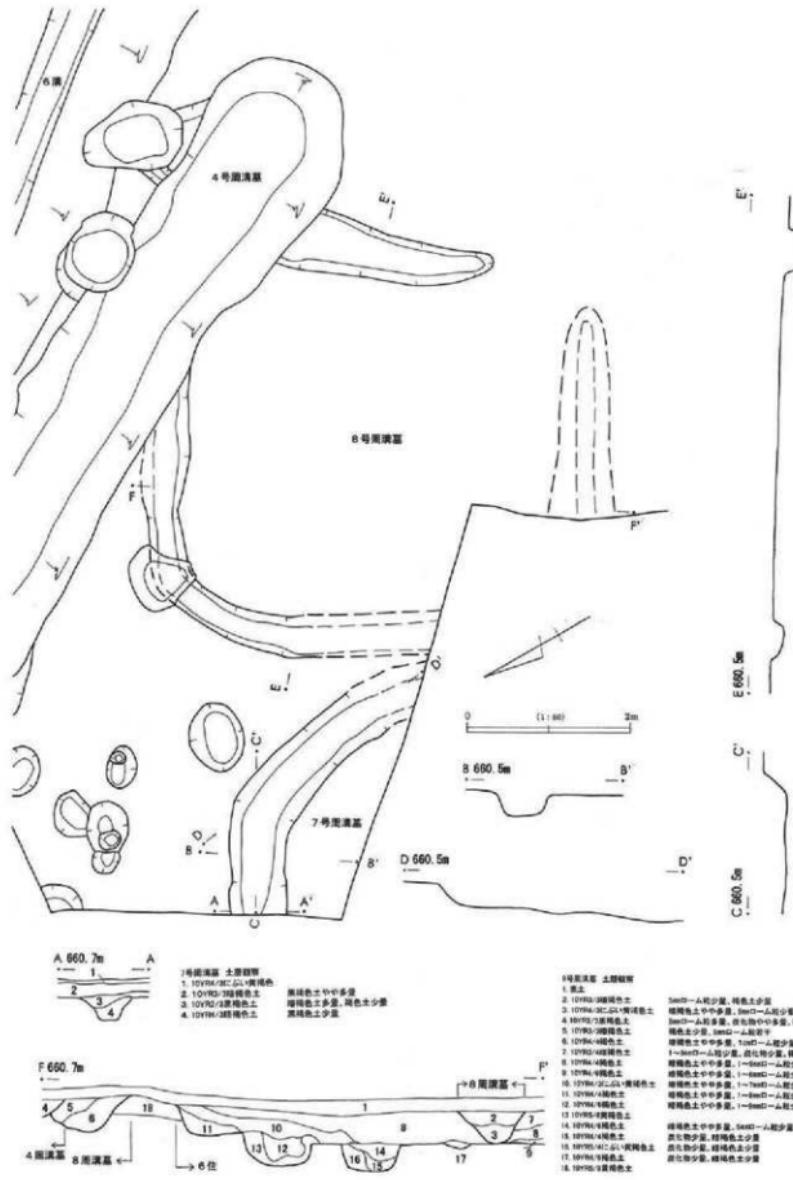
第70図 5号周清墓埋葬主体部、出土遺物①



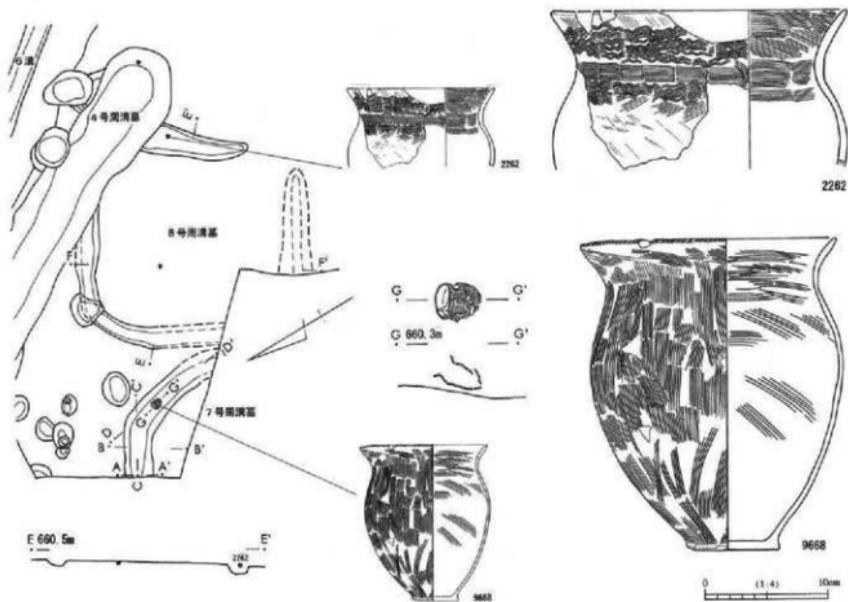
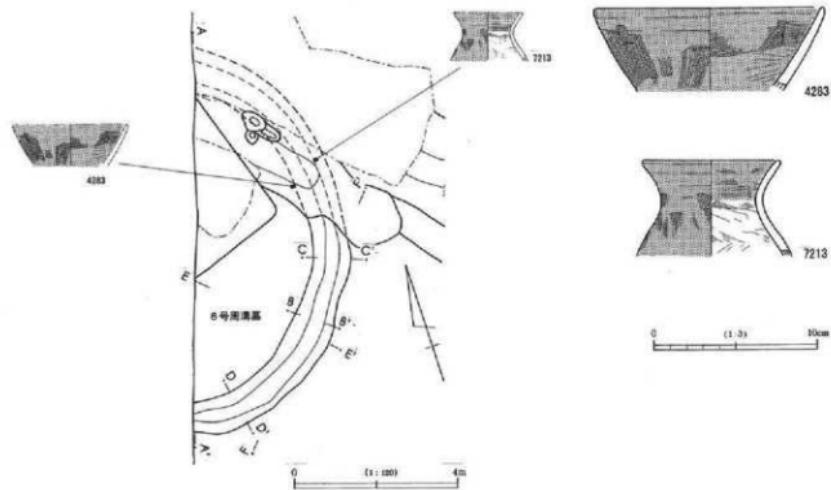
第 71 図 5 号周溝墓出土遺物②



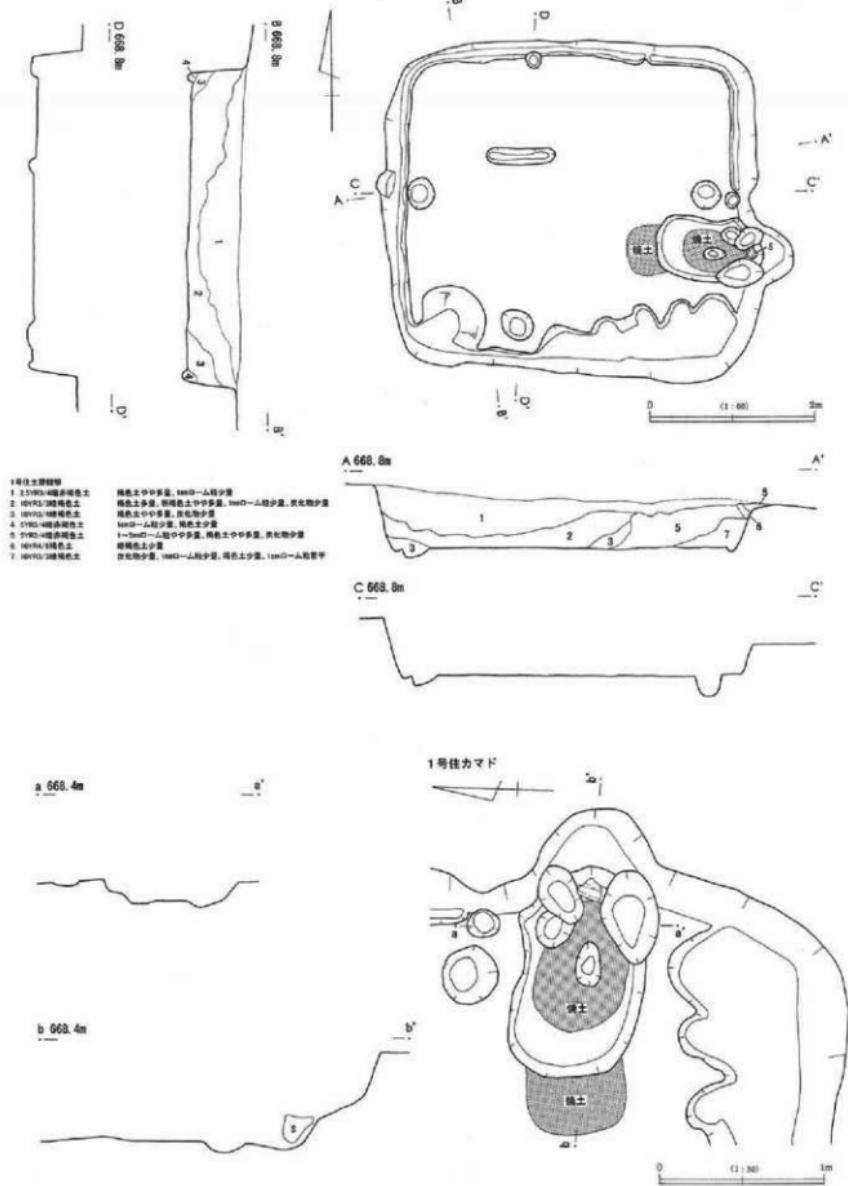
第 72 図 6号周溝墓



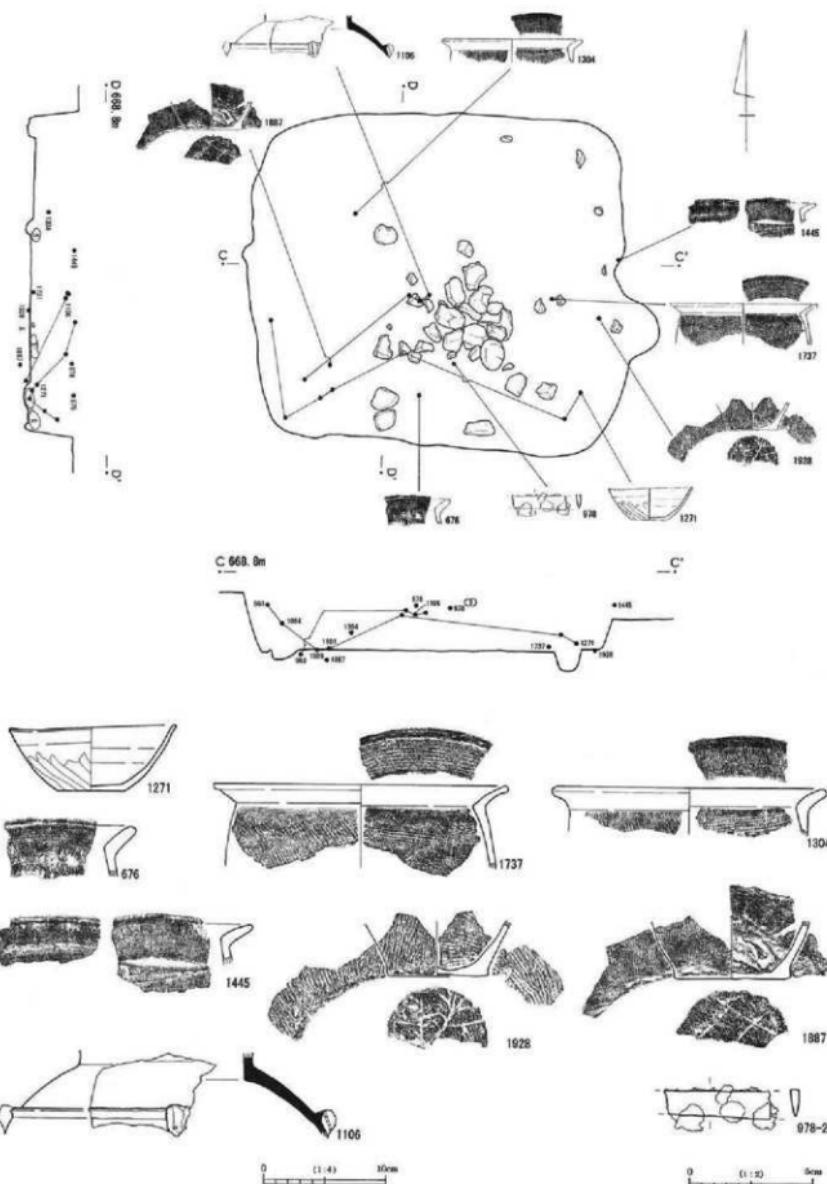
第73図 7・8号周溝基



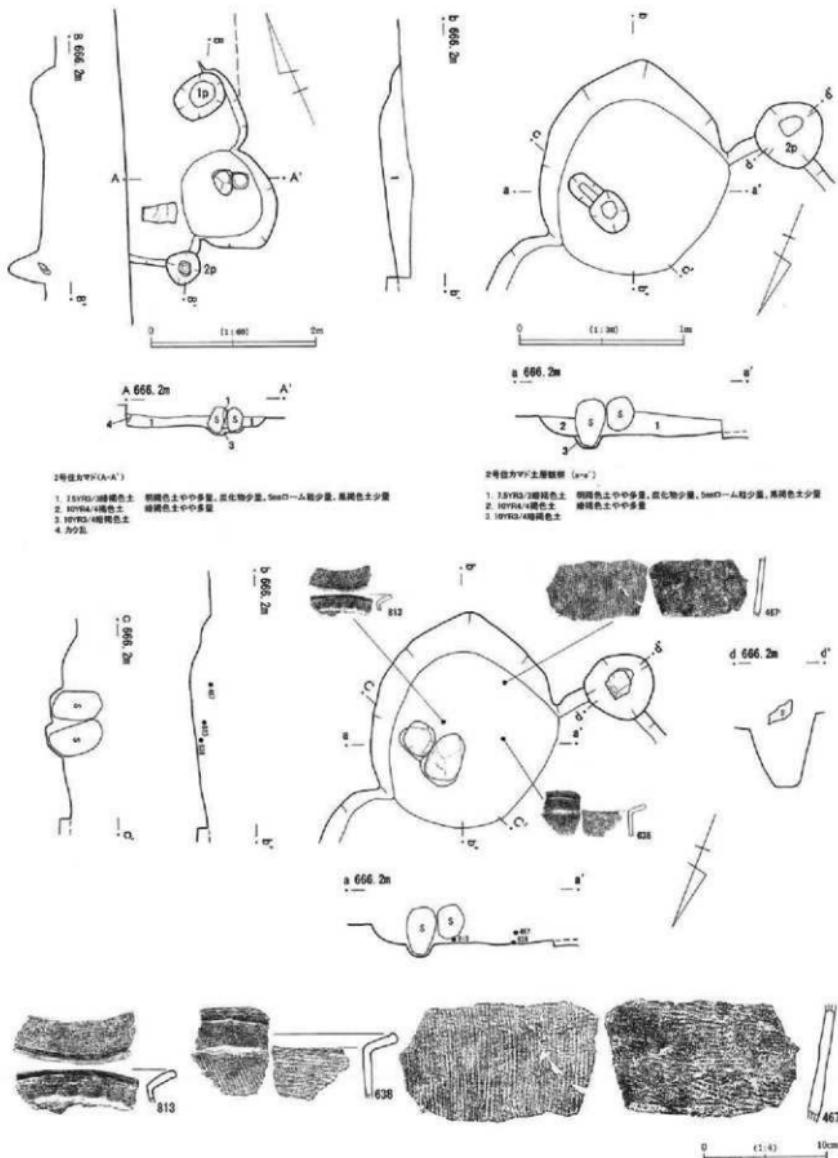
第74図 6～8号周溝墓遺物出土状況、出土遺物



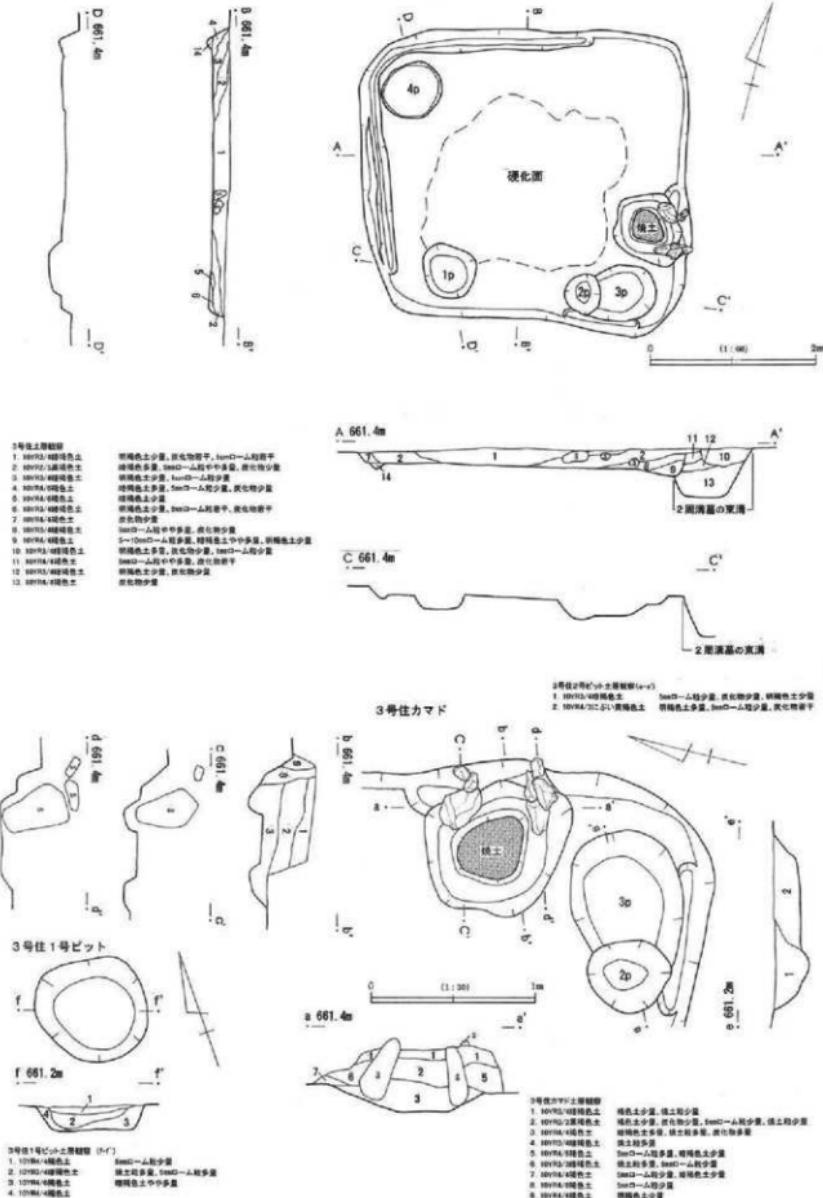
第75図 1号住居跡、カマド



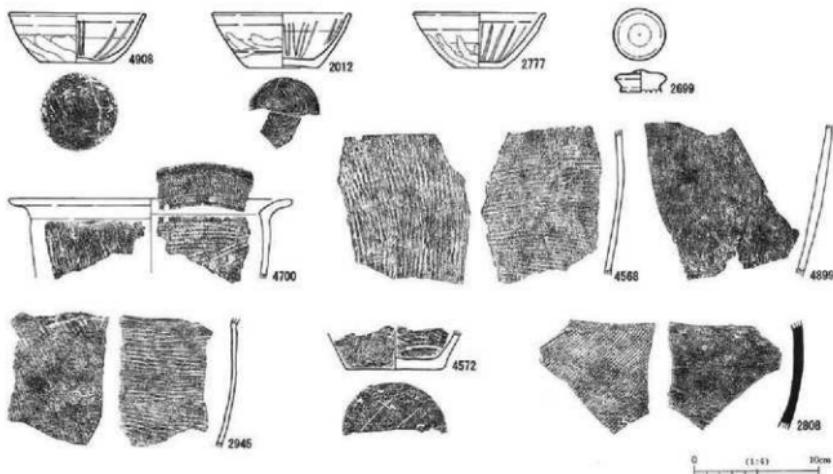
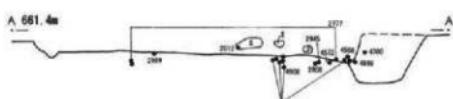
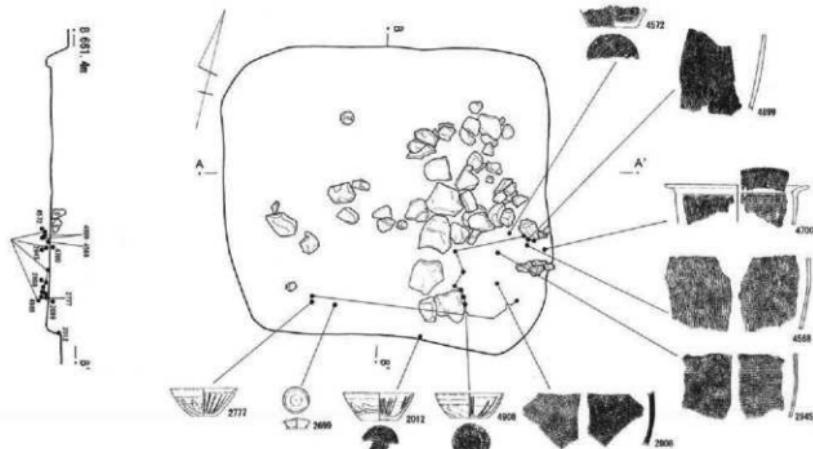
第76図 1号住居跡遺物出土状況、出土遺物



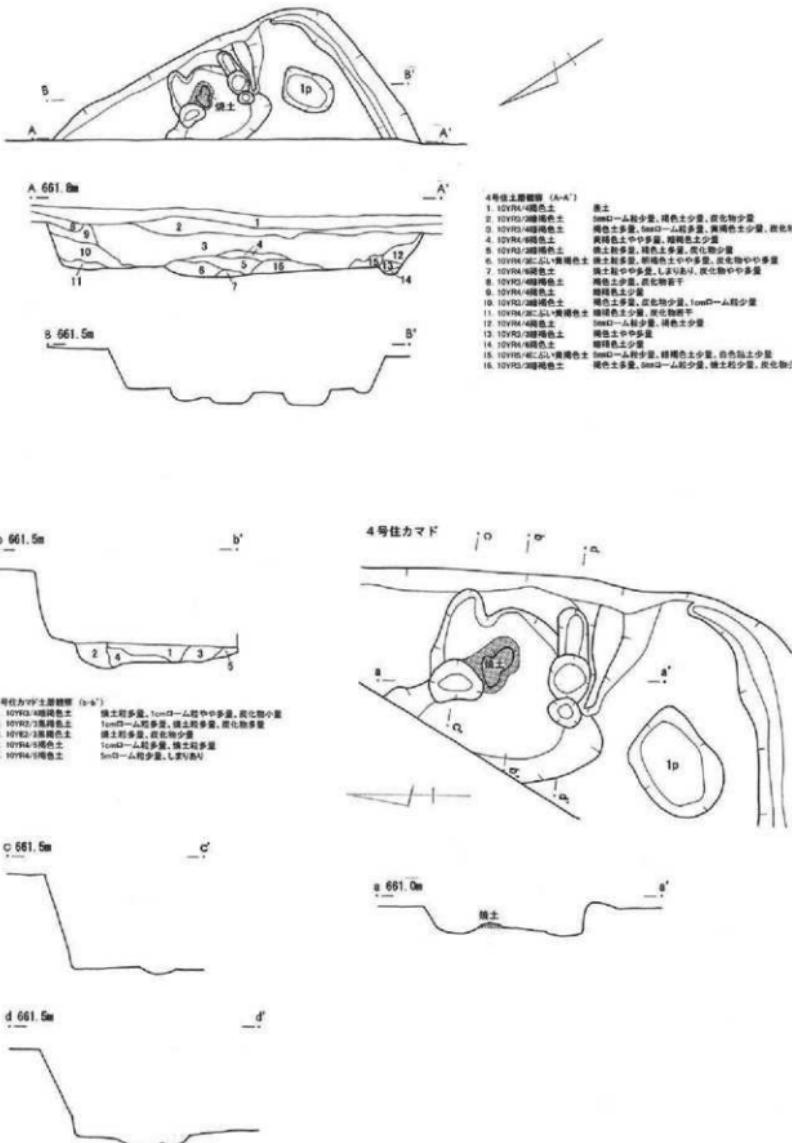
第 77 図 2号住居跡、カマド、出土遺物



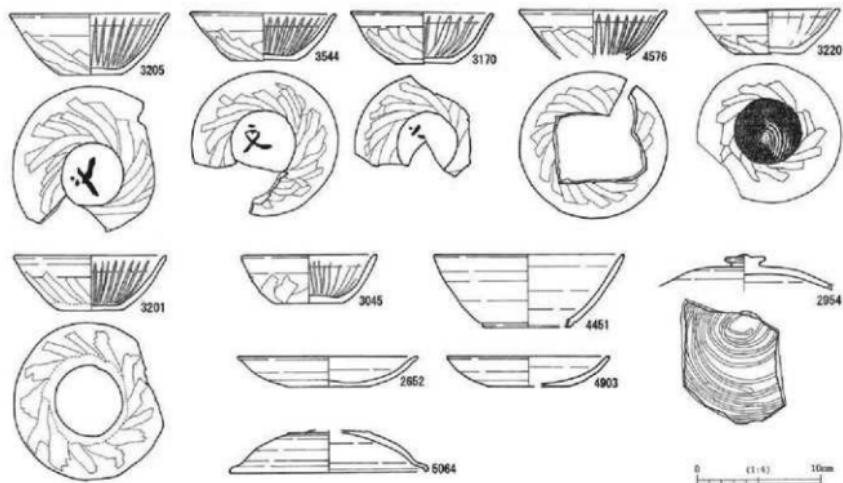
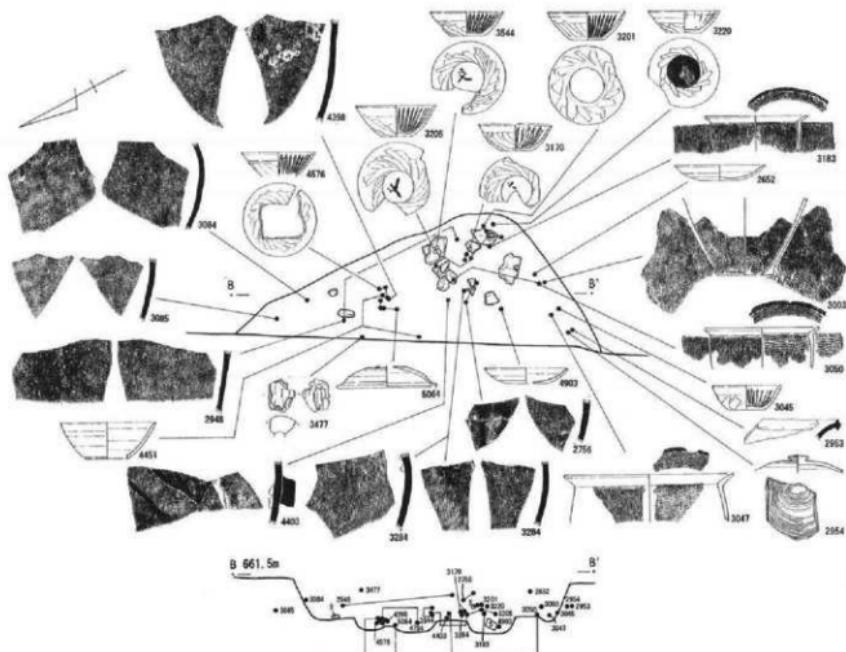
第78図 3号住居跡、カマド、1~3号ビット



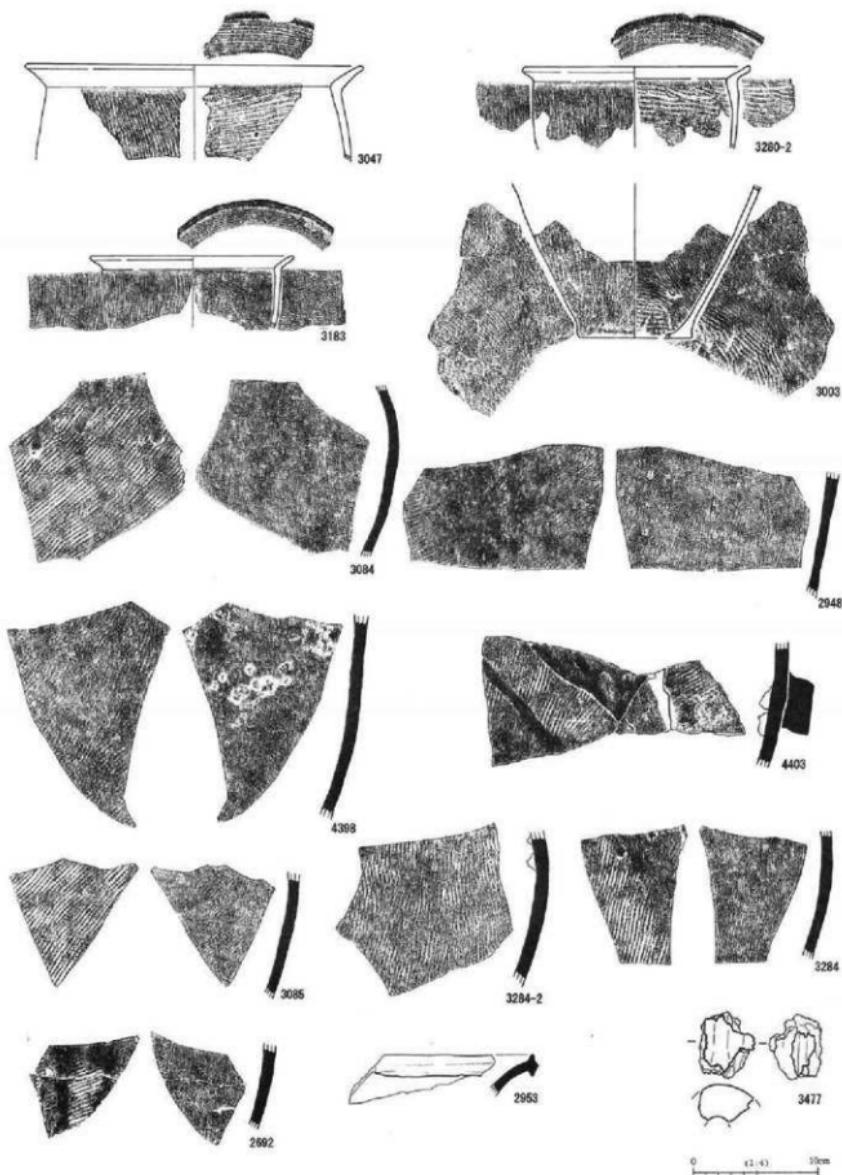
第79図 3号住居跡遺物出土状況、出土遺物



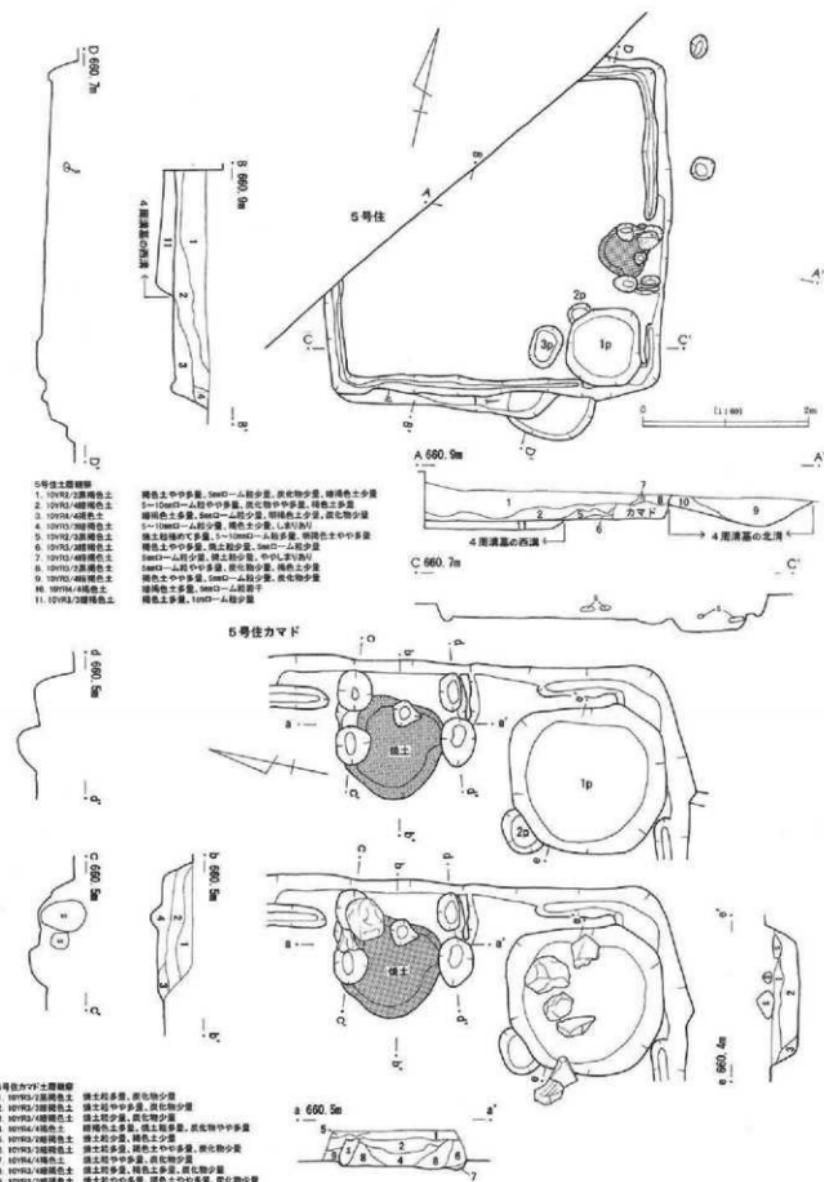
第80図 4号住居跡、カマド



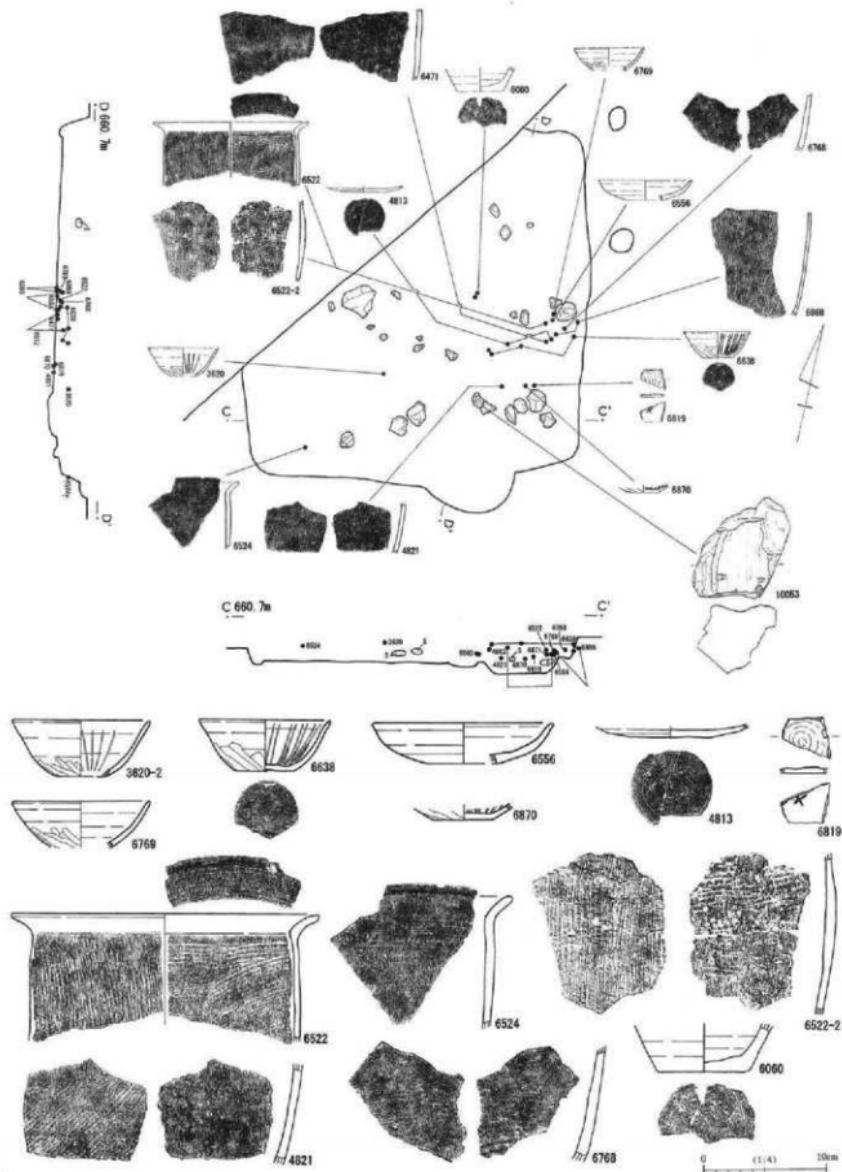
第 81 図 4 号住居跡遺物出土状況、出土遺物①



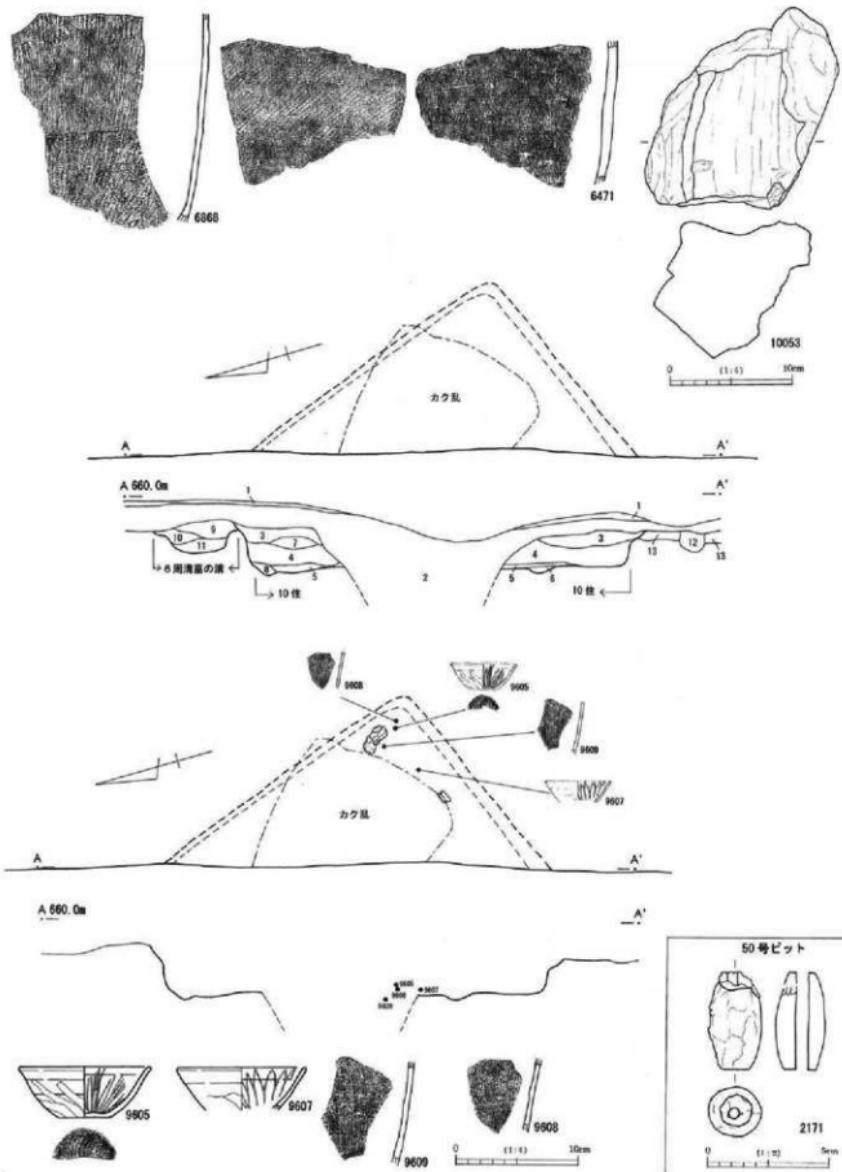
第82図 4号住居跡出土遺物②



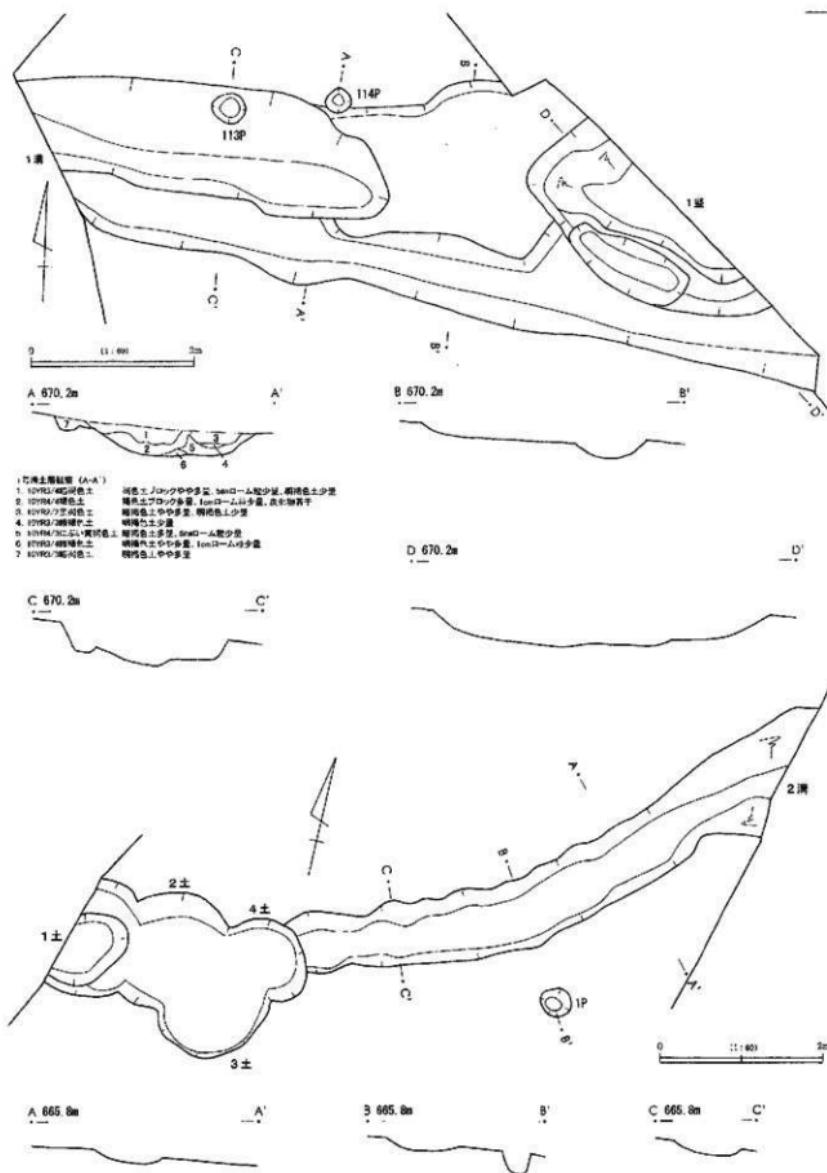
第83図 5号住居跡、カマド、1号ピット



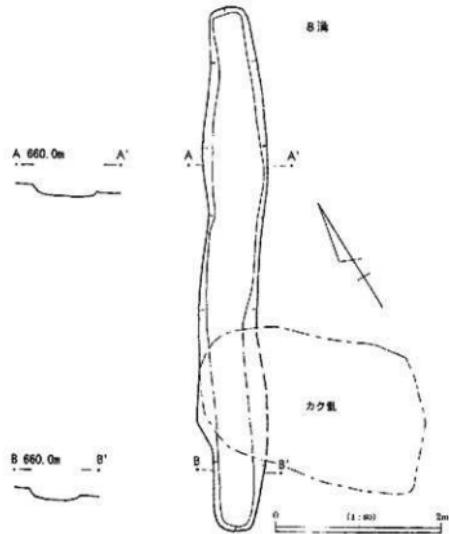
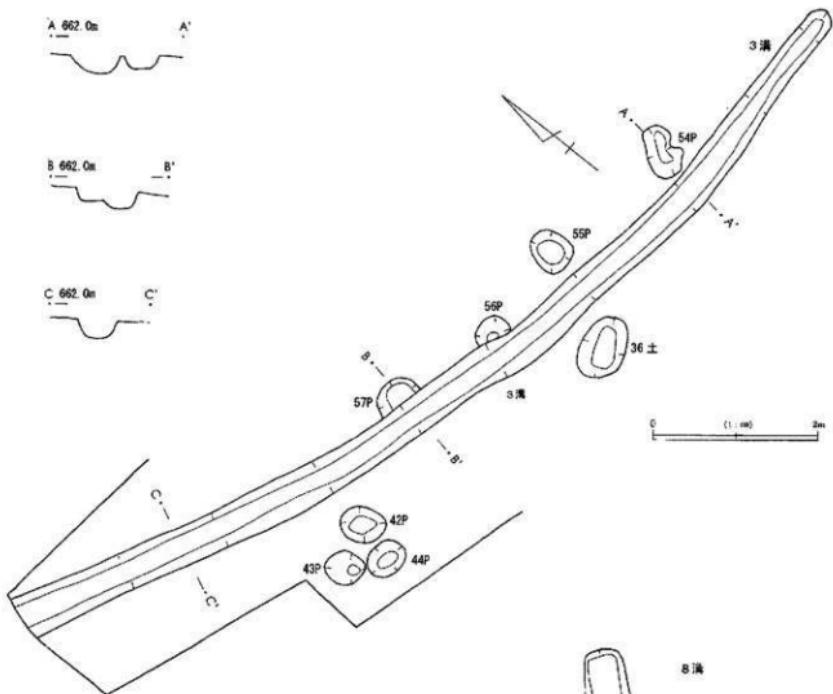
第84図 5号住居跡遺物出土状況、出土遺物①



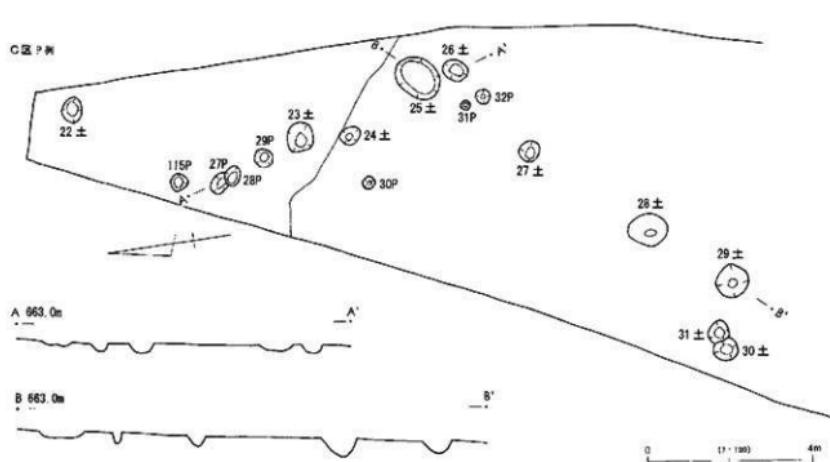
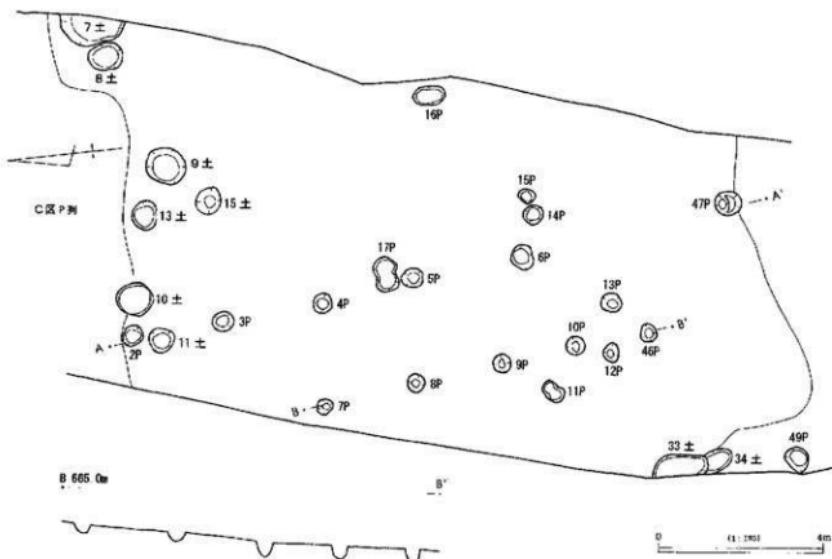
第85図 5号住居跡出土遺物②、10号住居跡、遺物出土状況、出土遺物、50号ビット出土遺物



第86図 1号竖穴状造構、1・2号溝



第 87 図 3・8号溝



第88図 B区土坑・ピット群・C区土坑・ピット群

第4章 調査の成果と課題

今回の調査で、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・平安時代の遺構・遺物が発見された。以下、注目される成果と課題について述べていく。

第1節 調査区内における遺構の変遷

今回調査した範囲における、遺構の変遷は以下の通りである（第9図）。

旧石器時代：遺構は発見されていないが、B区とC区から石器が出土している。B区ではややまとまっており、C区では散在している。B区の石器出土地点は、北からの傾斜が「急傾やかになりわざかに平坦になるところである。C区南側も同様に平坦であるので、そのような場所を土に利用していた様子が伺える。

縄文時代：中期後半曾利式期の住居跡がC区の南側に5軒まとまって発見された。II号住が曾利IV～V式期で、それ以外は曾利IV式期である。調査区西側の試掘調査の結果、曾利式期の遺構・遺物が広範囲に発見されることが推定されており、その範囲は南北で約200mに及ぶ（第5図）。今回はその一部を調査したことになるが、住居跡はC区の南側に偏り、重複關係もなかったので、おそらく曾利式期の集落は中規模な集落と考えられる。

弥生時代（中期）：住居跡の可能性のある1号組石造構がA区の中央に、墓壙あるいは姫藏穴と思われる55号土坑がC区中央に発見された。弥生中期の土器片はB区ではわざかであるが、A・C区から多数出土した。土器の分布状況も含めて考えると、調査区の南北に活動場所が形成されていたことになる。55号土坑を基準と仮定すると、北に住居域、南に墓域が分かれていたと考えることでできるが、55号土坑周辺の弥生中期土器出土数の多さが気にかかる。北側の居住域以上に土器が出土しているため、單に墓域としてのみ利用されていたとは考え難い。55号土坑は姫藏穴と考え、それが後に墓域として利用されたととらえて、周辺に住居の存在を考慮した方が妥当ではなかろうか。なお、1号組石造構と55号土坑との距離は約180m離れている。

弥生時代（後期）：C区中央に8基の周溝墓がある。方形のものが6基、円形のものが2基であろう。形態や土軸の違い等で數段階の変遷が考えられる。弥生後期の土器片は、弥生中期と違い出土数は少なく、ほとんどが周溝墓群周辺から出土している。調査区内で当該期の住居跡は発見されなかった。

平安時代：A～C区の全てに住居跡が発見された。C区に4軒と多いが、A区・B区周辺にも住居跡がいくつか

存在するであろう。住居跡は1軒であり、9世紀中頃から10世紀初頭の集落と考えられる。9世紀中頃のものは3号住の1軒、9世紀後半のものは2・1・5・10号住の4軒、9世紀末から10世紀初頭のものは1号住の1軒である。八ヶ岳南麓の平安住居は、3・4号住のように時期的に近い2軒が隣り合って発見される傾向があるので、それ以外の住居跡でも調査区外に隣り合う住居跡が発見される可能性は高い。

B区の南側とC区の北端にピット群があり、そのいくつかは列をなしている。主軸方向が平安時代の住居跡の主軸と近いものもあるので、ピット列は平安時代のものと考えることもできる。なお、土鍬が出土した50号ピットはB区南端にある。

第2節 旧石器時代石器について

旧石器時代の石器が20点出土した。これらは主に漸移層であるに亘る黄褐色土層から出土しているが、他の時代の遺構からも出土しているので、はつきりと他の時代の遺物と層位的に分離できた訳ではない。明らかにナイフ形石器や右刀と判断できる右器の右質が夾雜物を多く含むものであったので、それと同じ質のものを出土した黒耀石全点の中から選び出した。蓼科冷山群の黒曜石に偏っているのはそのためである。

石器の分布はB区とC区に分かれる（第19図）。B区出土石器は全て蓼科冷山群で、C区出土石器は蓼科冷山群・諏訪尾ヶ台群・水晶・寶石等数種類の石材がある。B区出土石器は比較的まとまって出土しているので、同じ石器群と考へてもよいであろう。C区出土石器は、ほとんどが他の時代の遺構から出土しているので、厳密に言えばB区と同じ石器群である保証はない。

編年的位置付けは、角張氏の報告では第17図1・2のナイフ形石器は南関東のⅥ層相当の石器群に類似し、一侧鋸基部加工のナイフ形石器は類別を求めなくてはならないとし、類似や類離を指摘するに留まっている。確かに現段階では出土数が少なく、典型的なナイフ形石器や台形石器・振器・彫器といった定型的な石器もないでの決め手に欠き、編年的位置付けは困難であろう。今後の調査区周辺での調査の進展を待ちたい。

なお、第17図1は、角張氏はナイフ形石器としているが、背面右側縁の基部加工の剥離面光沢が他と違うため、その部分は後世のガジリと思われるが、器種は石刀の可能性がある。第17図6の楔形石器も、背面右側縁の剥離面光沢が他とは違うため、その部分もガジリと思われるが、器種は楔形石器でいいと思われる。

蓼科冷山群の石器群としては、長野県茅野市渕川遺跡

や群馬県大泉町御正作遺跡が挙げられる。藤科令山群の原産地直下にある波川遺跡は石器製作を行った場所と考えられ、いくつかの地点で調査が行われている。その中で第四地点ではナイフ形石器・挫器・削器・石刃などが出土し、刀器文化の前葉に位置付けられている（宮坂他 1966）。石刃や剣片は、打面が自然面もしくは平坦面で広く、長さに比し幅広のものが多く、本遺跡の第17図2・8、第18図10・11・17・18などと類似する。ただ、打面調整されたものは1点も発見されなかったようなので、その点は異なる。

御正作遺跡は槍先形尖頭器・ナイフ形石器・鋸器・挫器・削器などが出土し、砂川期後半に位置付けられている（大泉町教委 1984）。剣片剥離技術では、石刃などの規格的な剣片を量産する工程Iと、成長剣片や横長剣片などの多様な剣片を生産する工程IIがあり、工程IIから作られる剣片は幅広なものもある。それらは槍先形尖頭器・鋸器・挫器の製作に使われるようである。木遺跡の石器群は、工程IIの様子が色濃く残された石器群と見ることもでき、本遺跡の性格や細年の位置付けの参考となる調査事例である。

一側縁基部加工ナイフ形石器の類例としては、山梨県内では横針前久保遺跡（山梨県教委 2000、第2-11図4・5・7）、丘の公園第2遺跡（山梨県教委 1989、第34図3～5）、長田口遺跡（山梨県教委 1993、第6図1）などがある。横針前久保遺跡はAT下位、丘の公園第2遺跡・長田口遺跡はAT上位の石器であるので、一側縁基部加工のものはどちらにも見られるようである。

第3節 繩文時代中期後半の集落について

縩文時代中期後半の集落は曾利IV～V式期であり、中心は曾利IV式期である。5軒の住居跡は重複関係もなく、集落は中規模なものであったと考えられる。試掘調査で確認された広範囲な遺構・遺物出土範囲は、北側と南側に住居跡が確認されている（第5図）が、その中間地点にあたるC区北側からは当該期の住居跡は発見されていない。そこは曾利式土器の出土も少なく、遺構・遺物の密度は薄いと考えられる。おそらく試掘調査で確認された住居跡は、それぞれ南北2ヶ所にまとまる住居群で、どちらも直径約80mの範囲に納まると思われる。今回の調査では曾利IV式期の住居跡がほとんどであったが、遺構外出土土器をみると、周辺からは曾利II～V式期の住居跡が発見される可能性は高い。

今回の調査区の南東側には、1973（昭和48）年に中央自動車道建設に先立ち発掘調査された頭無遺跡がある（第6図）。溜池を挟んだ隣の尾根に立地し、両遺跡の距離は

約200mである。頭無遺跡も曾利式期の集落が発見されており、詳細な時期は曾利I式期1軒、曾利II式期3軒、曾利III式期4軒、曾利IV式期4軒、曾利V式期3軒である（山梨県教委 1975）。直徑約60mの環状集落の東半分を調査したと推定されている。頭無A遺跡と頭無B遺跡と同規模の集落が同時期に隣り合う尾根上に存在していたことになる。

これは柳坪A遺跡・柳坪B遺跡でのあり方に類似する（山梨県教委 1987）。西尾根の柳坪A遺跡で中期初頭に始めた集落が、曾利式期になり東尾根の柳坪B遺跡に拡大していったと考えられている。頭無A遺跡と頭無B遺跡では、どちらが先にできた集落かはまだはっきりしないが、先にできた集落から隣の尾根に広がっていったと考えられる。現在のところ頭無遺跡に曾利I式期の住居跡があるので、頭無遺跡が先行して営まれた集落といえる。

頭無遺跡以外にも半径約200m圏内には、宮尾根C遺跡・段道遺跡・上条宮久保遺跡・酒谷湯遺跡・原町農業高校前遺跡・日影田遺跡など多くの曾利式期集落が存在する。以前から八ヶ岳南麓では曾利式期に集落が急増することが指摘されており（長崎 1973、日本考古学協会 1984）、近年でも当該期集落の調査事例が増加している（北巨摩郡町村文化財担当者会 2003）。八ヶ岳南麓で最も多く発見される当該期の住居の動態を解明することは、中期に花開いた八ヶ岳縄文文化の一侧面を浮き彫りにするであろう。

第4節 弥生時代中期の遺構・遺物について

今回の調査で遺構外から弥生土器がまとまって出土した（第61・62図）。その多くは条痕土器であり、以下の特徴を記す。

①破片資料ばかりなので器種の特定は困難であるが、器種構成は壺と甕である。広口壺（7115）や細頸甕（6739）などがある。

②条痕土器の施文具は、圓状工具や植物纖維を束ねた工具、棒状工具などが使用されている。

③文様は、縱位条痕文、横位条痕文、縱位羽状条痕文、横位羽状条痕文、斜行条痕文などがある。また、複数の文様が組み合わされ多様化しているもの（7309・3257・7296・8801など）もある。

④甕には、口縁部に丸み目突帯を巡らすもの（747・965・7115・7292など）や、球脛のもの（9639）もみられる。

⑤甕は、口唇部に刻み目をもつもの（689・707・1262など）や、口唇部が尖り、口唇部に帯状の無文帯をナデで表現したもの（1309・6794・8806）などがある。

◎波状条痕文（4117）や円形の条痕文（5263）T字文風の沈線をもつもの（7029）もみられる。

以上これらの特徴は、甲府市米倉山遺跡（中山2000）、同昌蒲池遺跡（山梨県教委1996）から出土した土器群と類似する。よって、本遺跡から出土した弥生条痕文土器は弥生2期（中山1999）に位置付けることができよう。

55号土坑出土十七器は、基本的に蓮構外川上土器と同じ特徴をもっているので弥生2期と位置付けられるが、口縁部に刻み目突帯を巡らす広口壺が伴わない、変わった器形の壺（9150）があるなど、遺構外出土十七器と異なる点もある。上沉底部に正位に置かれた壺（9259）は小型の細頸壺の胴下半部であるが、胴部には曲線的な捺縫文の間を縦線で充填し、下半部は横线条痕文が施されている。これは弥生3期になる可能性もある。

遺構は、組石造構1基、土坑1基が発見された。55号土坑の底部から細頸壺の下半部が正位に置かれて出土し、南東壁には有皿が立てかけられていた。縄文晩期末から弥生中期初頭のフラスコ状土坑を検討した鶴原氏によると、55号土坑のような円形土坑はフラスコ状土坑の壁が崩落したもの可能性が高い、川上遺物からも墓壙的な様相をうかがうことは離しいようである（屋敷遠藤等発掘調査会2002）。また、墓壙の可能性の高い下大内遺跡第224号土坑などは平面や断面形態が円形・フラスコ状土坑とは明らかに異なっているという。円形土坑である55号土坑は狩猟穴の可能性が高いといえる。ただし、上沉底部に細頸壺の胴下半部が正位に置かれていたので、貯藏穴として使われた後、墓壙に転用されたと考えられる。

1号組石造構は、焼土や炭化物は出土せず、周辺からも床面と思われる礎面や柱穴は確認できなかったが、住居跡の炉跡としていいであろう。周辺から弥生時代中期の土器が比較的まとまって出土し、組石造構の近くからは石器と呼んでもよい打製石斧が出土している。

当該期の活動区域はA区とC区とに分かれる。A区には住居跡のほかと思われる組石造構があるので、居住域として利用されていただろう。C区には墓壙あるいは貯藏穴と思われる55号土坑があるので、墓域あるいはもう一つの居住域として利用されていただろう。

第5節 弥生時代後期の周溝墓について

八ヶ岳南麓において、周溝墓はこれまでに北村遺跡（北村市長坂町）でしか発見されていない（長坂町教委1996）。今回の調査は2番目の事例となる。北村遺跡の方形周溝墓群は古墳時代前期のものなので、頭無A遺跡の周溝墓群はそれよりも古く、八ヶ岳南麓で最古のものと位置付けられる。

8基の周溝墓は、一時期に造られたものではなく、段階的に造られたと考えられる。確実なものでは4号周溝墓と8号周溝墓が切り合い関係にあり、4号が8号を切っている。調査区内では確認できなかったが、切り合い関係があると想定されるものでは、1号と3号、5号と10号、7号と8号である。また、方形のものをみると、1号・4号と2号・3号・5号・8号では主軸方向に違いがある。よって、周溝墓構築にいくつかの段階があったと考えられ、青木氏の論考（青木2000）を参考にし、以下の変遷案を示す（第9回）。

1段階：6号・7号周溝墓が造られる。どちらも同じ小型の円形周溝墓であるので同時期に造られたとする。墓域の南側に偏る。7号周溝墓の構からハケメ調整の平底甕が出土している。

2段階：2号・3号・8号周溝墓が造られる。小型の方形周溝墓であるので同時期とした。主軸がほぼ同じである。2号・3号は墓域の北側、8号は南側に位置する。8号は前段階に造られた7号と一部重なる。8号から備猫文土器の甕が出土している。

3段階：5号周溝墓が造られる。大型の方形周溝墓である。主軸が前段階の2号・3号・8号とほぼ同じであるので時期的に近いと思われる。北二ノ一からハケメ調整の平底甕が出土している。7号出土の甕と同じであるが、端形がやや新しいと考えられる。攪乱のため確認できなかつたが、6号と一部が重なる。

4段階：1号・4号周溝墓が造られる。前段階までのものと主軸方向が異なる。4号が8号を切っているが、8号の構が埋まつた後に切っているので、この段階では8号の位置はほとんど認識できなかつたかもしれない。1号と3号も一部重なつていた可能性もある。

以上、周溝墓群の形成過程を示したが、各周溝墓からの出土遺物が多く、詳細な時期を確定するに心もとないのが現状である。独立的に作られることが多い本遺跡の周溝墓の中で、唯一甕を共有している2号と3号は、2段階ではなく他の段階である可能性もある。しかし、4号と8号の切り合い関係や5号と7号出土のハケメ調整の平底甕の新旧関係により、大まかな形成過程は確認できたと思われる。

周溝墓群の中に55号土坑がある。それを墓壙とするならば、弥生中期からその場所が墓域として利用されていくことになる。

なお、この周溝墓群を造営した集落は分かっていない。本遺跡の周辺で弥生後期の集落は、塙原遺跡（長坂町教委1997）と治郎田遺跡（平成19年度調査、未報告）であるが、どちらも住居跡が2軒ずつしか発見されていない。

周溝墓を造営するには規模が小さ過ぎるように思えるが、本造跡周辺で数多く発掘調査が行われていてこれだけしか発見されていないならば、このような小規模集落が共同で造営したとも考えられる。今後、周辺から当該期の集落が発見されることを期待したい。

第6節 5号周溝墓埋葬主体部の出土遺物について

5号周溝墓では方台部中央に埋葬主体部が残存していた。埋葬主体部は、最大長が2.7m、幅が1.2m、深さが10cmである。主軸は東西の構の主軸と同じである。そこから副葬品あるいは装身具と考えられる鉄剣1振、鉄劍1点・ガラス玉片4点が出土した。なお、人骨は川上しなかった。

1) 鉄剣

鉄剣は埋葬主体部の中央やや南寄りから、実測図正面を上にして出土した。全長が65.5cm、最大幅が3.7cmの長剣である。茎は、長さ3cm、根元幅2cmで、根元から先端にいくにつれ幅が狭くなっていく。関は、斜めに切り取られたような斜角関である。関の中央には2つの孔が開けられており、いわゆる「刀闘双孔」である。2つの孔は横並びに開けられているが、正面右側の方がやや高い位置にある。茎には刃打孔はない。剣身の一部に鞘の残骸と思われる木質部が付着している。剣身に7箇所の接合部があるが、正面左側縁の一部に欠損がある以外は、全て残存している。全体に鏽ぶくれが多いが、剣身中央に鏽が確認できる。

出土状況写真や第70回の川上状況図では、剣先側約20cmの部分だけしか残されていない。これは調査担当である筆者が、調査開始時の表土剥ぎ後、崩山までの深さがどれくらいであるかを確認するため繩墨で吊り下げたところ、迷惑く鉄剣を吊り起こしてしまったからである。繩墨時代や平安時代の伝承跡を外して、まだ包含層が残っている場所を吊り下げたつもりであったが、期せずして周溝墓の埋葬主体部に当たってしまった。自分の行為を恥じるばかりである。幸いにも剣先部分が掘り起されずに残っていたので、鉄剣の出土位置が復元できたことが救いであった。

山梨県内で方形周溝墓の埋葬主体部から川上した鉄剣は、宮ノ上遺跡（林部1997）だけであり、本造跡の鉄剣はそれに次ぐ2例目の発見となった。宮ノ上遺跡のものは時期が古墳時代前期であるので、弥生時代の鉄剣は本造跡のみとなる。

2) 鉄劍

鉄劍は埋葬主体部の中央から、実測図正面を上にして

出土した。長さが10.2cm、最大幅が8.1cmである。幅6mm前後・厚さ2mmの断面形状が三角形をした細く扁平な鉄材を、螺旋形に5巻させている。本来なら全体の形は茎頭円錐形であったと思われるが、現在は上広で潰されやや扁平になっている。正面右下に一部欠損箇所がある。遍存状態は悪く、半袖で取り上げると形が崩れる恐れがあつたため、周辺の土と取り上げ、そのまま保存処理にまわした。レンチゲン写真を見ると、2本の細い鉄を1本にして作られている可能性がある。

表面の一部に付着布が確認でき、布でくるまれていた可能性がある。それが衣服の一部か、鉄劍自身に巻かれていたものかは不明である。内部の状態は、形を保つための樹脂で固められたので、織維圧痕等があったかどうかは不明である。

山梨県内では、金の尾遺跡（山梨県教委1987）から銅劍が出土しているが、螺旋形鉄劍は県内初の出土例である。

3) ガラス玉片

正確な出土位置は不明である。埋葬主体部の十層観察ラインを十字に引き、北東部分をa区、北西部分をb区、南西部分をc区、南東部分をd区とし、1層および2層の層位ごとに上を回収し、調査終了後後にかけて逐別した。その結果、南東部分のd区1層から10074の1点が、南西部分のc区1層から10075～10077の3点が出土した。いずれも埋葬主体部南側からの川上である。

どれも破片でガラス玉の形態が把握できるものはなかったが、ガラス玉表面の風化面はどれも確認できた。10074と10077には孔内側部分の表面も確認できた。

各名氏の報文によると、全てのガラス玉は引き伸ばし技法で製作されたものと考えられ、アルカリ石灰ガラスの中でもカリライム系ガラスと推定された。また、構成元素もほぼ似通っておりどちらも近い関係と考えられるが、10074が若干飽き異なるようである。色も10074が他より青みが濃い。

弥生時代後期のガラス玉は、山梨県内では金の尾遺跡（山梨県教委1987）、室の前遺跡（盐崎市教委1987）などで発見されている。金の尾遺跡では上坑から川上している。

4) 埋葬状態の復元

鉄劍と鉄劍の出土状況から被葬者の埋葬状態を推定する。鉄劍は切先を南に向け、埋葬主体部の中心線よりやや東にずれたところに、その中心線と並行するように置かれていた。鉄劍は埋葬主体部の中央に、幅の狭い方が北側を向いて出土した。鉄劍の長軸は埋葬主体部の中心線と平行せず、幅の狭い方が少し中心側に寄り、傾いた

状態であった。以上の出土状況から埋葬姿勢を想定する（第89図）。北枕で仰向けになり、両腕を曲げて手を胸の上で合わせていた。鉄劍は右手首にはめられ、鉄劍は左腰の脇に置かれていた。いくつかの跡跡でも右手装着の事例が確認できるようである（青木1998）。

ただ、左腕の状態は不明である。片腕だけ曲げているのも不自然と思われる所以、右腕と同じく左腕も曲げた状態を想定した。推定図の鉄劍の位置や頸きが出土状況と少し異なるが、出土状況のまま装着を想定すると、かなり射を絞った状態になり無理がある。推定図と出土状況とのズレは虚体の腐朽による移動と考えたい。

ガラス玉は、埋葬主体南側から出土したので下半身側にある。破片でしかも4点と少なくないので、首飾りや腕飾りのようにきちんと装着されていたとは考えられない。被着していらなくなつたものを副葬したか、埋葬時に裸身である側の誰かのものが偶然入ったと見た方がいいであろう。

5) 鉄劍と鉄訓の出土の意義

弥生時代後期の鉄劍は、山陰から北陸にかけての日本海沿岸地域と長野北部や群馬西部の中部高地、東京湾沿岸の南関東地域に多く分布する（会下2007）。特に中部高地のものは、本遺跡出土の鉄劍と同じ形態の、平面梯形で短革の長劍などが多いようである。

鉄劍、特に螺旋形鉄訓は、ほぼ弥生時代後期に限られ、長野県下曲川流域を中心とする中部高地と、東京湾を中心とする南関東地域に分布が集中する（藤岡1995、牛山1996、青木1998、岩本2002）。鉄材の幅や断面形状で見ると、幅4～5mmで断面形状が三角形に近いものは中部高地だけに見られるようであり（岩本2002、氏の分類のA群）、本遺跡の鉄訓もそれと同形である。

鉄劍・鉄訓ともに長野北部を中心とする中部高地に多く分布する。そこは清水式土器を含む中部高地型櫛描文土器様式文化圏である。本遺跡の周辺墓群からも中部高地系の櫛描文上器が出土しているので、中部高地型櫛描文上器様式文化圏の影響下のものと、鉄劍・鉄訓が長野北部方面からもたらされたと考えられる。

本遺跡では、周辺墓の埋葬土部から鉄劍と鉄訓が共伴して出土した。鉄劍は60cmを超える長劍であり、螺旋形鉄訓はほぼ完全な形で出土した。これはどのような意味があるのであるか。

藤岡氏は、その時点では鉄劍と鉄訓の共伴關係が皆無であったため、それぞれの所有形態および被葬者の性格に違いがあるとした（藤岡1995）。鉄訓の所有者は可祭者を想定し、かつ集落を治めていたオサであった可能性も指摘している。その後、調査事例が増えたこともあり、

鉄劍と鉄訓の共伴事例が確認されてきて、鉄劍と鉄訓の所有關係は排他的ではなく、補完關係にあるようなそれぞれの意義があつたのではないかとの意見も出されている（岩木2002）。

鉄劍などの刀劍類が副葬される被葬者は、成年以上の男性が多いことが推定されている（会下2007）。鉄劍は、女性用の装具で司祭的性質をもつた人物が装着した可能性も示されている（川越1993）。鉄劍が軍事的象徴で男性的であり、鉄訓が祭祀的象徴で女性的であると短絡的に結びつけることはできないが、性別が想定され得る鉄劍と鉄訓が共伴したことは、被葬者の社会的単位や性格を考える上で大変興味深い。

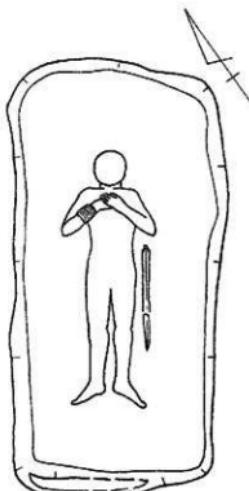
また、長さ60cmを超えるような長劍は、中国大陸や朝鮮半島からの舶載品であり、北部九州から近畿北部・北陸・北信・関東に至る日本海ルートで流通したと考えられている（青島2004、野島2004）。流通している間に茎が短く切断され、刃間孔が開けられるなど日本独自の加工が施されたようである。当時貴重である舶載品の鉄製品を所有し得る人物が、当該期の遺跡の少ない八ヶ岳南麓に存在したことは驚きであり、どのような人物であったのかにも興味が持たれる。今後、出土土器・集落・墓制など様々な要素と合わせて検討し、その人物像を解明していきたい。

参考文献

- 青木一男 1998『第4章成果と課題 第3節長野県出土鉄訓の基礎的整理』『上伊那自転車埋蔵文化財発掘調査報告書5－長野市内その3 長野原遺跡』作成・論議6・弥生後期・古墳前期・長野原遺跡文化財センター発掘調査報告書36
- 青木一男 2000『金の尾遺跡の周辺墓－中部高地型墳丘への関係と転換をさぐる試み』『山梨県考古学協会誌』第11号 山梨県考古学協会
- 岩本 崇 2002『東日本における弥生時代鉄訓の製作背景』『古代文化』第54巻第5号 財団法人古代学会会
- 池澤俊一 2003『刀劍・矛・戈・ヤリ・素盞鳴刀』『考古資料大観』7 小学館
- 牛山英輔 1996『弥生時代鉄訓の一例 東京都北区七社神社前遺跡出土資料ー』『考古学雑誌』第81巻第2号 日本文考古学会
- 会下和宏 2007『弥生時代の鉄劍・鉄刀について』『日本考古学』第23号 有隣賞中間法人日本考古学協会
- 大泉町教育委員会 1981『御正作辺跡』
- 大川清也編 1996『!本土器事典』群山閣出版
- 甲斐型土器研究グループ 1992『甲斐型土器 その源流と年代ー』山梨県考古学協会
- 川越哲志 1993『弥生時代の鉄器文化』群山閣出版

- 北巨摩郡教育会 1932『先史原史時代調査』
- 北巨摩市町村文化財担当者会 2003『北巨摩地域の曾利式土器（前篇）』『ハケ考古』平成14年度年報
- 北巨摩市町村文化財担当者会 2004『北巨摩地域の曾利式土器（後篇）』『ハケ考古』平成15年度年報
- 長坂町文化財調査会 2004『弥生時代における鉄劍の謹述と祀の地域性』『考古学総論』第88巻第2号 日本考古学会
- 長坂町 1990『長坂町誌』上巻
- 長坂町教育委員会 1996『北村遺跡』長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
- 長坂町教育委員会 1997『御井山遺跡・境原遺跡』長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第15集
- 長坂町教育委員会 1999『久保田遺跡』長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
- 中山誠二 1993『平安弥生土器編年の現状と議題』一時間軸の説が『研究紀要』9 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 中山誠二 1999『第2章山梨県の考古学編年 3 弥生時代の編年』『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺跡・遺物）
- 山梨県
- 中山誠二 2000『米倉山遺跡出土の弥生土器の再検討 一山内清男考古資料を中心として』『山梨県史研究』第8号 山梨県
- 日本考古学協会 1984『シンポジウム縄文時代集落の変遷』日本考古学会記録 99年度大会資料
- 韮崎市教育委員会 1987『中本田遺跡・他の前遺跡』
- 韮崎市遺跡調査会他 1992『宮ノ前遺跡』
- 韮崎市教育委員会 2000『石之坪遺跡（東池区）』
- 野川 水 2001『弥生時代後期から古墳時代初頭における鉄製武器をめぐって』『考古論集—河原正利先生退官記念論文集—』河原正利先生退官記念事業会
- 浜田晋介 19881『弥生時代後期の甲府盆地 一異系統土器の相互交流とその様相』『山梨県考古学協会誌』第2号山梨県考古学協会
- 林部 翁 1997『中澤町宮ノ上遺跡から出土した鉄劍をめぐる諸報告』『山梨県考古学協会誌』8 山梨県考古学協会
- 藤間孝志 1995『櫛旋状鉄小考 東日本における胸輪の發見』『研究紀要』16-20周年記念論集一 計画法人千葉県文化財センター
- 北杜市教育委員会 2005『上条齊久保遺跡』北杜市埋蔵文化財調査報告第4集
- 宮坂英次・宮坂虎次 1966『蓼科』尖石考古博物館研究報告第1冊
- 星牧猪江跡等発掘調査会 2002『深山田・下反塚・星牧猪江跡』
- 山梨県教育委員会 1970『中央自動車道関係山跡第一次調査報告』北巨摩郡長坂町東前田遺跡』

- 山梨県教育委員会 1975『山梨県中央道埋蔵文化財伝藏地質調査報告書』北巨摩郡板坂・切野・吉崎塗内-』
- 山梨県教育委員会 1986『柳坪遺跡』山梨県埋蔵文化財センター・調査報告第13集
- 山梨県教育委員会 1987『余の尾遺跡・無名塚（吉つね塚）』山梨県埋蔵文化財センター・調査報告第25集
- 山梨県教育委員会 1989『丘の公塚第2遺跡』山梨県埋蔵文化財センター・調査報告第46集
- 山梨県教育委員会 1993『長山口遺跡』山梨県埋蔵文化財センター・調査報告書第82集
- 山梨県教育委員会 1996『菖蒲池遺跡』山梨県埋蔵文化財センター・調査報告書第119集
- 山梨県教育委員会 2000『横針焼灰供遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡』山梨県埋蔵文化財センター・調査報告書第176集
- 山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺跡・遺物）
- 山梨県 2004『山梨県史』歴史編1 原始・古代



第89図 5号周溝墓埋葬状態推定図

附編 頭無A遺跡出土のガラス破片 の科学調査について

山梨県立博物館 告名 貴彦

今回、北杜市頭無A遺跡出土のガラス破片（ガラス玉の破片）を科学調査する機会を得た。そこで、顕微鏡による製作技法の調査と、蛍光X線分析による元素分析を行った。その結果について報告する。

○分析対象資料

- 北杜市頭無遺跡出土ガラス破片 4点
- ・ガラス破片 1 : 0.032g ・ガラス破片 2 : 0.0354g
 - ・ガラス破片 3 : 0.0384g ・ガラス破片 4 : 0.0890g

○実体顕微鏡によるガラス破片の製作技法の調査

今回調査を行ったガラス破片は、いわゆるガラス玉（小玉）の破片と考えられた。そこで、このガラス玉の製作技法の調査を、ガラス中に含まれる気泡を顕微鏡の透過光下で観察することを行った。

実体顕微鏡によるガラス破片 1から 4 の全体像を写真 1(a) から 4(a) に示す。小さいもので約 3mm、最大で約 6mm 程度の不定形な小さい破片であった。また、一部には管内壁表面と見られる部分が見られた（写真 3）。ガラスの色は 1 から 3 のガラス破片が淡青色で、4 のガラス破片は若干青みがかった。

また、より高倍率でガラス内部に含まれる気泡に着目して撮影した写真を、写真 1(b) から 4(b) に示す。気泡はガラスの製作時に混入し、引き伸ばし技法の場合には列状の気泡が観察される。今回の観察では、全ての破片において列状の気泡が観察された。

のことから、全てのガラス破片は引き伸ばし技法によって製作されたものであると考えられた。

○蛍光X線分析によるガラス破片の元素分析

蛍光X線分析による元素分析を各ガラス破片で行い、ガラスに含まれる元素の調査を行った。ただし、ガラス破片が非常に小さいため、定性分析について実施した。

装置：エスアイアイ・ナノテクノロジー

（株）製 SEA5230HTW

管電圧 : 15kV、50kV

管電流 : 500 μA (15kV)、48 μA (50kV)

測定環境 : 真空

測定時間 : 300sec

結果

各ガラス破片の蛍光X線分析から得られたスペクトルを図 1 から 4 に示す。各図の (a) は 15kV、(b) は 50kV の管電圧で得られたスペクトルである。また、写真 1 のガラス破片は図 1 とスペクトルと各数字は対応している。

そして、表 1 にスペクトルから得られた各ガラス破片の構成元素を示した。ここでは、ビーク強度の差から強・中・弱・検出と分類した。

すべてのガラス破片で、検出元素から鉛が検出されず、主要な元素はケイ素であった。このため、アルカリ右灰ガラスと考えられた。そして、アルカリ右灰ガラスの中でもナトリウムのピークはほとんど見られず、カリウムのピークが中程度検出されるため、カリライム系ガラスと考えられた。

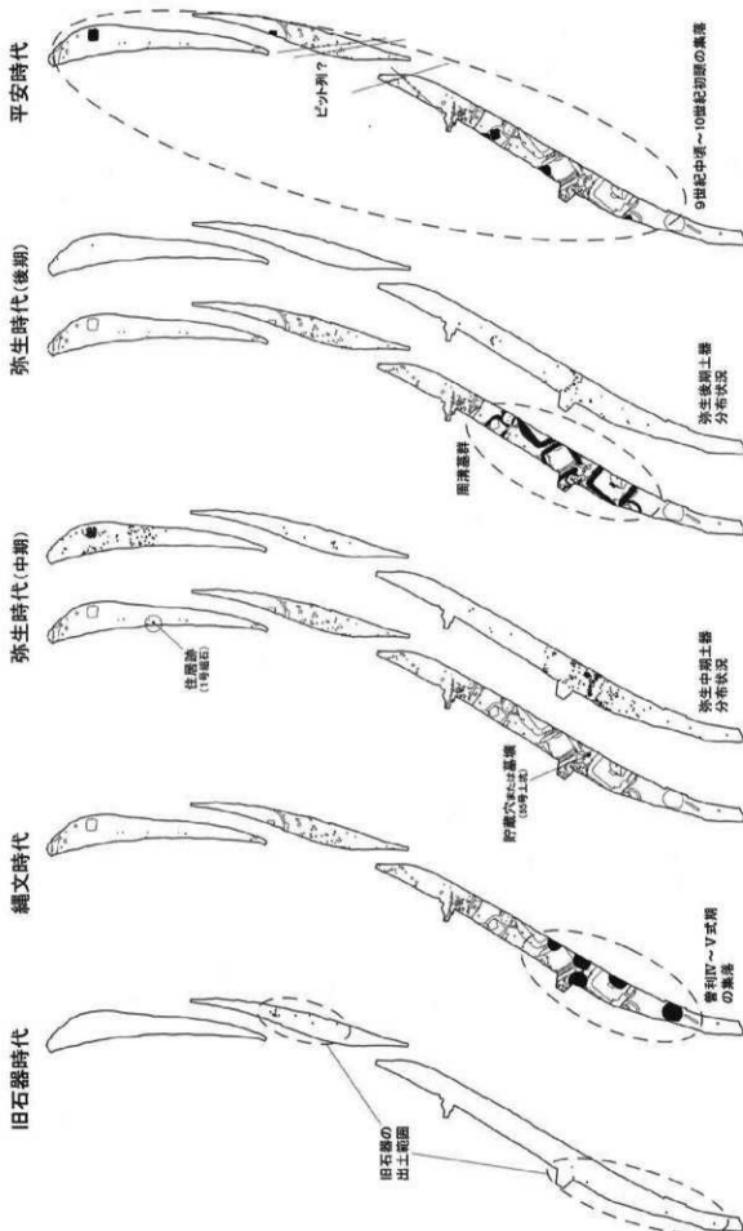
また、各ガラス破片で検出された元素では、大きく異なるものは無くどれも同様なものであるため、各ガラス破片は近い関係にあると考えられた。そして、個々のガラス片のスペクトルの形状を比較すると、1 から 3 はスペクトルの形状が似通っているが、4 は 1 から 3 に比べて K α のビークが非常に大きい傾向が見られた。以上のことから、破片 1 から 3 は同系統により近く、4 は若干異なるもののように考えられる。

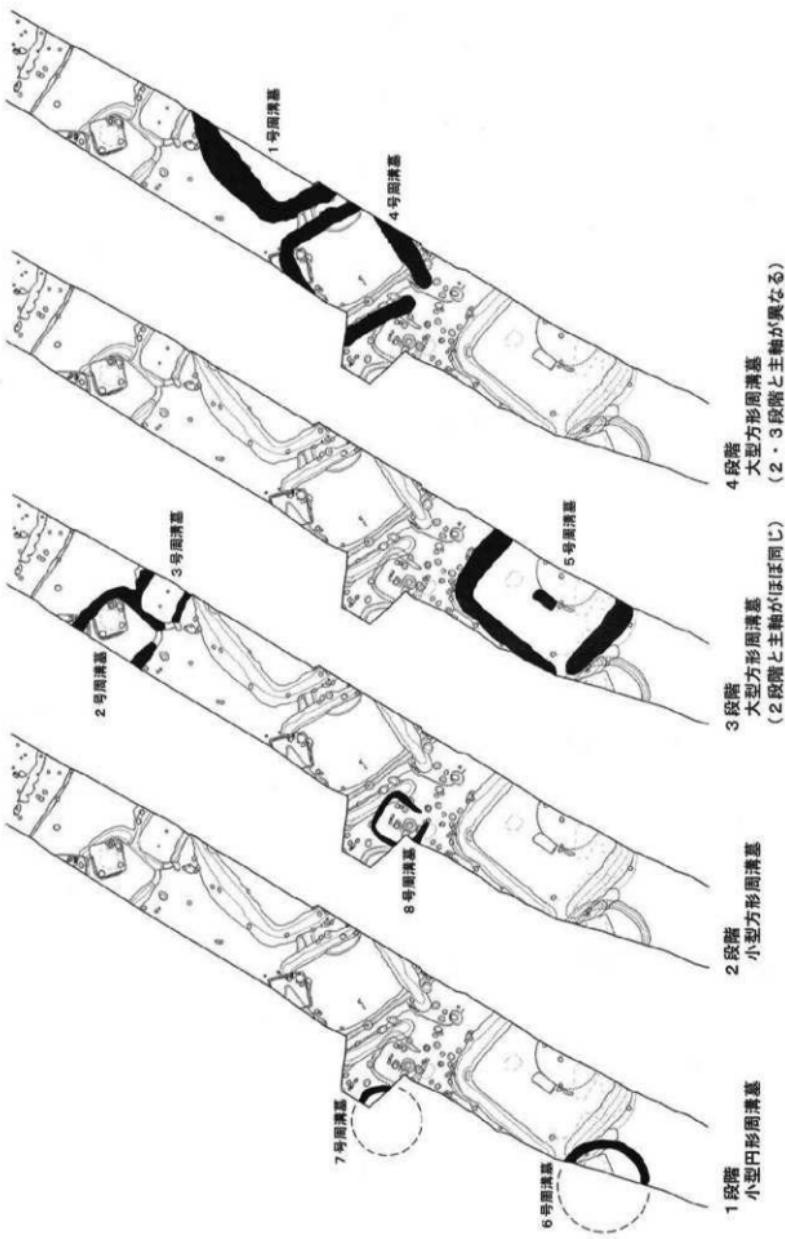
ただし、ガラス破片が非常に小さく形状も不定形であることから、蛍光X線による定量分析は行っておらず、これ以上の内容を得ることは難しいと考えられる。

第2表 スペクトルから得られたガラス破片の構成元素

ガラス破片No. (遺物番号)	蛍光X線分析ビーク強度			
	強	中	弱	検出
1(10075)	Si	Al, K, Ca, Mn, Fe	Ti, Rb, Sr, Mo	Cu, Br, Zr
2(10076)	Si	Al, K, Ca, Mn, Fe	Ti, Rb, Sr, Mo	Cu, Br, Zr
3(10077)	Si	Al, K, Ca, Mn, Fe	Ti, Rb, Sr, Mo	Cu, Br, Zr
4(10074)	Si, K	Al, Ca, Mn, Fe	Ti, Rb, Sr, Mo	Cu, Br, Zr

第90図 進歩変遷系





第91図 周溝群の形成過程図

第3表 通構観察表

番号	出発	着目	距離(m)	距離(m)	通構		通構
					通構	通構	
17号通構	73 (富士見町 北区) 16 (富士見町 北区)	18号通構 北区	1.65 1.12 0.76	1.65 1.12 0.76	通構 通構 通構	通構 通構 通構	通構 通構 通構
2号通構	77 (富士見町 北区) 78 (富士見町 北区)	19号通構 北区	1.10 1.00 (1.27) 0.31	1.10 1.00 (1.27) 0.31	通構 通構 通構 通構	通構 通構 通構 通構	通構 通構 通構 通構
3号通構	79 (富士見町 北区) 80 (富士見町 北区)	20号通構 北区	1.00 0.95 0.32	1.00 0.95 0.32	通構 通構 通構	通構 通構 通構	通構 通構 通構
4号通構	81 (富士見町 北区)	21号通構 北区	0.90 0.85 0.48	0.90 0.85 0.48	通構 通構 通構	通構 通構 通構	通構 通構 通構
5号通構	82 (富士見町 北区)	22号通構 北区	1.26 1.14 0.46	1.26 1.14 0.46	通構 通構 通構	通構 通構 通構	通構 通構 通構
6号通構	21 (富士見町 北区)	23 (富士見町 北区)	1.65 1.55 0.45	1.65 1.55 0.45	通構 通構 通構	通構 通構 通構	通構 通構 通構
7号通構	25 (富士見町 北区)	26 (富士見町 北区)	1.00 0.95 0.40	1.00 0.95 0.40	通構 通構 通構	通構 通構 通構	通構 通構 通構
8号通構	27 (富士見町 北区)	28 (富士見町 北区)	1.10 1.00 0.40	1.10 1.00 0.40	通構 通構 通構	通構 通構 通構	通構 通構 通構

地名	位置	面積(ha)	高さ(m)	密度(株/m ²)	基盤	特徴	参考文献
高砂川河口	河口付近	1.0	0.5	1,000	砂質地盤	河口付近は、河川の堆積物で形成された砂質地盤である。河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
1号干出場	川上小川中流(第IV河段)	35	0.5	1,000	砂質地盤	川上小川中流部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
105年河段	下流付近(第V河段)	85	0.5	1,000	砂質地盤	下流付近では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
11号川河段	下流付近(第VI河段)	30	0.5	1,000	砂質地盤	下流付近では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
1-1号河段	河口付近	60	0.5	1,000	砂質地盤	河口付近では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
2号河段	河口付近	65	0.5	1,000	砂質地盤	河口付近では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
3号河段	河口付近	60	0.5	1,000	砂質地盤	河口付近では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
4号河段	河口付近	67	0.5	1,000	砂質地盤	河口付近では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。
5号河段	河口付近	70	0.5	1,000	砂質地盤	河口付近では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。そのため、河口部では、河川水による土砂供給が止まると、河床が低下する。	佐藤・他(1998), 河川改修による河口部の生態系変化とその対策(河川改修による河口部の生態系変化とその対策)。

第1表 士坑・ピット一覧

上場名	地番名	グリーン	1.5m(cm)	2.5m(cm)	3.5m(cm)	5.0m(cm)	感度	上場名	地番名	グリーン	1.5m(cm)	2.5m(cm)	3.5m(cm)	5.0m(cm)	感度	上場名
1号土坑	HBR	S-5	110.0	60.0	25.5	14.0	硬土・砂質	31号土坑	C-E	O-8	241.92	34.0	20.1	11.1	18.4	
2号土坑	HBR	S-3	156.0	60.0	33.0	13.0	硬土・砂質	32号土坑	C-E	O-8	36.9	24.0	19.2	12.5	17.7	
3号土坑	HBR	S-10	166.0	(60.0)	16.0			33号土坑	C-E	M-7	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
4号土坑	HBR	T-14	110.0	(60.0)	17.6	12.8	硬土・砂質	34号土坑	C-E	M-7	30.9	21.0	16.7			
5号土坑	HBR	S-10	140.0	20.0	10.6	8.8	硬土・砂質	35号土坑	C-E	M-7	14.0	34.0	11.8			
6号土坑	HBR	S-3	136.0	18.0	16.0	10.0	硬土・砂質	36号土坑	C-E	b-7	14.0	44.0	17.0	16.0	16.0	16.0
7号土坑	HBR	b-10	166.0	(60.0)	9.0	8.8	硬土・砂質	37号土坑	C-E	b-7	15.0	16.0	12.0	6.5	6.5	6.5
8号土坑	HBR	b-10	95.0	10.0	12.0	7.0	硬土・砂質	38号土坑	C-E	b-7	36.0	38.0	10.5	10.5	10.5	10.5
9号土坑	HBR	b-10	95.0	20.0	24.0	14.0	硬土・砂質	39号土坑	C-E	b-7	24.0	22.0	22.0	22.0	22.0	22.0
10号土坑	HBR	b-8	62.0	60.0	18.0	10.0	硬土・砂質	40号土坑	C-E	b-7	30.0	24.0	14.0	14.0	14.0	14.0
11号土坑	HBR	b-9	64.0	50.0	16.0	11.7	硬土・砂質	41号土坑	C-E	b-7	34.0	32.0	17.6			
12号土坑	HBR	b-9	70.0	18.0	16.0	10.0	硬土・砂質	42号土坑	C-E	M-6	32.0	41.0	16.9			
13号土坑	HBR	b-10	150.0	142.0	33.0	33.0	硬土・砂質	43号土坑	C-E	M-6	50.0	42.0	13.6	13.6	13.6	13.6
14号土坑	HBR	b-9	60.0	60.0	6.0			44号土坑	C-E	M-7	50.0	24.0	13.7			
15号土坑	HBR	b-2	20.0	20.0	6.0			45号土坑	C-E	M-7	40.0	40.0	14.0			
16号土坑	HBR	b-2	95.0	88.0	33.0			46号土坑	C-E	b-7	46.0	46.0	16.6	16.6	16.6	16.6
17号土坑	HBR	b-2	110.0	116.0	40.0			47号土坑	C-E	b-7	34.0	30.0	12.7			
18号土坑	AEC	b-2	90.0	80.0	20.0	15.0	硬土・砂質	48号土坑	C-E	b-7	34.0	36.0	12.7			
19号土坑	AEC	b-9	100.0	(60.0)	16.0	8.8	硬土・砂質	49号土坑	C-E	b-7	62.0	56.0	13.1	13.1	13.1	13.1
20号土坑	AEC	b-9	110.0	(60.0)	16.0	8.8	硬土・砂質	50号土坑	C-E	b-7	36.0	32.0	12.4	12.4	12.4	12.4
21号土坑	AEC	b-9	140.0	(60.0)	17.0			51号土坑	C-E	b-7	50.0	50.0	24.4			
22号土坑	CSE	P-8	63.0	50.0	20.0	15.0	硬土・砂質	52号土坑	C-E	b-7	70.0	26.0	9.1			
23号土坑	CSE	C-E	60.0	60.0	6.0			53号土坑	C-E	b-7	54.0	(20.0)	28.1			
24号土坑	CSE	C-E	60.0	60.0	32.0			54号土坑	C-E	b-7	70.0	30.0	21.0			
25号土坑	CSE	C-E	84.0	62.0	17.0			55号土坑	C-E	b-7	40.0	35.0	23.8			
26号土坑	CSE	C-E	82.0	52.0	27.0			56号土坑	C-E	b-7	55.80	(31.20)	22.0	22.0	22.0	22.0
27号土坑	CSE	C-E	82.0	50.0	27.0			57号土坑	C-E	b-7	30.0	29.0	15.0			
28号土坑	CSE	C-E	95.0	80.0	18.0			58号土坑	C-E	b-7	30.0	26.0	9.1			
29号土坑	CSE	C-E	95.0	78.0	26.0	24.5		59号土坑	C-E	b-7	(34.0)	(32.0)	11.3			
30号土坑	CSE	C-E	95.0	60.0	14.0			60号土坑	C-E	b-7	76.0	76.0	9.0			
31号土坑	CSE	C-E	95.0	60.0	14.0			61号土坑	C-E	b-7	54.0	40.0	35.5			
32号土坑	CSE	C-E	95.0	50.0	18.0			62号土坑	C-E	b-7	64.0	46.0	27.5			
33号土坑	CSE	C-E	95.0	40.0	14.0			63号土坑	C-E	b-7	40.0	40.0	23.0			
34号土坑	EBC	C-E	78.0	56.0	14.0			64号土坑	C-E	b-7	46.0	44.0	7.0			
35号土坑	EBC	C-E	91.0	41.0	14.0			65号土坑	C-E	b-7	38.0	30.0	15.5			
36号土坑	C-E	M-6	80.0	60.0	15.5			66号土坑	C-E	b-7	52.0	52.0	12.5			
37号土坑	C-E	M-6	76.0	56.0	15.0	14.0	硬土・砂質	67号土坑	C-E	b-7	32.0	30.0	19.4			
38号土坑	C-E	M-6	76.0	54.0	12.1			68号土坑	C-E	b-7	52.0	56.0	19.5	19.5	19.5	19.5
39号土坑	C-E	C-L	70.0	70.0	6.0	6.1	硬土・砂質	69号土坑	C-E	b-7	32.0	30.0	19.5			
40号土坑	C-E	C-L	393.0	102.0	6.0	6.1	硬土・砂質	70号土坑	C-E	b-7	24.0	36.0	11.3			
41号土坑	C-E	C-L	51.0	46.0	6.0	6.0	砂質	71号土坑	C-E	b-7	30.0	30.0	9.0			
42号土坑	C-E	C-L	72.0	65.0	17.5	17.5	砂質	72号土坑	C-E	b-7	36.5	36.0	7.0	7.0	7.0	7.0
43号土坑	C-E	C-L	72.0	65.0	17.5	17.5	砂質	73号土坑	C-E	b-7	46.0	42.0	21.0			
44号土坑	C-E	C-L	72.0	65.0	17.5	17.5	砂質	74号土坑	C-E	b-7	46.0	44.0	21.0			
45号土坑	C-E	C-L	80.0	56.0	8.8	8.8	硬土・砂質	75号土坑	C-E	b-7	56.0	56.0	16.1			
46号土坑	C-E	C-L	80.0	58.0	18.0	18.0	硬土・砂質	76号土坑	C-E	b-7	(32.0)	44.0	1.0			
47号土坑	C-E	C-L	75.0	56.0	17.5	17.5	硬土・砂質	77号土坑	C-E	b-7	54.0	52.0	2.7			
48号土坑	C-E	C-L	45.0	40.0	6.0	6.0	砂質	78号土坑	C-E	b-7	52.0	52.0	18.6			
49号土坑	C-E	C-L	150.0	95.0	9.0	9.0	硬土・砂質	79号土坑	C-E	K-5	56.0	46.0	13.6			
50号土坑	C-E	C-L	90.0	85.0	15.0	15.0	砂質	80号土坑	C-E	K-5	36.0	32.0	6.2			
51号土坑	C-E	C-L	78.0	65.0	16.0	16.0	砂質	81号土坑	C-E	K-5	50.0	28.0	12.6			
52号土坑	C-E	C-L	50.0	45.0	15.0	15.0	砂質	82号土坑	C-E	K-5	36.0	32.0	1.8			
53号土坑	C-E	C-L	50.0	45.0	15.0	15.0	砂質	83号土坑	C-E	K-5	44.0	38.0	20.7			
54号土坑	C-E	C-L	50.0	45.0	15.0	15.0	砂質	84号土坑	C-E	K-5	68.0	45.0	12.0			
55号土坑	C-E	C-L	50.0	45.0	15.0	15.0	砂質	85号土坑	C-E	K-5	40.0	28.0	18.6			
56号土坑	C-E	C-L	50.0	45.0	15.0	15.0	砂質	86号土坑	C-E	K-5	42.0	40.0	18.6			
57号土坑	C-E	C-L	50.0	45.0	15.0	15.0	砂質	87号土坑	C-E	K-5	30.0	28.0	11.3			
58号土坑	C-E	C-L	50.0	45.0	15.0	15.0	砂質	88号土坑	C-E	K-5	24.0	21.0	17.0			
59号土坑	C-E	C-L	121.0	90.0	5.0	5.0	砂質・土質・鉄筋・鋳物類	89号土坑	C-E	K-5	68.0	20.0	27.9			
60号土坑	C-E	C-L	100.0	85.0	10.0	10.0	砂質・土質・鉄筋・鋳物類	90号土坑	C-E	K-5	68.0	65.0	23.1			
61号土坑	C-E	C-L	96.0	85.0	44.4			91号土坑	C-E	K-5	72.0	65.0	55.1			
62号土坑	C-E	C-L	104.0	105.0	14.0			92号土坑	C-E	K-5	95.0	95.0	13.1			
63号土坑	C-E	C-L	56.0	54.0	16.0	16.0	砂質・土質	93号土坑	C-E	I-5	(26.0)	(21.0)	32.0	32.0	32.0	32.0
64号土坑	C-E	C-L	94.0	66.0	17.0	17.0	砂質・土質	94号土坑	C-E	I-5	(50.0)	(22.0)	32.0	32.0	32.0	32.0
65号土坑	C-E	C-L	64.0	64.0	16.0	15.5	砂質・土質	95号土坑	C-E	I-5	92.0	95.0	21.7			
66号土坑	C-E	C-L	134.0	240.0	46.4			96号土坑	C-E	I-5	22.0	22.0	15.0	15.0	15.0	15.0
67号土坑	C-E	C-L	54.0	54.0	23.0			97号土坑	C-E	I-4	40.0	40.0	20.6			
68号土坑	C-E	C-L	79.0	68.0	22.0			98号土坑	C-E	I-4	(30.0)	(32.0)	18.7			
69号土坑	C-E	C-L	108.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	99号土坑	C-E	H-4	(30.0)	(20.0)	20.7			
70号土坑	C-E	C-L	106.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	100号土坑	C-E	H-4	(34.0)	(29.0)	13.2			
71号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	101号土坑	C-E	H-4	(40.0)	(30.0)	15.0			
72号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	102号土坑	C-E	H-4	(45.0)	(35.0)	20.7			
73号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	103号土坑	C-E	H-4	(50.0)	(32.0)	13.2	13.2	13.2	13.2
74号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	104号土坑	C-E	H-4	(50.0)	(30.0)	13.2			
75号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	105号土坑	C-E	H-4	(50.0)	(30.0)	13.2			
76号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	106号土坑	C-E	H-4	(50.0)	(30.0)	13.2			
77号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	107号土坑	C-E	H-4	(50.0)	(30.0)	13.2	13.2	13.2	13.2
78号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	108号土坑	C-E	H-4	(50.0)	(30.0)	13.2			
79号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	109号土坑	C-E	H-4	(50.0)	(30.0)	13.2			
80号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	110号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(34.0)	13.2			
81号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	111号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(30.0)	9.0	9.0	9.0	9.0
82号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	112号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(28.0)	9.0			
83号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	113号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(28.0)	9.0			
84号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	114号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(28.0)	9.0			
85号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	115号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(28.0)	9.0			
86号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	116号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(28.0)	9.0			
87号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	117号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(28.0)	9.0			
88号土坑	C-E	C-L	105.0	65.0	14.0	14.0	砂質・土質	118号土坑	C-E	H-4	(52.0)	(

第5表 土器銀祭表

第6表 器器観察表

固形	物語	部位	石材	鉄人(60kg)大標示	木大標示	重量(g)	備考
50	895	1号地	石板	黒雲母 (20.0)	14.0	4.5	(0.9) 別山有光。先端部・斜面欠損。
50	2063	b1号地(内側)	石板	黒雲母 (23.0)	14.5	2.9	(0.3) 同様地。先端部・斜面欠損。
50	2097	8号地(外側)	石板	黒雲母 (23.0)	12.8	4.1	(0.9) 同様有光(平行断面)。方柱・歪曲欠損。
50	7172	8号地(内側)	石板	黒雲母 (23.5)	14.7	3.5	0.9 四角柱。
50	7002	8号地(内側)	石板	黒雲母 (23.5)	13.1	1.0	0.6 同様無光。
50	7685	8号地(内側)	石板	黒雲母 (15.7)	11.5	2.5	(0.2) 同様無光。両端丸み欠損。
50	8235	8号地	石板	黒雲母 (14.0)	10.5	2.6	0.2 同様無光。
50	9018	8号地	石板	黒雲母 (23.0)	16.5	5.1	1.5 同様無光。部分中央の毛端も出土。
50	9377	8号地	石板	黒雲母 (22.0)	(3.5)	4.5	(1.0) 同様な形。少進出・凹凸・歪曲欠損。
50	10054	8号地(内側)	石板	黒雲母 (20.0)	16.0	4.6	1.1 同様無光。
50	10055	C1号地(内側)	石板	チャート (15.6)	12.3	2.8	0.4 同様無光。
50	10056	8号地	石板	黒雲母 (17.7)	(13.6)	3.3	(0.2) 同様無光。少進出・凹凸欠損。
50	10057	8号地	石板	黒雲母 (16.0)	14.7	2.0	(0.3) 同様無光。先端部・斜面欠損。
50	5868	8号地	黒雲母 断面	黒雲母 (18.2)	11.8	9.7	1.5 下端部に斜面欠損跡あり。同じ斜面を残す。
50	8376	8号地	黒雲母 断面	黒雲母 (14.2)	14.1	4.0	1.5 上下端部に斜面欠損跡あり。
50	9174	8号地	黒雲母 断面	黒雲母 (32.0)	39.5	11.5	12.9 上端部につけられ、斜面欠損跡あり。下端部に斜面欠損跡あり。一端に自然面を残す。
50	9298	8号地	黒雲母 断面	黒雲母 (33.1)	24.4	7.6	5.1 上下端部に斜面欠損跡あり。同じ斜面を残す。
50	9365	9号地	黒雲母 断面	黒雲母 (29.4)	23.0	6.8	2.5 同様無光。
50	10058	8号地	黒雲母 断面	黒雲母 (26.3)	18.4	4.3	1.6 上端部に斜面欠損跡あり。斜面に自然面を残す。
50	9598-2	8号地	黒雲母 断面	黒雲母 (27.2)	23.3	6.6	3.1 上端部に斜面欠損跡あり。斜面に自然面を残す。
50	5791	C1号地(外)	断面	黒雲母 (15.2)	21.6	5.1	6.4 同様無光(入出)。自然面を残す。
50	8979	8号地	削器	黒雲母 (7.8)	33.3	10.3	17.7 上面と底面へ反対へ下端部が刃部。上端部に斜面欠損状跡がある。刃部と斜面との隙間を作ら。
50	2196	C1号地(外)	刃工具の柄部	黒雲母	44.0	22.6	8.6 正面に一凹字跡によらえ使用形があり。背面に自然面を残す。削れ跡有。
50	7852	5号地(内側)	刃工具の柄部	黒雲母	72.4	24.5	20.5 35.1 正面に凹字跡があり。背面に自然面を残す。
50	2206	C1号地(外)	石核	黒雲母	30.0	50.2	22.0 9.7 2段階に2面削り跡あり。正面に自然面を残す。
51	6655	4号地(内側)	石核	黒雲母	14.0	21.7	30.5 8.1 各面削り跡(2面)の削除をしてる。大分布! 直面面不均。
51	10049	8号地	石核	黒雲母	25.0	26.4	32.0 17.0 打削面が再生成されている。大部分に自然面を残す。
51	2015	2号地(内側)	石核	黒雲母	37.0	24.0	14.8 12.3 上面上から2つ(2面)の削除はほんとくさくないので、直面を削り出したのではなく、削除到達の可否性ある。背面に自然面を残す。
51	8086	8号地	石核	黒雲母	41.0	43.0	30.7 13.1 斜削りの作業葉は正面1面のみ。火消の剥片を削除した後は小さな切れ込み、心配いは削除到達した感じで2次削除作業が終了している。同時に小削除跡ある。下端部の削除、削れ。人跡に自然面を残す。
51	140	6号地(内)	打削石核	ホルンブリルス	109.0	43.5	13.0 65.1 1面削り跡削除。
51	909	1号地	打削石核	ホルンブリルス	14.0	46.0	19.5 79.3 1面削除。
51	5016	4号地(内側)	打削石核	透灰岩	119.0	52.5	23.0 106.8 亂れ。
51	2130	2号地(内側)	打削石核	透灰岩	129.0	36.5	17.0 180.0 亂れ。逆に自然面を残す。
51	7234	6号地	打削石核	ホルンブリルス	114.5	72.0	18.7 162.1 亂れ。逆に自然面を残す。
51	8061	6号地(内側)	打削石核	ホルンブリルス	117.0	54.5	30.0 146.1 亂れ。逆に自然面を残す。
52	86	8号地(外)	打削石核	ホルンブリルス	113.0	52.5	13.0 62.2 亂れ。
52	93	8号地(外)	打削石核	ホルンブリルス	127.0	47.0	20.0 142.6 亂れ。
52	277	Rd.地(外)	打削石核	ホルンブリルス	(11.0)	(55.5)	(26.0) 144.5 折れ。刃部欠損。
52	755	7号地	打削石核	ホルンブリルス	196.0	66.0	186.0 (163.0) 亂れ。刃部欠損。
52	271	9号地	打削石核	ホルンブリルス	21.0	44.0	17.0 29.1 亂れ。
52	4278	1号地(外)	打削石核	ホルンブリルス	175.0	69.0	27.0 214.6 亂れ。逆に自然面を残す。
52	8022	4号地(内側)	打削石核	ホルンブリルス	108.0	62.5	15.0 126.5 亂れ。
52	5667	7号地	打削石核	ホルンブリルス	(109.0)	53.0	24.1 (164.0) 亂れ。刃部欠損。
52	8891	9号地	打削石核	頁岩	(96.5)	(44.0)	(18.0) (99.5) 亂れ。刃部欠損。
52	10061	C1号地(外)	人形顎輪の芯	透灰岩	130.0	25.0	25.5 193.6 亂れ。
52	6002	C1号地(外)	大削剥起石核	ホルンブリルス	55.0	87.0	12.0 38.8 剥離。
52	7775	C1号地(外)	剥離石核	ホルンブリルス	(66.0)	(45.0)	(24.0) (138.4) 刃部欠損。刃部先端につぶれが確認できるので、範囲に用ひられていた。
52	8329	4号地(内側)	剥離石核	透灰岩	(58.0)	(60.5)	(23.5) (144.2) 断面剥離。
52	9532	8号地	剥離石核	透灰岩	87.0	(21.5)	6.0 (16.0) 小型。上端が丸頭。下端の分岐一部欠損。
52	9696	6号地	剥離石核	透灰岩	(64.0)	24.0	12.0 (58.8) 小型。刃部欠損。側面に剥離跡あり。底面平ら。
53	337	9号地	透灰岩石核	透灰岩	(55.5)	(69.5)	(11.2) (45.1) 亂れ。
53	10062	C1号地(外)	模様剥起石核	ホルンブリルス	25.0	(19.0)	30.0 (485.0) 亂れ。刃部欠損。
53	3824	3号地(内側)	剥離石核	透灰岩	131.0	92.0	6.0 743.0 正面に凹み2箇所。裏面に凹み2箇所。上面に転落凹窓。
53	6082	8号地(内側)	磨擦石	安山岩	126.0	76.5	6.6 678.0 正面に凹み2箇所。右側面に凹み2箇所。裏面に凹み2箇所。
53	8085	5号地(内側)	磨擦石	安山岩	127.0	65.5	51.5 495.0 正面に凹み2箇所。裏面に凹み2箇所。
53	9551	2号地(内側)	磨擦石	脱灰岩	112.b	84.5	59.5 599.0 正面に凹み2箇所。右側面に凹み2箇所。裏面に凹み3箇所あり。
53	51063	8号地(内側)	磨擦石	安山岩	(119.0)	70.0	60.0 (680.0) 正面に凹み2箇所。右側面に凹み2箇所。裏面に凹み3箇所あり。
54	179	6号地	磨擦石	安山岩	126.0	58.0	62.5 750.0 正面に凹み2箇所。心臓部に凹み2箇所。右側面に凹み3箇所あり。
54	4262	b1号地(外)(方柱)	磨擦石	安山岩	124.0	98.0	55.0 662.0 正面に凹み2箇所。裏面に凹み2箇所。上面に凹み2箇所。
54	6029	8号地	磨擦石	安山岩	94.5	62.0	45.0 351.4 正面に凹み2箇所。裏面に凹み2箇所あり。
54	8435	6号地	磨擦石	安山岩	91.0	70.0	41.0 331.0 正面に凹み2箇所あり。
54	8500	7号地	磨擦石	安山岩	112.0	68.0	48.0 500.0 正面に凹み2箇所。裏面に凹み2箇所。
54	9204	9号地	磨擦石	安山岩	108.0	87.0	66.0 598.0 工程に2号地・3号地。裏面に凹み2箇所あり。
54	9525	8号地	磨擦石	安山岩	112.0	102.0	58.5 760.0 工程に2号地・3号地。裏面に凹み2箇所あり。
54	10084	9号地	磨擦石	安山岩	118.b	66.0	45.5 365.4 正面に凹み2箇所。裏面に凹み2箇所。
55	198	8号地(外)	磨擦石	安山岩	141.0	93.0	61.0 191.3 正面に凹み2箇所。右側面に凹み2箇所。裏面に凹み3箇所あり。
55	254	9号地	磨擦石	安山岩	114.0	87.0	78.0 1,050.0 正面に凹み2箇所(小さな凹みのみの重なり)。上面に凹み2箇所。

第6表 石器観察表

固形・被物番号	山上位置	岩種	石材	块大長(m)	块大幅(m)	块大厚(mm)	重量(g)	備考
56 3126	1号施設(山内)	磨石類	安山岩	14.0	85.0	50.5	532.0	正面に凹み3箇所、裏面に上み3箇所があり。
55 6046	6号別室(山内)	磨石類	安山岩	100.0	60.0	46.0	387.0	正面に凹み3箇所、右側面に凹み3箇所、裏面に凹み3箇所あり、下端丸欠。
59 9220	8号室	磨石類	安山岩	109.0	56.0	50.5	590.0	正面に凹み3箇所、裏面に凹み3箇所があり。
59 10065	7号室	磨石類	安山岩	103.5	79.5	50.0	495.0	正面に凹み2箇所あり。
55 10065	1号施設	磨石類	安山岩	136.5	79.0	60.0	813.0	正面に凹み3箇所、右側面に凹み2箇所、左側面に凹み1箇所、下端に断面打痕有り。
56 436	14号室	磨石類	安山岩	87.0	86.0	84.0	630.0	正面に凹み3箇所、右側面に凹み3箇所あり。
56 2006	14号室	磨石類	磨灰岩	152.0	39.0	44.0	95.0	正面に凹み2箇所あり。
56 2821	1号施設(山内)	磨石類	安山岩	96.0	90.0	67.0	615.0	正面に凹み2箇所、裏面に凹み1箇所あり。
55 3831	2号施設(山内)	磨石類	安山岩	101.0	82.0	49.0	510.0	正面に凹み2箇所、裏面に凹み2箇所あり。
55 8648	6号室	磨石類	安山岩	123.5	78.0	55.0	873.0	正面に凹み3箇所、右側面に凹み2箇所、裏面に凹み1箇所あり。
56 10067	17号室	磨石類	安山岩	130.0	91.5	49.5	620.0	正面に凹み3箇所、右側面に凹み2箇所、裏面に凹み1箇所あり。
55 10068	7号室	磨石類	安山岩	113.5	77.0	52.0	555.0	正面に凹み2箇所、裏面に凹み4箇所あり。
56 650	1号室	磨石類	磨灰岩	123.5	54.0	41.0	342.2	正面に凹み1箇所、刀削面を確認している。
56 717	1号室	磨石類	カルシシドマリ	60.0	65.0	39.0	219.2	正面に凹み2箇所の判明。
57 7225	9号室	石斧	安山岩	94.0	115.5	50.5	72.0	正面に心形の凹部があり、一部に小斜めから、機械的可能性あり。
57 459	9号室	石斧	安山岩	(134.0)	(80.0)	(7.0)	1,010.0	2つの刃が合致する。
57 2825	1号施設(山内)	石斧	安山岩	(182.0)	(244.0)	(86.0)	12,480.0	正面に凹み1箇所あり、上に斧身有り。
57 10069	6号室	石墨	安山岩	(183.0)	(196.0)	(51.0)	(1,000.0)	正面に凹み1箇所あり、斧身に凹み1箇所あり。上に斧頭有り。
57 10070	9号室	石墨	安山岩	207.0	186.0	86.0	4,310.0	正面に凹み1箇所あり。
57 10073	5号室	石墨	安山岩	182.0	172.0	62.0	2,050.0	正面に凹み2箇所あり。
57 6084	5号施設(山内)	多孔石	安山岩	199.5	198.5	81.0	2,880.0	正面に凹み2箇所あり。
57 10071	8号室	多孔石	安山岩	177.5	105.0	102.5	2,580.0	正面に凹み2箇所、右側面に凹み2箇所。
57 10072	9号室	多孔石	安山岩	269.5	151.0	96.0	3,750.0	正面に凹み3箇所、右側面に凹み4箇所。
62 10052	1号室	可調石斧	砂岩	20.0	92.0	38.0	676.0	石斧、斧柄、裏面が自然面を有り、斧先中央の縦粗さ溝の近くから出る。
85 10053	8号室	砾石	砂岩	(160.0)	(169.0)	(108.0)	(2,200.0)	作業面は横断に3条線でいい、周辺が欠損している。宁波近辺から出土。

第7表 5号周溝墓埋葬主体部山上品観察表

固形・被物番号	出土位置	岩種	石材	块大長(m)	块大幅(m)	块大厚(mm)	重量(g)	備考
58 9553	埋葬主体部中央や右側面有り	铁錠	铁	655.0	37.0	7.0	386.0	刃付根元をもつ粗茎の鉄錠。刃身は約30mm×幅10~20mm、刃の後縁は、正面と裏面の一部に鋸歯の状態が見られる。背面は丸く、正面が「」になって出土した。7箇所で折れている。
69 9681	埋葬主体部中央	铁錠	铁	102.0	81.0	50.0	156.0	埋葬前後、厚さ2mmの断面形三角形の本体を螺旋状に巻き上げている。巻き上げ数は18回で、上下に頭部が折れている。土色では手にならなくなっている。表面の一部に付着物がある。鐵錠外側に鍛をもつ。下首側の横幅は78mm。
69 10074	埋葬主体部南西側	ガラス球	ガラス	(b.a)	(b.0)	(3.0)	(0.0890)	ガラス球の破片。アルカリ石灰ガラス、一部にガラス王の波面があり。内表面が残る。引き押出し技術により製作された。他の3点とも青緑色。
69 10075	埋葬主体部南側	ガラス球	ガラス	(4.5)	(3.9)	(7.5)	(0.0332)	ガラス玉の破片。アルカリ石灰ガラス、一部にガラス王の波面がある。引き押出し技術により製作された。
69 10076	埋葬主体部南東側	ガラス球	ガラス	(4.1)	(3.8)	(2.6)	(0.0354)	ガラス玉の破片。アルカリ石灰ガラス、一部にガラス王の波面がある。引き押出し技術により製作された。
69 10077	埋葬主体部南東側	ガラス球	ガラス	(4.5)	(2.8)	(2.7)	(0.0384)	ガラス玉の破片。アルカリ石灰ガラス、一部にガラス王の波面があり。内表面が残る。引き押出し技術により製作された。

第8表 旧石器時代石器属性表

固形・被物番号	代紀	器種	石材	採集地帯	加工方法	工具打痕形態	直角D(mm)	直角W(mm)	直角H(mm)	石材技術	直角E(mm)	直角S(mm)	直角L(mm)	直角B(mm)	直角A(mm)	直角G(mm)	直角F(mm)	直角J(mm)	直角I(mm)	直角C(mm)	直角D(mm)	直角E(mm)	直角F(mm)	直角G(mm)	直角H(mm)	直角I(mm)	直角J(mm)	直角K(mm)	直角L(mm)	直角M(mm)	直角N(mm)	直角O(mm)
17 1	B	ナイフ	石片	磨擦石山群	刃口加工なし	刃面	6.7	90	57	B区	47.4	35.7	10.2	16.7																		
17 2	15	ナイフ	石片	磨擦石山群	刃口加工なし	刃面	Z	Z	Z	HDI	B区	49.0	35.6	14.5	12.0																	
17 3	6943	刃口	石片	一	なし	なし	0.9	110	57	C区	94.5	36.0	13.5	34.8																		
17 4	94	使用印刷片	磨擦石	磨擦石山群	なし	なし	Z	Z	Z	BTP	B区	56.7	27.4	9.9	19.4																	
17 5	9098	剥離側片	石片	水島	なし	なし	Z	Z	Z	HDI	C区	33.3	12.3	4.8	1.4																	
17 6	6	剥離-刃口	石片	磨擦石山群	刃口	なし	Z	Z	Z	HVD	B区	41.0	23.0	11.4	9.3																	
17 7	6129	刮削印刷片	石片	磨擦石山群	刃口	なし	MF	下打研磨	6.5	110	STD	C区	88.7	29.0	16.1	15.9																
17 8	試作	脱刃-剥離片	石片	磨擦石山群	なし	MF	年月(多摩園)	5	110	STD	C区	45.0	37.4	13.9	23.5																	
17 9	1950	剥離側片	石片	磨擦石山群	なし	なし	平滑	9	90	STL	B区	37.7	22.7	6.7	6.1																	
17 10	78	45-	磨擦片	磨擦石山群	なし	なし	溝跡	2.9	95	STL	B区	69.0	49.5	29.1	31.8																	
17 11	106	刃口成形側片	石片	磨擦石山群	なし	なし	平滑	2.1	95	STL	B区	52.7	45.9	19.7	17.5																	
17 12	119	剥離片	石片	磨擦石山群	なし	なし	大穴	2	Z	平打	STL	37.6	25.5	7.4	4.5																	
17 13	476	刮削-刃口片	石片	磨擦石山群	なし	なし	刃口	Z	Z	HDI	三区	19.9	24.0	5.7	1.8																	
17 14	14	刮削片	石片	磨擦石山群	なし	なし	刃口	Z	Z	刃口	不規	三区	31.1	17.4	5.6	1.3																
17 15	643	刮削片	石片	磨擦石山群	なし	なし	手研	9.1	100	HID	B区	15.5	28.1	9.1	3.2																	
17 16	10301	刮削片	石片	磨擦石山群	なし	なし	手研	7.1	100	HIV	C区	36.7	23.5	13.0	6.0																	
17 17	17	刮削片	石片	磨擦石山群	なし	なし	大ね	Z	Z	HDI	C区	50.8	38.5	17.6	19.7																	
17 18	1949	二重刃-側片	石片	磨擦石山群	なし	なし	手研	Z	Z	HDI	B区	47.1	29.0	13.9	17.3																	
17 19	9658	剥離片	石片	磨擦石山群	なし	なし	手研	17.4	110	HID	C区	36.0	31.6	10.4	11.8																	
17 20	374	剥離片	石片	磨擦石山群	なし	なし	Z	Z	Z	HDI	B区	38.9	21.0	7.8	7.4																	

資料による可能性あり

第9表 頭無A遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究室 年間通番	分析番号	整理番号	推定産地
MK09-00109	KKN-1	6	蓼科冷山群
MK09-00110	KKN-2	8	蓼科冷山群
MK09-00111	KKN-3	15	蓼科冷山群
MK09-00112	KKN-4	74	蓼科冷山群
MK09-00113	KKN-5	78	蓼科冷山群
MK09-00114	KKN-6	94	蓼科冷山群
MK09-00115	KKN-7	119	蓼科冷山群
MK09-00116	KKN-8	300	蓼科冷山群
MK09-00117	KKN-9	374	蓼科冷山群
MK09-00118	KKN-10	456	蓼科冷山群
MK09-00119	KKN-11	643	蓼科冷山群
MK09-00120	KKN-12	1949	蓼科冷山群
MK09-00121	KKN-13	1950	蓼科冷山群
MK09-00122	KKN-14	8129	諏訪星ヶ台群
MK09-00123	KKN-15	9205	諏訪星ヶ台群
MK09-00124	KKN-16	9600	蓼科冷山群
MK09-00125	KKN-17	扯源1	諏訪星ヶ台群
MK09-00126	KKN-18	扯源2	蓼科冷山群

推定結果表の見方

右側の表：判別図法によって推定された産地

判別分析と結果が異なるときは“*”をつけて示す。

判別分析：第1候補産地…判別分析により選定された産地の第1候補

第2候補産地…判別分析により選定された産地の第2候補

判別群

候補産地記号

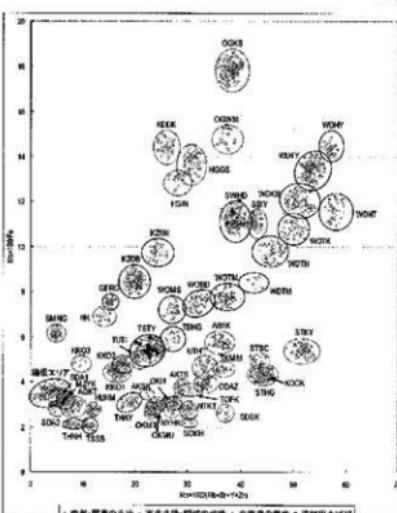
→ 判別図法による産地と通常は一致する。

試料から候補産地までのマハラノビス距離

→ 値が小さいほど候補産地と類似性が高い。

試料が候補産地に属する確率

→ 1に近いほど類似性が高い。



第92図 黒曜石産地推定判別図1

判別図法による推定結果と判別分析による推定結果

判別図 判別群	判別分析					
	第1候補産地		第2候補産地			
判別群	距離	確率	判別群	距離	確率	
TSTY	TSTY	1.57	1	TSHG	31.25	0
TSTY	TSTY	3.23*	1	TSHG	31.2	0
TSTY	TSTY	4.46*	1	TSHG	29.66	0
TSTY	TSTY	17.27	0.92	TSHG	27.46	0.0008
TSTY	TSTY	1.35	1	TSHG	27.95	0
TSTY	TSTY	0.73	1	TSHG	24.45	0
TSTY	TSTY	7.38	1	TSIG	27.76	0
TSTY	TSTY	2.25	1	TSIG	28.12	0
TSTY	TSTY	0.76	1	TSIG	26.3	0
TSTY	TSTY	2.6	1	TSIG	28.43	0
TSTY	TSTY	9.31	1	TSIG	41.78	0
TSTY	TSTY	0.97	1	TSIG	19.24	0
TSTY	TSTY	2.15	1	TSIG	28.69	0
SWHD	SWHD	5.96	1	WDTN	121	0
SWHD	SWHD	6.19	1	SBYI	130.56	0
TSTY	TSTY	3.36	1	TSIG	20.66	0
SWHD	SWHD	18.63	1	SBYI	80.85	0
TSTY	TSTY	12.04	1	TSHG	53.87	0

第93図 黒曜石産地推定判別図2

第12表 繩文土器遺構別内訳表

第12表 細文十器選擇別内装表

機器名	中級品			子級品下			子級品			中級品			高級品		
	開栓	取扱	取扱	開栓	取扱	取扱	開栓	取扱	取扱	開栓	取扱	取扱	開栓	取扱	取扱
2脚式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2脚式-ハ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3脚式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4脚式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.7JG-1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.7JG-1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3脚式-ハ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4脚式-ハ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5脚式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6脚式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2脚式-ル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3脚式-ル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4脚式-ル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.7JG-1ル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.7JG-1ル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5脚式-ル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6脚式-ル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.9JG	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4.7JG	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5.9JG	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6.9JG	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
A1300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
B1300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
C1300	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	105.9	14.6	32.2	31.2	31.2	30.0	30.9	30.9	30.9	27.0	26.9	26.9	26.9	26.9	26.9

第13表 弥生土器遺構別内訳表

測定名	土器						器形						合計	
	直徑		底径		高さ		直徑		底径		高さ			
	直	横	直	横	直	横	直	横	直	横	直	横		
1号件	131	59			1								192	
	120.4	44.3			7.9								148.8	
3号住	1	1			5.1						1	6.5	6	
	11.3	3.7			7.2								30.7	
5号住	2	1			1								9	
	49.3	8.5			11.6								61.0	
6号牛			5								1		7	
	30.0	17.1									18.0		10.0	
7号牛												2.5	2.9	
8号住	4												4	
	23.8												22.8	
9号住	5	2			1								9	
	47.6	35.3			3.6								52.1	
10号住			2										2	
			15.2										15.2	
11号仁	34	16							3			1	36	
	26.7	12.3							17.9			12.0	33.9	
2号1灰	1												1	
	8.6												8.6	
9号土器	2.5												1	
													2.5	
10号土器	3												1	
	15.2	8.6											15.1	
35号1灰	109.1	72											109	
	100.0	48.2											268.2	
16号1灰	1												1	
	19.7												19.7	
6号ビット	34.5												34.5	
10号ビット	2												2	
2:セセツ	1												1	
23号ビット	3.5												3.5	
28号ビット	2												2	
109号ビット			8	1									7.7	
			0.5	0.6									0.6	
110号ビット					1							1	17.3	
17号清瀬(青6)	2											1	3	
	35.0												35.0	
17号清瀬(青6)													1	
2号清瀬(青6)					1	1					2		3.0	
					23.4	14					23.7		268.3	
3号清瀬(青6)													1	
4号清瀬(青6)	1											1	2	
	6.1												6.1	
5号清瀬(青6)	23	33	5	1	8	1				2	3	57		
	22.0	32.9	10.4		12.0	18.2	3.2			203.5	18.6		1042.5	
5号清瀬(青6)	16	6	1										16	
	22.0	8.5	2.1										22.1	
5号清瀬(青6)	19				10							10	21.7	
	22.0	107.3			162.6							17.4	370.6	
2号清瀬(青6)	1	3											4	
	37.1	26.7											13.4	
6号清瀬(青6)	4	1							1	1		7	7	
	49.3	38.1						46.0		49.6			224.5	
7号清瀬(青6)	2												4	
	34.6												34.6	
8号清瀬(青6)			1										1	
			219.0										219.0	
1号鏡石	1	1											2	
	3.8	1.8											5.6	
2号灰	1												1	
	1.8												1.8	
4号灰	11												11.4	
	35.5	15.7	0.5	1.5	1.9					2.9	26.2	20.6	150.4	
A区透構外	72	35	1										99	
	85.5	22.2	4.5										782.1	
B区透構外	6												6	
	45.5												45.5	
C区透構序	37	9	1	1	1							4	15.4	
	315.5	158.4	3.8	16.8							32.0		533.4	
合計	578	368	2	1	14	2	29	10	1	6	1	2	973	
	519.8	424.0	18.6	23.4	320.4	13.9	299.7	203.3	96.0	97.8	90.4	5.8	1369.4	

上段: 組数(箇), 下段: 重量(g)

図版 1



A区近景（北から）



B区北側近景（北から）



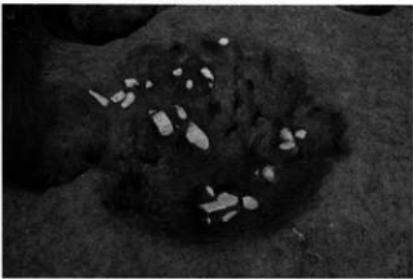
C区北側近景（南から）



C区南側近景（北から）



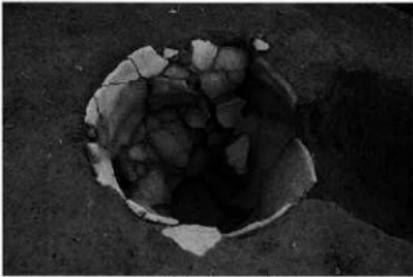
6号住居跡



6号住居跡 炉

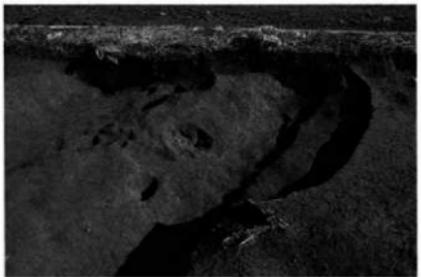


6号住居跡 1号埋甕



6号住居跡 2号埋甕

图版 2



7号住居跡



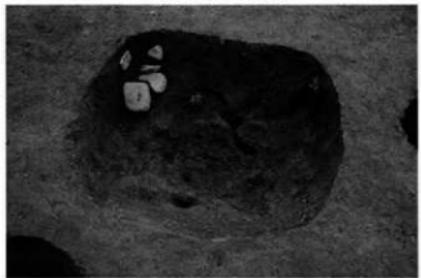
7号住居跡 炉



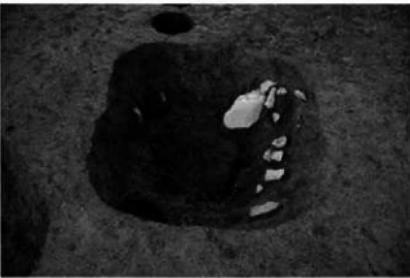
7号住居跡 埋甕



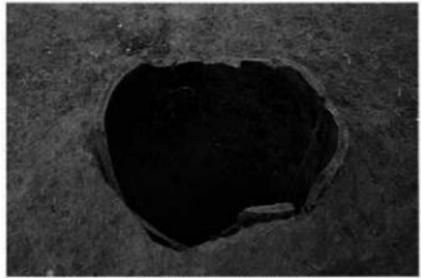
8号住居跡



8号住居跡 1号炉



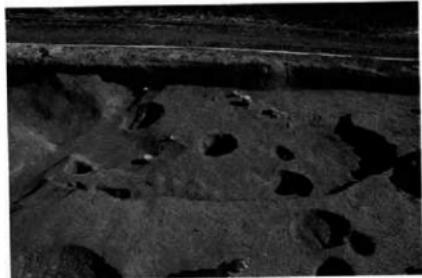
8号住居跡 2号炉



8号住居跡 1号埋甕



8号住居跡 2号埋甕



9号住居跡



9号住居跡 炉



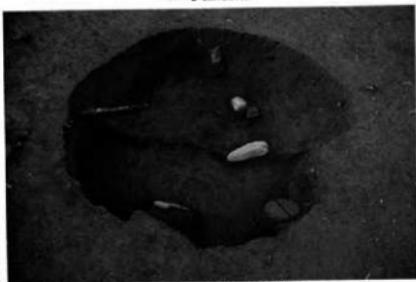
9号住居跡 埋壺



11号住居跡



11号住居跡 炉



55号土坑 遗物出土状况



55号土坑 埋設土器出土状况①



55号土坑 埋設土器出土状况②

図版 4



1号組石遺構周辺 遺物出土状況①



1号組石遺構周辺 遺物出土状況②



1号組石遺構①



1号組石遺構②



1号周溝墓（北から）



2号（奥）・3号（手前）周溝墓（東から）



4号周溝墓①（南から）



4号周溝墓②（北から）



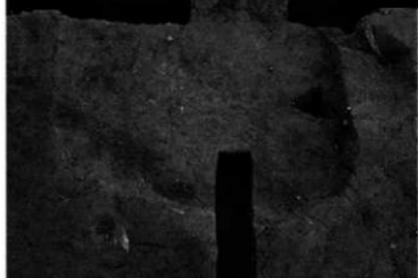
5号周溝墓①（西から）



5号周溝墓②（南から）



5号周溝墓 埋葬主体部②（東から）



5号周溝墓 埋葬主体部①（北から）



5号周溝墓 埋葬主体部③（南東から）



鉄剣（手前）と鉄剣（奥）①



鉄剣（左）と鉄剣（右）②

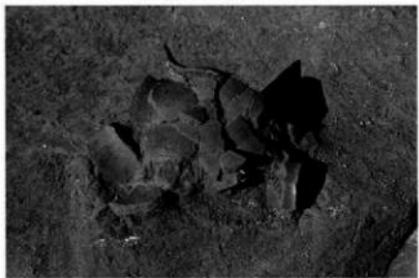
圖版 6



5号周溝墓 鐵劍出土狀況



5号周溝墓 鐵劍出土狀況



5号周溝墓 壺出土狀況



6号周溝墓



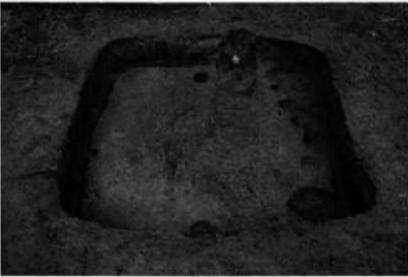
7号周溝墓



7号周溝墓 壺出土狀況



8号周溝墓



1号住居跡



1号住居跡 カマド



2号住居跡



3号住居跡



3号住居跡 カマド



4号住居跡



4号住居跡 カマド

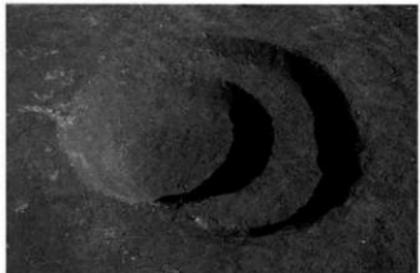


5号住居跡

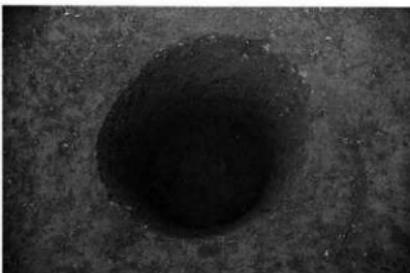


5号住居跡 カマド

図版 8



5号土坑



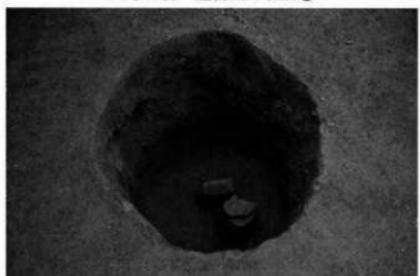
9号土坑



54号土坑 遺物出土状況①



54号土坑 遺物出土状況②



61号土坑



6号溝

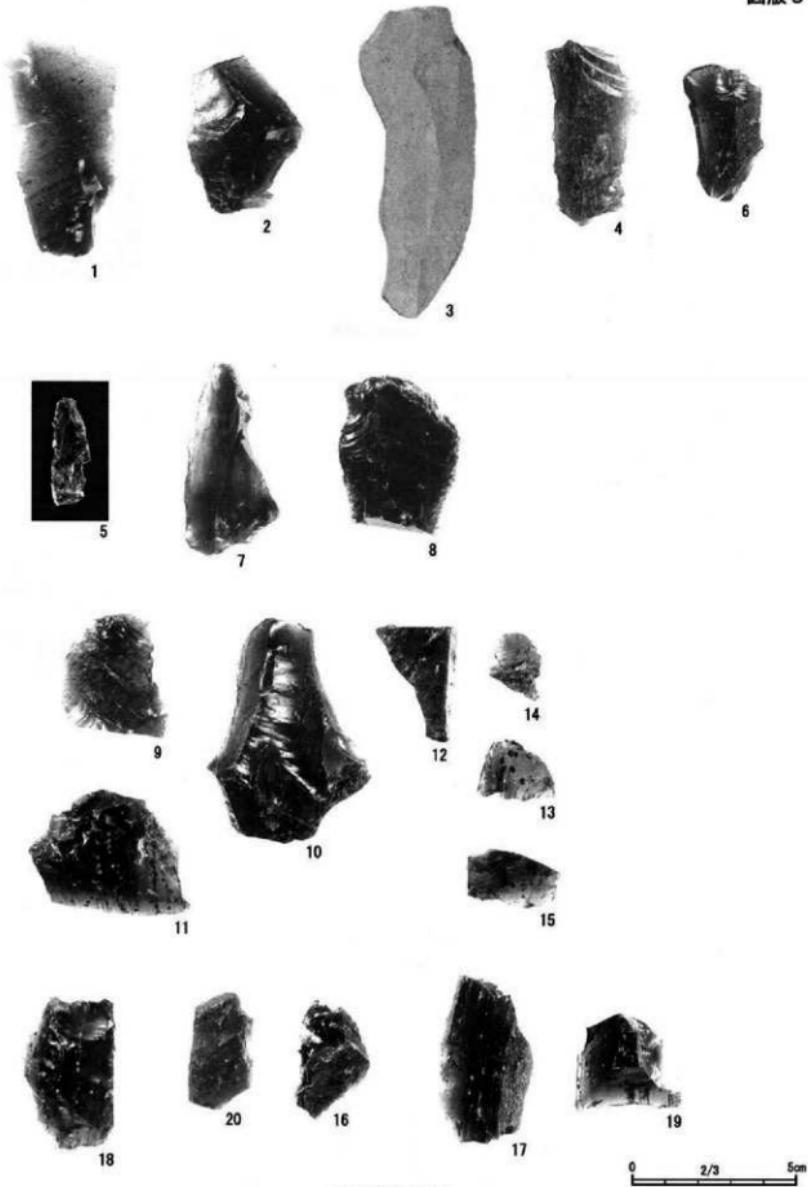


B区 土坑・ビット群



C区 土坑・ビット群

図版9



旧石器時代石器

図版10



6号住 1号埋壺 (9451)



6号住 2号埋壺 (9538)



6号住 (8904)



7号住 埋壺 (9667)



9号住 埋壺 (9539)



8号住 1号埋壺 (9597)



8号住 2号埋壺 (9598)



8号住 1号ピット (9531)



8号住 (9541)



8号住 (9542)



8号住 (8959)



55号土坑(9259)



55号土坑出土土器



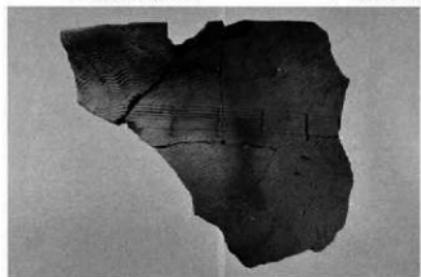
5号周溝墓(8593)



7号周溝墓(9668)



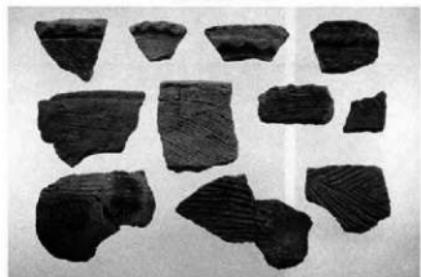
6号周溝墓(7213)



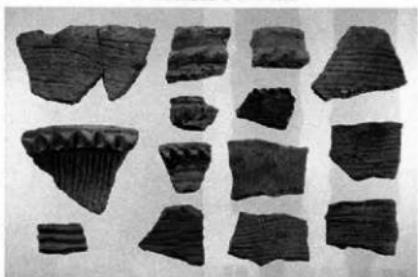
8号周溝(2262)



2号周溝墓出土土器

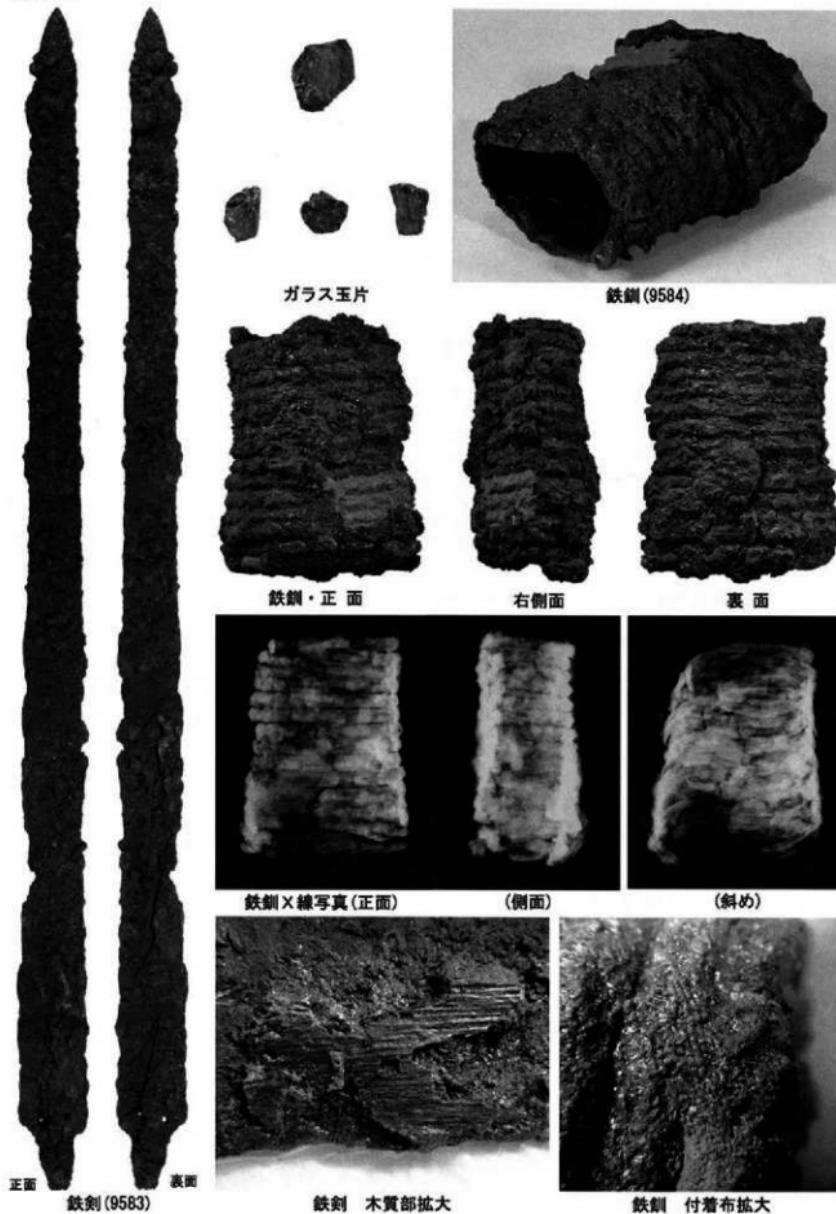


遺構外出土弥生土器①



遺構外出土弥生土器②

図版12



報告書抄録

ふりがな	かしらなしえーいせき
書名	頭無A遺跡
副書名	中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
卷次	
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	32
編著者名	村松佳幸 角張淳一 善名貴彦
編集機関	北杜市教育委員会
所在地	〒408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1 TEL 0551-42-1373
発行年月日	西暦 2008年3月31日

所収遺跡名	所収遺跡名 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
頭無A遺跡	山梨県北杜市長坂 町原川地内	192091	4117	35° 49' 05"	138° 23' 31"	20061016～ 20070222	2,600	中山間活性化 ふれあい 支援農道整 備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
			主な遺構	主な遺物		
頭無A遺跡	散布地 集落跡	旧石器 縄文	なし 中期後半の竪穴住居跡5 軒、上坑11基、ピット1 基、炉跡1基	旧石器 縄文土器、石器、土偶、 土鉢、土鍬、漆成粘土塊	5号周溝墓に堆葬主体部 が残り、そこから鉄劍・ 鉄劍・ガラス瓦片が出土	
	集落 跡・そ の他の 墓 集落跡	弥生	中期の縄石遺構1基、中期 の上坑1基、後期の周溝墓 8基	弥生土器、石器、鐵劍、 鉄劍、ガラス瓦片		
	平安	昭和後半	昭和後半の竪穴住居跡6軒	平安土器、須恵器、灰 釉陶器、土鍬、刀子		
	不明	弥生時代中期	上坑55基、ピット129基、溝 7条、竪穴状遺構1基			

要約	旧石器時代の散布地 縄文時代中期後半の集落跡 弥生時代中期の集落跡 弥生時代後期の墓域 平安時代の集落跡
----	--

北杜市埋蔵文化財調査報告第 32 集

頭無 A 遺跡

2008 年 3 月 25 日 印刷
2008 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 北杜市教育委員会
〒408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1
TEL 0551-42-1111(代)

印 刷 須玉印刷
〒408-0112 山梨県北杜市須玉町若神子 3931
TEL 0551-42-2346

